

10.9 動物

調査区域には動物の重要な種及び注目すべき生息地が存在し、土地または工作物の存在及び供用として道路（地表式または嵩上式）の存在に係る影響、工事の実施として工事施工ヤードの設置に係る影響、工事中道路等の設置に係る影響、建設機械の稼働に係る影響が考えられるため、動物の調査、予測及び評価を行いました。

10.9.1 道路（地表式または嵩上式）の存在、建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事中道路等の設置に係る動物

1) 調査結果の概要

(1) 調査した情報

調査した情報は以下のとおりです。

a) 動物相の状況

b) 重要な種等の状況

- ・重要な種等の生態及び分布の状況
- ・重要な種等の生息の状況
- ・重要な種等の生息環境の状況

(2) 調査の手法

a) 動物相の状況

(a) 既存資料調査

動物相の状況の既存資料調査は、一般公開されている調査区域に生息記録のある最新年次の調査資料等の収集により整理しました。

(b) 現地調査

動物相の状況の現地調査の調査手法を表 10.9.1-1 に示します。調査地点及び踏査ルートを公表することにより、重要種が確認された地点がより限定され、採集により種の減少が懸念されるため、調査地点図及び踏査ルート図は非公表とします。

表 10.9.1-1(1) 動物の調査の手法

調査項目	調査方法	
哺乳類	直接観察及びフィールドサイン法 (自動撮影装置の設置を含む)	<p>哺乳類は、生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域内の樹林地、草地、農耕地、河川及び市街地・集落を網羅できるように任意に踏査し、確認した足跡、糞、食痕等のフィールドサインの位置や確認状況を記録したほか、目視確認した種も記録した。</p> <p>また、赤外線を用いた自動撮影カメラを、けもの道等の哺乳類の移動空間と想定される地点に設置し、主に夜間に出現する哺乳類の記録を行った。カメラの設置数は10調査地区に2台/1地区で計20台、各調査季に1晩以上設置した。</p>
	トラップによる捕獲	<p>シャーマントラップ(生け捕り罠)を用いて、主にネズミ類の捕獲確認を行った。シャーマントラップはピーナッツ、ソーセージ、サツマイモ等を餌として、10調査地区に20個/1地区で計200個を設置し、翌朝に回収した。捕獲した個体は、種名、個体数を記録し、写真撮影後速やかに放獣した。</p>
	バットディテクターによるコウモリ類の生息状況把握	<p>コウモリ類が活発に活動する日没前後から、コウモリ類の出現が見込まれる場所において、バットディテクター(コウモリ探知機)によりコウモリ類の発する超音波を識別し、位置、周波数、確認状況等を記録した。調査は春季、夏季、秋季の3回実施した。</p>
鳥類 (一般鳥類)	直接観察	<p>鳥類は、生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ調査地域内の樹林地、草地、農耕地、河川及び市街地・集落を踏まえて広く踏査し、目視及び鳴き声より確認した鳥類の種名、確認方法等を記録した。</p>
	ラインセンサス法	<p>調査地域内の代表的な調査地区にセンサスルートを設置し、鳥類の活動が活発な早朝にルートを時速1.5km/h程度で歩き、片側25m程度の範囲に出現した個体を目視及び鳴き声より確認し、種名と個体数を記録した。センサスルートは計9ルート設定した。</p>
	定点観察法	<p>調査地域を広域に見通せる場所に定点観察地点を設定し、その場所に一定時間(30分程度)とどまり、周辺に出現した個体を双眼鏡(倍率:7~10倍程度)及び望遠鏡(倍率:20~60倍程度)を用いて確認し、種名、個体数、行動等を記録した。定点は計10地点設定した。</p>
	フクロウ類を対象とする夜間調査	<p>夜間調査を実施し、目視や鳴き声によりフクロウ類の確認を行った。調査は冬季、春季、初夏、秋季の4回実施した。</p>

表 10.9.1-1(2) 動物の調査の手法

調査項目	調査方法	
鳥類 (猛禽類)	営巣可能性調査	猛禽類の営巣の可能性を確認するため、調査地域及びその周辺に分布する樹林地を踏査し、構成樹種、樹高、林内空間などの樹林環境、ワシ・タカ類の鳴き声等の確認を行った。調査は非繁殖期もしくは求愛期・造巣期（繁殖期初期）に行った。
	定点調査	調査地域及びその周辺の営巣箇所において、1 営巣箇所あたり 3 定点を設定し、その場所から双眼鏡（倍率：7～10 倍程度）及び望遠鏡（倍率：20～60 倍程度）を用いて、ワシ・タカ類を対象に、出現個体の飛翔ルート、止まり位置、指標行動を観察・記録したほか、個体識別に必要な個体の特徴を可能な限り記録した。調査は8時～16時の時間帯を基本とし、出現状況に応じて、定点の変更等を適宜行った。
	繁殖状況調査	定点調査等の結果を基に、営巣の可能性が高い地域の林内を踏査し、営巣木の所在の確認を行なった。営巣木の確認時は、確認位置、巣の特徴、利用状況等を記録した。また、必要に応じてビデオ撮影を行い、確認した巣の利用状況を確認した。調査は抱卵期・育雛期に実施した。
両生類	直接観察	両生類は、生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域内の池、沼、溜まり、湿地、湧水箇所、側溝、樋門・樋管、水田、草むら等の環境を任意に踏査し、捕獲及び目視確認した卵塊、幼生、幼体、成体及び死体等を識別し、確認場所の状況と合わせて記録した。
爬虫類	直接観察	爬虫類は、生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、日中に潜む場所や日光浴をする場所、餌動物が多数生息する採餌場所等を網羅できるように任意に踏査し、捕獲及び目視確認した幼体、成体及び死体等を識別し、確認場所の状況と合わせて記録した。
昆虫類	直接観察及び採取	昆虫類は、生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域内の樹林地、草地、農耕地、河川及び市街地・集落を網羅できるように任意に踏査し、昆虫類を見つけ採り法、スウィーピング法、ビーティング法等さまざまな方法で任意採集した。目視により同定できた種は種名等を記録し、残りは持ち帰って同定した。
	ライトトラップ法	主に光誘因性の種を対象とし、光源の下に大型ロート部及び昆虫収納用ボックス部からなる捕虫器を設置し、光源めがけて集まった個体の採集を行なった。光源は紫外線灯（ブラックライト蛍光灯）を用い、トラップは樹林内では林床が見渡せる箇所に、草地ではできるだけ開けた空間に設置するようにした。トラップの設置数は9 調査地区に1 台/1 地区で計9 台を設置して翌朝に回収した。捕獲した個体は室内に持ち帰って同定した。
	ベイトトラップ法	地表徘徊性昆虫を対象とし、底に誘引物（糖蜜や腐肉等）を入れた容器を口が地表と同一になるように埋め込み、一晚放置したあと、容器内に誘引された昆虫類を全て採集した。トラップは、9 調査地区に20 個/1 地区で計180 個を設置し、採集した個体は室内に持ち帰って同定した。

表 10.9.1-1(3) 動物の調査の手法

調査項目	調査方法	
魚類	直接観察及び採取	<p>魚類は、調査地域内の水域を踏査し、目視で確認された種を全て記録するほか、投網やタモ網等により捕獲して種を確認した。魚類の捕獲は、調査地域の瀬、淵、植物帯のある場所などさまざまな環境において行い、水深や流速等の場の条件に合った漁具を選定して行った。捕獲した魚類は現場で同定及び計測等の記録を行い、記録後には放流した。</p>
	トラップ等による採取	<p>調査地域内の水域に餌を入れたセルビン及びカゴ網、小型定置網を設置し、誘引した魚類を採取して種を記録した。使用するトラップの種類は地点の状況に応じて選定し、セルビン及びカゴ網はワンド等での小魚の捕獲に、定置網は稚魚から成魚まで魚類全般を捕獲する際に用いた。セルビンは2調査地区に計5個、カゴ網は3調査地区に計6個、小型定置網は1調査地区に計1個設置し、捕獲した魚類は現場で種同定及び計測等の記録を行い、記録後には放流した。</p>
底生動物	直接観察及び採取	<p>底生動物は、調査地域内の水域を踏査し、D型フレームネットやサデ網等を用いて採取して種を確認した。底生動物は環境に適応した種が生息していることから、調査地域の瀬、淵、植物帯のある場所等の様々な生息環境において採取を行った。採集した底生動物は、現場で同定可能なものは種名と個体数を記録し、その他は10%程度のホルマリンで固定した後、室内に持ち帰って同定した。</p>
	コドラート法	<p>コドラート法は、流速が速く、膝程度までの水深の瀬で実施することとし、このような場所がない場所では、できるだけ流れのあるところで実施した。採集用具は25cm×25cmサーバーネットを使用し、1調査地区あたり3箇所ですamplingを行い、それらを合計して1サンプルとした。8調査地区で計8サンプルを採取し、サンプルは現地にて10%程度のホルマリンで固定し、室内に持ち帰って同定、計数した。</p>

b) 重要な種等の状況

(a) 重要な種等の生態

重要な種等の生態については、図鑑、研究論文、その他の資料の収集により整理しました。

(b) 重要な種等の生態及び分布の状況、生息の状況及び生息環境の状況

重要な種等の生態及び分布の状況、生息の状況及び生息環境の状況については、選定根拠に該当する種について、動物相の調査と併せて行いました。なお、重要な種の選定根拠については、「千葉県保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編 (2019年改訂版)」を用いることにより地域における希少性及び重要性を考慮しました。重要な種等の選定根拠を表 10.9.1-2 に、重要な種の選定基準を表 10.9.1-3 に示します。

表 10.9.1-2 重要な動物種の選定根拠

法令、文献等		選定根拠	
法令による指定	①	「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)	・特別天然記念物 ・国指定天然記念物
	②	「千葉県文化財保護条例」(昭和30年3月29日 条例第8号)	・県指定天然記念物
	③	「市川市文化財保護条例」(昭和51年12月24日 条例第38号)	・市指定天然記念物
		「船橋市文化財保護条例」(昭和39年3月30日 条例第22号)	
		「松戸市文化財の保護に関する条例」(昭和51年4月1日 条例第19号)	
		「鎌ヶ谷市文化財保護条例」(昭和51年7月5日 条例第16号)	
		「柏市文化財保護条例」(昭和51年6月21日 条例第27号)	
		「白井市文化財保護に関する条例」(昭和51年3月18日 条例第6号)	
		「印西市文化財保護条例」(昭和51年3月11日 条例第12号)	
	④	「八千代市文化財保護条例」(昭和46年4月1日 条例第25号)	
文献による指定	④	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年6月5日 法律第75号)	・国内希少野生動植物種
			・国際希少野生動植物種
	⑤	「環境省レッドリスト2019の公表について」(平成31年1月24日 環境省報道発表資料)	・特定国内希少野生動植物種
			・緊急指定種
			・絶滅(EX)
			・野生絶滅(EW)
			・絶滅危惧I類(CR+EN)
			・絶滅危惧IA類(CR)
			・絶滅危惧IB類(EN)
			・絶滅危惧II類(VU)
			・準絶滅危惧(NT)
			・情報不足(DD)
			・地域個体群(LP)
			⑥
・野生絶滅(EW)			
・最重要保護生物(A)			
・重要保護生物(B)			
・要保護生物(C)			
・一般保護生物(D)			
・保護参考雑種(RH)			
・情報不足(不足)			

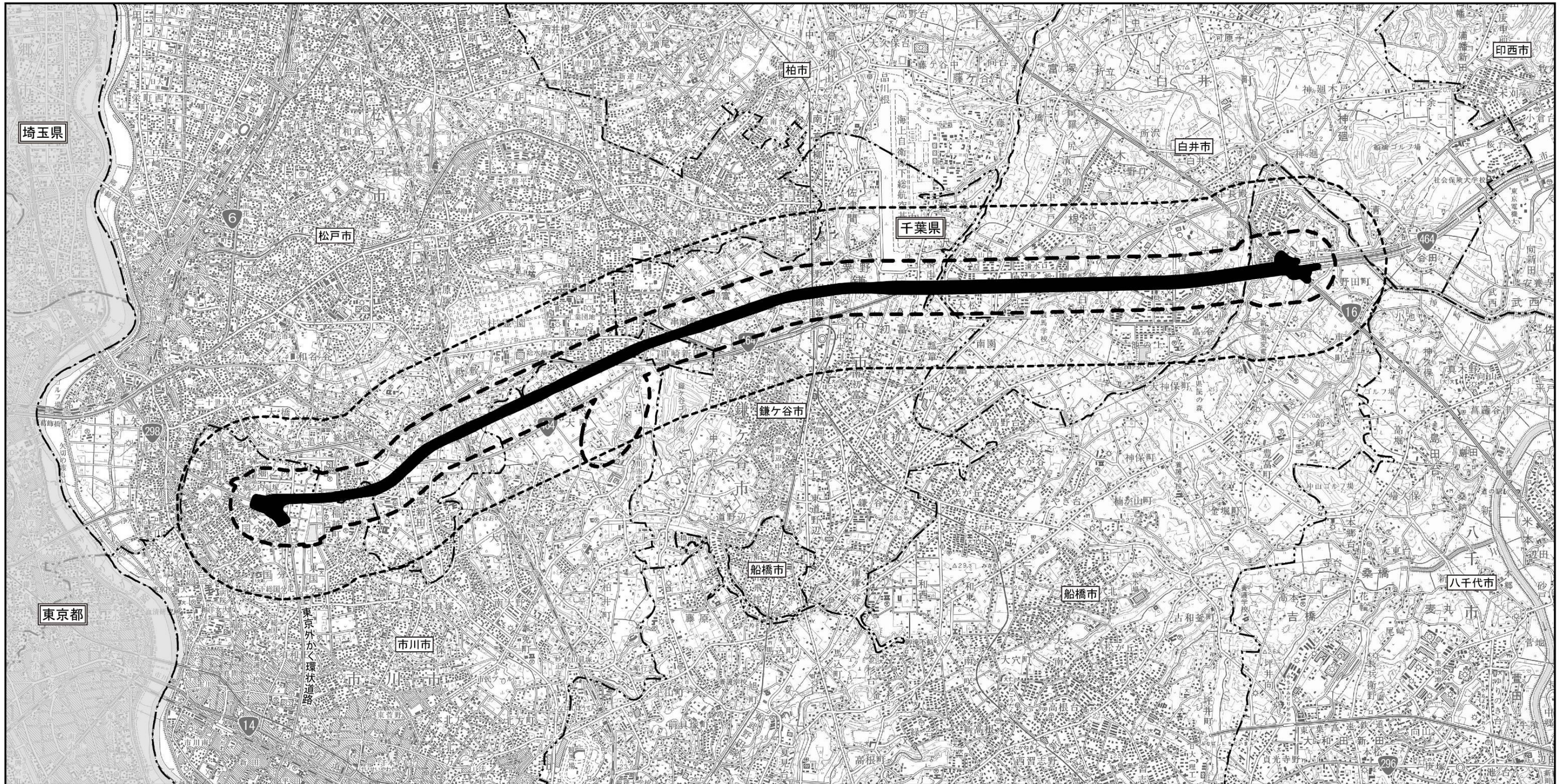
表 10.9.1-3 重要な動物種の選定基準

区 分		選 定 基 準	
①	特別天然記念物	国指定天然記念物のうち特に重要な記念物。	
	国指定天然記念物	国指定文化財のうち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）で、我が国にとって学術上価値の高いもの。	
	② 県指定天然記念物	県指定文化財のうち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）で、県にとって学術上価値の高いもの。	
③	市指定天然記念物	市指定文化財のうち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）で、市にとって学術上価値の高いもの。	
④	国際希少野生動植物種	国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動物の種（国内希少野生動植物種を除く。）であって、政令で定めるもの。	
	国内希少野生動植物種	その個体が本邦に生息または生育する絶滅のおそれのある野生動物の種であって、政令で定めるもの。	
	特定国内希少野生動植物種	次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動植物種であって、政令で定めるものをいう。	
		一 商業的に個体の繁殖をさせることができるものであること。 二 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと。	
	緊急指定種	環境大臣が、国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種以外の野生動物の種の保存を特に緊急に図る必要があると認めるときに指定する種。	
⑤	絶滅（EX）	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。	
	野生絶滅（EW）	飼育・栽培下でのみ存続している種。	
	絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	絶滅の危機に瀕している種。
		絶滅危惧ⅠA類（CR）	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
		絶滅危惧ⅠB類（EN）	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
		絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危険が増大している種。
	準絶滅危惧（NT）	存続基盤が脆弱な種。	
	情報不足（DD）	評価するだけの情報が不足している種。	
	地域個体群（LP）	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。	
	⑥	消息不明・絶滅生物（X）	かつては生息・生育が確認されていたにもかかわらず、近年長期（およそ50年間）にわたって確実な生存情報がなく、千葉県から絶滅した可能性が強い生物。
野生絶滅（EW）		かつては千葉県に生息・生育していた生物の種類が、野生・自生では見られなくなったにもかかわらず、かつて千葉県に野生していた個体群の子孫が、飼育・栽培などによって、維持されているもの。特に埋土種子や埋土胞子などから再生した個体がありながら、本来の自生地では環境の変化によって生息・生育が維持できない状態の種。	
最重要保護生物（A）		個体数が極めて少ない、生息・生育環境が極めて限られている、生息・生育地のほとんどが環境改変の危機にある、などの状況にある生物。	
重要保護生物（B）		個体数がかなり少ない、生息・生育環境がかなり限られている、生息・生育地のほとんどが環境改変の可能性のある、などの状況にある生物。	
要保護生物（C）		個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、近い将来カテゴリ-Bに移行することが予測されるもの。	
一般保護生物（D）		個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば個体数の減少は避けられず、自然環境の構成要素としての役割が著しく衰退する可能性があり、近い将来カテゴリ-Cに移行することが予測されるもの。	
保護参考雑種（RH）		自然界において形成されることが稀な雑種であって、個体数が著しく少なく、分布地域及び生息環境が著しく限定されているもの。	
情報不足（不足）		個体数や生息環境などのランクを判定する情報が十分には得られていないもの、及び歴史的もしくは分類学的な情報の不足により保護すべき種であるかあきらかでないもの。	

(3) 調査地域及び調査地点

調査地域は、都市計画対象道路事業実施区域端部から概ね 250m の範囲を目安とし、動物の特性に応じて適宜拡大しました。なお、事業実施により動植物への影響が及ぶ可能性のある範囲として、大町公園とその周囲を調査範囲に追加しました。また、猛禽類は行動圏が特に広い
ため、広域を調査範囲としました。

調査地点及び調査経路は、調査対象動物の生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域に生息する動物を効率よく把握できる経路及び場所を設定しました。調査地域を図 10.9.1-1 に示します。



凡例

- 都市計画対象道路事業実施区域
- 都県界
- 市区界
- 動物調査範囲
- 動物調査範囲（行動圏が特に広い動物）

この地図は、国土地理院発行の「1 : 50,000地形図、東京東北部（平成17年8月24日）・佐倉（平成10年9月1日）」を使用したものである。

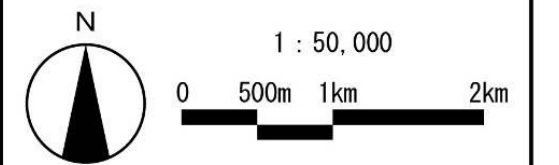


図 10.9.1-1
動物調査範囲

(4) 調査期間等

調査時期は、春・夏・秋・冬の4季を基本とし、生息する動物を効率よく確認できる時期としました。各項目の調査時期を表 10.9.1-4 に示します。

表 10.9.1-4(1) 動物の調査時期

調査項目	調査方法	調査期間
哺乳類	<ul style="list-style-type: none"> ・直接観察及びフィールドサイン法 ・トラップによる捕獲 ・バットディテクターによるコウモリ類の生息状況把握 	冬季 :平成31年2月12日～14日、19日～22日 春季 :令和元年5月13日～17日 夏季 :平成30年8月27日、28日、30日 :令和元年7月22日、23日、7月30日～8月1日 秋季 :平成30年10月17日、18日 :令和元年9月30日～10月6日
鳥類 (一般鳥類)	<ul style="list-style-type: none"> ・直接観察 ・ラインセンサス法 ・定点観察法 ・フクロウ類を対象とする夜間調査 	冬季 :平成31年1月11日、2月7日、8日、12日、13日 春季 :令和元年5月13日、15日～17日 初夏季 :令和元年6月13日、17日～21日 秋季 :平成30年10月9日 :令和元年9月26日～28日
鳥類 (猛禽類)	<ul style="list-style-type: none"> ・営巣可能性調査 	【平成28年調査】 1回目 :平成28年10月24日、25日 【平成29年調査】 1回目 :平成29年2月23日～25日 2回目 :平成29年3月11日、12日 【平成31年調査】 1回目 :平成31年3月27日、28日 2回目 :平成31年4月27日、28日 3回目 :令和元年7月5日
	<ul style="list-style-type: none"> ・定点調査 	【平成25年調査】 1回目 :平成25年6月29日 2回目 :平成25年7月11日～12日 【平成26年調査】 1回目 :平成26年2月24日、25日 2回目 :平成26年3月6日、7日 3回目 :平成26年4月24日、25日 4回目 :平成26年5月29日、30日 5回目 :平成26年6月2日、3日、7日、8日、12日、13日 6回目 :平成26年6月16日、17日、23日、24日、26日、27日 7回目 :平成26年7月3日、4日 【平成27年調査】 1回目 :平成27年2月24日～27日 2回目 :平成27年3月26日、27日 3回目 :平成27年4月23日、24日 4回目 :平成27年5月26日～29日 5回目 :平成27年6月9日～12日 6回目 :平成27年6月23日～26日 7回目 :平成27年7月9日、10日

表 10.9.1-4(2) 動物の調査時期

調査項目	調査方法	調査期間
鳥類 (猛禽類)	・ 定点調査	<p>【平成30年調査】</p> <p>1回目 : 平成30年2月25日～28日 2回目 : 平成30年3月16日～23日 3回目 : 平成30年4月23日～27日 4回目 : 平成30年5月28日～31日 5回目 : 平成30年6月11日～14日 6回目 : 平成30年6月26日～29日 7回目 : 平成30年7月9日～12日</p> <p>【平成31年調査】</p> <p>1回目 : 平成31年2月25日～28日 2回目 : 平成31年3月20日～23日 3回目 : 平成31年4月21日、22日 4回目 : 令和元年5月28日、29日 5回目 : 令和元年6月10日～13日 6回目 : 令和元年6月24日～27日 7回目 : 令和元年7月8日、9日</p>
	・ 繁殖状況調査	<p>【平成26年調査】</p> <p>1回目 : 平成26年4月18日 2回目 : 平成26年4月28日 3回目 : 平成26年5月12日 4回目 : 平成26年5月26日 5回目 : 平成26年6月11日 6回目 : 平成26年6月22日 7回目 : 平成26年7月2日 8回目 : 平成26年7月10日</p> <p>【平成27年調査】</p> <p>1回目 : 平成27年4月10日 2回目 : 平成27年4月24日 3回目 : 平成27年5月11日 4回目 : 平成27年5月27日 5回目 : 平成27年6月10日 6回目 : 平成27年6月24日 7回目 : 平成27年7月9日 8回目 : 平成27年7月15日</p> <p>【平成28年調査】</p> <p>1回目 : 平成28年4月11日 2回目 : 平成28年4月25日 3回目 : 平成28年5月9日 4回目 : 平成28年5月23日 5回目 : 平成28年6月10日 6回目 : 平成28年6月23日 7回目 : 平成28年7月8日 8回目 : 平成28年7月15日</p>

表 10.9.1-4(3) 動物の調査時期

調査項目	調査方法	調査期間
鳥類 (猛禽類)	・繁殖状況調査	<p>【平成29年調査】</p> <p>1回目 : 平成29年4月7日、27日、28日 2回目 : 平成29年4月22日、5月1日、2日 3回目 : 平成29年5月8日～10日 4回目 : 平成29年5月23日、24日 5回目 : 平成29年6月12日、13日 6回目 : 平成29年6月26日、27日 7回目 : 平成29年7月6日、7日 8回目 : 平成29年7月18日、19日</p> <p>【平成30年調査】</p> <p>1回目 : 平成30年4月12日、13日 2回目 : 平成30年4月28日、29日 3回目 : 平成30年5月9日、10日 4回目 : 平成30年5月30日、31日 5回目 : 平成30年6月13日 6回目 : 平成30年6月25日 7回目 : 平成30年7月7日、8日 8回目 : 平成30年7月17日、18日</p> <p>【平成31年調査】</p> <p>1回目 : 平成31年4月8日、9日 2回目 : 平成31年4月18日、19日 3回目 : 令和元年5月15日、16日 4回目 : 令和元年5月23日、24日 5回目 : 令和元年6月2日、3日 6回目 : 令和元年6月19日、20日 7回目 : 令和元年7月4日、5日 8回目 : 令和元年7月13日、14日</p>
両生類	・直接観察	<p>早春季 : 平成31年3月25日～26日 春季 : 令和元年5月13日～17日 夏季 : 平成30年8月27日～28日 : 令和元年7月22日、23日、30日～8月1日 秋季 : 平成30年10月17日、18日 : 令和元年9月30日～10月6日</p>
爬虫類	・直接観察	<p>早春季 : 平成31年3月25日～26日 春季 : 令和元年5月13日～17日 夏季 : 平成30年8月27日、28日 : 令和元年7月22日、23日、30日～8月1日 秋季 : 平成30年10月17日、18日 : 令和元年9月30日～10月6日</p>

表 10.9.1-4(4) 動物の調査時期

調査項目	調査方法	調査期間
昆虫類	<ul style="list-style-type: none"> ・直接観察及び採取 ・ライトトラップ法 ・ベイトトラップ法 	<p>【昆虫類相】</p> <p>冬季 :平成31年2月12日、13日、21日</p> <p>春季 :令和元年5月13日～17日</p> <p>初夏季 :令和元年6月8日、12日～14日、17日、18日、29日</p> <p>夏季 :平成30年8月23日、27日、28日、30日</p> <p style="padding-left: 2em;">:令和元年7月22日～24日</p> <p>秋季 :平成30年10月17日～18日</p> <p style="padding-left: 2em;">:令和元年9月30日～10月4日</p> <p>【タガメ、ゲンジボタル】</p> <p>初夏季 :平成30年6月8日、29日</p>
魚類	<ul style="list-style-type: none"> ・直接観察及び採取 ・トラップ等による採取 	<p>早春季 :平成31年3月25日～28日</p> <p>春季 :令和元年5月7日～10日</p> <p>夏季 :令和元年6月11日、7月23日～25日</p> <p>秋季 :平成30年10月17日</p> <p style="padding-left: 2em;">:令和元年9月17日～19日</p>
底生動物	<ul style="list-style-type: none"> ・直接観察及び採取 ・コドラート法 	<p>早春季 :平成31年3月25日～28日</p> <p>春季 :令和元年5月7日、9日、10日、13日、14日</p> <p>夏季 :令和元年6月11日、7月23日～25日</p> <p>秋季 :平成30年10月17日</p> <p style="padding-left: 2em;">:令和元年9月17日～19日</p>

(5) 調査結果

a) 動物相の状況、重要な種等の状況

現地調査結果の概要を表 10.9.1-5 に示します。なお、既存資料調査結果の概要は、「第 4 章 4.1.5 動植物の生息または生育、植生及び生態系の状況 4.1.5.1 動物の状況 1)動物相の状況」に示すとおりです。

表 10.9.1-5 現地調査結果の概要

調査項目		確認種数	主な確認種
哺乳類		5目8科12種	アズマモグラ、アブラコウモリ、ノウサギ、ホンドアカネズミ、カヤネズミ、ハツカネズミ、ドブネズミ、アライグマ、ホンドタヌキ、ホンドキツネ、ホンドイタチ、ハクビシン
鳥類	一般鳥類	15目35科75種	キジ、カルガモ、キジバト、アオサギ、フクロウ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、セグロセキレイ、ホオジロ など
	猛禽類	2目2科8種	トビ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ
両生類		1目4科5種	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ウシガエル、シュレーゲルアオガエル
爬虫類		2目8科13種	ニホンイシガメ、クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、スッポン属の一種、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
昆虫類		18目268科1,566種	ギンヤンマ、モリチャバネゴキブリ、エンマコオロギ、シウリョウバッタ、ヒグラシ、クロクビナガカメムシ、アメンボ、クロナガオサムシ、ヒメゲンゴロウ、トゲバゴマフガムシ、ノコギリクワガタ、セマダラマグソコガネ、タテスジナガドロムシ、マダラチビコメツキ、キマダラミヤマカミキリ、ホシベニカミキリ、ヤマトアシナガアリ、シオヤアブ、ツマグロヒョウモン、フチグロトゲエダシャク など
魚類		6目9科19種	スナヤツメ類、ニホンウナギ、コイ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、オイカワ、カワムツ、モツゴ、タモロコ、ツチフキ、ドジョウ、ホトケドジョウ、カダヤシ、ミナミメダカ、ヒメダカ、オオクチバス、旧トウヨシノボリ類、スミウキゴリ、ウキゴリ
底生動物		26目73科149種	ナミウズムシ、ヒメタニシ、カワニナ、フクロイトミミズ、ミツゲミズミミズ、アゴトゲヨコエビ、スジエビ、ハグロトンボ、キイロサナエ、オナガサナエ、コガタシマトビケラ、ニンギョウトビケラ、ハイイロゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、マメガムシ など

(a) 哺乳類

ア) 哺乳類の生息状況

現地調査において5目8科12種の哺乳類を確認しました。確認種は関東地方平野部の都市近郊にみられる中型から小型の哺乳類で構成され、中型哺乳類では樹林や耕作地、河川、草地など様々な環境を広く利用するホンダタヌキ、その他ノウサギ、ホンドキツネ、ホンDOIタチが確認されました。また、小型哺乳類ではアズマモグラ、ホンDアカネズミに加え、イネ科などの草地に生息するカヤネズミも確認されました。夜間のバツディテクターによる調査では、アブラコウモリが確認されました。その他、外来生物であるアライグマ、ハクビシン、ハツカネズミ、ドブネズミも確認されました。

現地調査結果の概要を表 10.9.1-6 に示します。

表 10.9.1-6 哺乳類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	確認種
冬季	4目7科8種	アズマモグラ、ノウサギ、ホンDアカネズミ、ハツカネズミ、アライグマ、ホンDタヌキ、ホンDOIタチ、ハクビシン
春季	5目8科10種	アズマモグラ、アブラコウモリ、ノウサギ、ホンDアカネズミ、ハツカネズミ、ドブネズミ、アライグマ、ホンDタヌキ、ホンDOIタチ、ハクビシン
夏季	5目8科10種	アズマモグラ、アブラコウモリ、ノウサギ、ホンDアカネズミ、カヤネズミ、アライグマ、ホンDタヌキ、ホンドキツネ、ホンDOIタチ、ハクビシン
秋季	5目8科8種	アズマモグラ、アブラコウモリ、ノウサギ、ホンDアカネズミ、アライグマ、ホンDタヌキ、ホンDOIタチ、ハクビシン
合計	5目8科12種	-

イ) 重要な哺乳類

現地調査により確認された重要な哺乳類はカヤネズミ及びホンドキツネの2目2科2種でした。現地調査及び既存資料で確認された重要な哺乳類とその選定理由を表 10.9.1-7 に示します。

表 10.9.1-7 重要な哺乳類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況					
					①	②	③	④	⑤	⑥
モグラ	トガリネズミ	ジネズミ		●	-	-	-	-	-	D
	モグラ	ヒミズ		●	-	-	-	-	-	D
コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ		●	-	-	-	-	-	不足
ネズミ	リス	ニホンリス		●	-	-	-	-	-	C
	ネズミ	カヤネズミ	●	●	-	-	-	-	-	D
ネコ	イヌ	ホンドキツネ	●	●	-	-	-	-	-	B
	イタチ	ニホンアナグマ		●	-	-	-	-	-	C
4目	7科	7種	2種	7種	0種	0種	0種	0種	0種	7種

※分類、配列などは基本的に「平成30年度版 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2018年,国土交通省)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:千葉県指定天然記念物
- ② 「千葉県文化財保護条例」(昭和30年3月29日 条例第8号)
県天:千葉県指定天然記念物
- ③ 「各市の文化財保護条例」(表 10.9.1-2 参照)
市天:市指定天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特国内:特定国内希少野生動植物種、
緊急:緊急指定種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019の公表について」(平成31年1月24日 環境省報道発表資料)
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅡA類 EN:絶滅危惧ⅡB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:地域個体群
- ⑥ 「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編(2019年改訂版)」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
X:消息不明・絶滅生物 EW:野生絶滅 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物
D:一般保護生物 RH:保護参考雑種 不足:情報不足

(b) 鳥類

ア) 鳥類の生息状況

ア. 一般鳥類調査

調査地域内の一般鳥類の現地調査において15目35科75種の鳥類を確認しました。確認種は関東地方平野部の都市近郊にみられる鳥類で構成されました。樹林環境ではキビタキ、カケス、フクロウ、アカゲラやアオゲラ等のキツツキ類、ヤマガラやシジュウカラ等のカラ類などが確認されました。耕作地やその周辺の草地、住宅地ではキジバト、オナガ、ムクドリ、スズメ、ツバメ、ツグミなどが多数確認されたほか、コチドリ、ヒバリ、ジョウビタキなども確認されました。水辺などの湿潤な環境ではカイツブリ、カルガモやコガモ等のカモ類、アオサギやコサギ等のサギ類、カワセミ、セッカ、オオヨシキリなどが確認されました。その他、外来生物であるコジュケイ、ドバトが確認されました。

現地調査結果の概要を表 10.9.1-8 に示します。

表 10.9.1-8 一般鳥類調査の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
冬季	14目28科54種	キジ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ミソサザイ、ムクドリ、トラツグミ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、ドバト など
春季	13目31科45種	キジ、カルガモ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、コチドリ、フクロウ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ、ドバト など
初夏	14目30科42種	キジ、カルガモ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、ホトトギス、フクロウ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、セッカ、ムクドリ、キビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ、ドバト など
秋季	13目27科42種	カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、バン、フクロウ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、チョウゲンボウ、モズ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、エゾビタキ、コサメビタキ、キビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ、ドバト など
合計	15目35科75種	-

イ. 猛禽類調査

猛禽類の現地調査において2目2科8種のワシ・タカ類を確認しました。調査地域及びその周辺の樹林、農耕地、河川などの上空等でトビ、オオタカ、サシバ、ノスリの飛翔等が多く確認されたほか、ツミ、ハイタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサなどの飛翔等も確認されました。

現地調査結果の概要を表 10.9.1-9 に示します。

表 10.9.1-9 猛禽類調査の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	確認種
平成 25 年	2目2科2種	オオタカ、サシバ ^{注)}
平成 26 年	2目2科6種	ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ
平成 27 年	2目2科8種	トビ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ
平成 28 年	1目1科1種	オオタカ ^{注)}
平成 29 年	1目1科1種	オオタカ ^{注)}
平成 30 年	2目2科8種	トビ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ
平成 31 年 令和元年	2目2科8種	トビ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ
合計	2目2科8種	-

注) 平成 25 年は 3 日間の定点調査を実施したのみ、平成 28 年及び平成 29 年は繁殖状況調査を実施したのみの結果を示している。

イ) 重要な鳥類

ア. 一般鳥類調査における重要な鳥類

一般鳥類の現地調査により確認された重要な鳥類は12目21科34種でした。現地調査及び既存資料で確認された重要な鳥類とその選定理由を表 10.9.1-10 に示します。

表 10.9.1-10(1) 重要な鳥類 (一般鳥類調査)

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況					
					①	②	③	④	⑤	⑥
キジ	キジ	ウズラ		●	-	-	-	-	VU	A
カモ	カモ	コクガン		●	国天	-	-	-	VU	B
		ツクシガモ		●	-	-	-	-	VU	-
		オシドリ	●	●	-	-	-	-	DD	B
		オカヨシガモ		●	-	-	-	-	-	C
		ヨシガモ		●	-	-	-	-	-	B
		トモエガモ		●	-	-	-	-	VU	B
		アカハジロ		●	-	-	-	-	DD	A
		スズガモ		●	-	-	-	-	-	D
		ビロードキンクロ		●	-	-	-	-	-	B
		ホオジロガモ		●	-	-	-	-	-	B
		ウミアイサ		●	-	-	-	-	-	D
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	●	●	-	-	-	-	-	C
		カンムリカイツブリ		●	-	-	-	-	-	D
ハト	ハト	シラコバト		●	-	-	-	-	EN	B
		アオバト	●	●	-	-	-	-	-	B
ミズナギドリ	ミズナギドリ	シロハラミズナギドリ		●	-	-	-	-	DD	-
		クロコシジロウミツバメ		●	-	-	-	国内	CR	-
ペリカン	サギ	サンカノゴイ		●	-	-	-	-	EN	A
		ヨシゴイ		●	-	-	-	-	NT	A
		ミゾゴイ		●	-	-	-	-	VU	A
		ダイサギ	●	●	-	-	-	-	-	D
		チュウサギ		●	-	-	-	-	NT	B
		コサギ	●	●	-	-	-	-	-	B
		クロサギ		●	-	-	-	-	-	C
	カラシラサギ		●	-	-	-	-	NT	A	
	トキ	ヘラサギ		●	-	-	-	-	DD	-
		クロツラヘラサギ		●	-	-	-	-	EN	A
ツル	クイナ	シマクイナ		●	-	-	-	-	EN	A
		クイナ		●	-	-	-	-	-	X
		ヒクイナ		●	-	-	-	-	NT	A
		バン	●	●	-	-	-	-	-	B
		オオバン	●	●	-	-	-	-	-	C
カッコウ	カッコウ	ホトトギス	●	●	-	-	-	-	-	C
		ツツドリ	●	●	-	-	-	-	-	C
		カッコウ		●	-	-	-	-	-	C
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ		●	-	-	-	-	NT	X
アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ		●	-	-	-	-	-	A

表 10.9.1-10(2) 重要な鳥類（一般鳥類調査）

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況					
					①	②	③	④	⑤	⑥
アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ		●	-	-	-	-	-	C
チドリ	チドリ	タゲリ		●	-	-	-	-	-	D
		ケリ		●	-	-	-	-	DD	A
		ムナグロ		●	-	-	-	-	-	B
		イカルチドリ		●	-	-	-	-	-	C
		コチドリ	●	●	-	-	-	-	-	B
		シロチドリ		●	-	-	-	-	VU	A
		メダイチドリ		●	-	-	-	国際	-	C
		オオメダイチドリ		●	-	-	-	国際	-	-
	ミヤコドリ	ミヤコドリ		●	-	-	-	-	-	A
	セイタカシギ	セイタカシギ		●	-	-	-	-	VU	A
	シギ	オオジシギ		●	-	-	-	-	NT	A
		チュウジシギ		●	-	-	-	-	-	A
		オグロシギ		●	-	-	-	-	-	C
		オオソリハシシギ		●	-	-	-	-	VU	C
		コシャクシギ		●	-	-	-	国際	EN	-
		チュウシャクシギ		●	-	-	-	-	-	C
		ダイシャクシギ		●	-	-	-	-	-	A
		ハウロクシギ		●	-	-	-	国際	VU	A
		ツルシギ		●	-	-	-	-	VU	A
		アカアシシギ		●	-	-	-	-	VU	B
		アオアシシギ		●	-	-	-	-	-	B
		カラフトアオアシシギ		●	-	-	-	国内	CR	A
		クサシギ		●	-	-	-	-	-	C
		タカブシギ		●	-	-	-	-	VU	B
		キアシシギ		●	-	-	-	-	-	C
		ソリハシシギ		●	-	-	-	-	-	C
		イソシギ		●	-	-	-	-	-	A
		キョウジョシギ		●	-	-	-	-	-	C
		オバシギ		●	-	-	-	国際	-	C
		コオバシギ		●	-	-	-	国際	-	-
		ミュビシギ		●	-	-	-	-	-	D
		トウネン		●	-	-	-	-	-	D
		ウズラシギ		●	-	-	-	-	-	B
ハマシギ		●	-	-	-	-	NT	B		
キリアイ		●	-	-	-	-	-	B		
タマシギ	タマシギ		●	-	-	-	-	VU	A	
ツバメチドリ	ツバメチドリ		●	-	-	-	-	VU	X	
カモメ	ズグロカモメ		●	-	-	-	-	VU	A	
	コアジサシ		●	-	-	-	-	VU	A	
	ベニアジサシ		●	-	-	-	-	VU	B	
	エリグロアジサシ		●	-	-	-	-	VU	-	
タカ	ミサゴ	ミサゴ		●	-	-	-	-	NT	B

表 10.9.1-10(3) 重要な鳥類（一般鳥類調査）

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況					
					①	②	③	④	⑤	⑥
タカ	タカ	ハチクマ		●	-	-	-	-	NT	B
		オジロワシ		●	国天	-	-	国内	VU	B
		オオワシ		●	国天	-	-	国内	VU	B
		チュウヒ		●	-	-	-	国内	EN	A
		ツミ	●	●	-	-	-	-	-	D
		ハイタカ	●	●	-	-	-	-	NT	B
		オオタカ	●	●	-	-	-	-	NT	C
		サシバ	●	●	-	-	-	-	VU	A
		ノスリ	●	●	-	-	-	-	-	C
		イヌワシ		●	国天	-	-	国内	EN	-
フクロウ	フクロウ	オオコノハズク		●	-	-	-	-	-	B
		フクロウ	●	●	-	-	-	-	-	B
		アオバズク		●	-	-	-	-	-	A
		トラフズク		●	-	-	-	-	-	C
		コミミズク		●	-	-	-	-	-	A
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	●	●	-	-	-	-	-	C
		ヤマセミ		●	-	-	-	-	-	A
キツツキ	キツツキ	アカゲラ	●	●	-	-	-	-	-	C
		アオゲラ	●	●	-	-	-	-	-	C
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		●	-	-	-	国内	VU	A
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ		●	-	-	-	-	VU	X
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	●	●	-	-	-	-	-	A
	モズ	チゴモズ		●	-	-	-	-	CR	X
		アカモズ		●	-	-	-	-	EN	X
	カラス	カケス	●	●	-	-	-	-	-	D
	ヒバリ	ヒバリ	●	●	-	-	-	-	-	D
	ツバメ	コシアカツバメ		●	-	-	-	-	-	B
		イワツバメ	●	●	-	-	-	-	-	D
	ウグイス	ヤブサメ		●	-	-	-	-	-	C
	ムシクイ	オオムシクイ	●		-	-	-	-	DD	-
		センダイムシクイ		●	-	-	-	-	-	C
	センニュウ	オオセッカ		●	-	-	-	国内	EN	A
	ヨシキリ	オオヨシキリ	●	●	-	-	-	-	-	D
		コヨシキリ		●	-	-	-	-	-	D
	セッカ	セッカ	●	●	-	-	-	-	-	D
	ミソサザイ	ミソサザイ	●	●	-	-	-	-	-	C
	ヒタキ	トラツグミ	●	●	-	-	-	-	-	A
		クロツグミ		●	-	-	-	-	-	A
		コサメビタキ	●	●	-	-	-	-	-	A
		キビタキ	●	●	-	-	-	-	-	A
		オオルリ		●	-	-	-	-	-	B
イワヒバリ	カヤクグリ		●	-	-	-	-	-	D	
セキレイ	キセキレイ	●	●	-	-	-	-	-	B	

表 10.9.1-10(4) 重要な鳥類（一般鳥類調査）

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況					
					①	②	③	④	⑤	⑥
スズメ	アトリ	イカル		●	-	-	-	-	-	D
	ホオジロ	ホオジロ	●	●	-	-	-	-	-	C
		ホオアカ		●	-	-	-	-	-	C
		クロジ	●	●	-	-	-	-	-	D
		コジュリン		●	-	-	-	-	VU	A
		オオジュリン	●	●	-	-	-	-	-	D
17目	41科	130種	34種	129種	4種	0種	0種	14種	53種	120種

※分類、配列などは「日本産鳥類目録 改訂第7版」（2012年, 日本鳥学会）に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年5月30日 法律第214号）
特天: 特別天然記念物、国天: 国指定天然記念物、県天: 千葉県指定天然記念物
- ② 「千葉県文化財保護条例」（昭和30年3月29日 条例第8号）
県天: 千葉県指定天然記念物
- ③ 「各市の文化財保護条例」（表 10.9.1-2 参照）
市天: 市指定天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日 法律第75号）
国際: 国際希少野生動植物種、国内: 国内希少野生動植物種、特国内: 特定国内希少野生動植物種、
緊急: 緊急指定種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019の公表について」（平成31年1月24日 環境省報道発表資料）
EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類 CR: 絶滅危惧Ⅱ類 EN: 絶滅危惧Ⅲ類 VU: 絶滅危惧Ⅳ類
NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 地域個体群
- ⑥ 「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編（2019年改訂版）」（平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課）
X: 消息不明・絶滅生物 EW: 野生絶滅 A: 最重要保護生物 B: 重要保護生物 C: 要保護生物
D: 一般保護生物 RH: 保護参考雑種 不足: 情報不足

イ. 猛禽類調査における重要な猛禽類

猛禽類の現地調査により確認された重要な猛禽類は2目2科6種でした。また、現地調査で確認された重要な鳥類のうち、オオタカとサシバの2種は7年間の調査期間中に繁殖が確認され、オオタカは6つがい、サシバは1つがいの生息が確認されました。オオタカの5つがいについては繁殖成功を確認しています。

現地調査及び既存資料で確認された重要な猛禽類とその選定理由を表 10.9.1-11 に、調査地域内で繁殖が確認されたオオタカ及びサシバについて、つがい別の巣と事業実施区域の位置関係及び繁殖の状況等を表 10.9.1-12 に示します。

表 10.9.1-11 重要な鳥類（猛禽類調査）

目名	科名	種名	重要種基準						確認状況						
			①	②	③	④	⑤	⑥	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
タカ	タカ	ツミ						D			●			●	●
		ハイタカ					NT	B		●	●			●	●
		オオタカ					NT	C	●	●	●	●	●	●	●
		サシバ					VU	A	●	●	●			●	●
		ノスリ						C		●	●			●	●
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ				国内	VU	A		●	●		●	●	
2目	2科	6種	0	0	0	1	4	6	2	5	6	1	1	6	6

注1) 平成25年は3日間の定点調査を実施したのみ、平成28年及び平成29年は繁殖状況調査を実施したのみの結果を示している。

※分類、配列などは「日本産鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会) に準拠した。

注2) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天: 特別天然記念物、国天: 国指定天然記念物、県天: 千葉県指定天然記念物
- ② 「千葉県文化財保護条例」(昭和30年3月29日 条例第8号)
県天: 千葉県指定天然記念物
- ③ 「各市の文化財保護条例」(表 10.9.1-2 参照)
市天: 市指定天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国際: 国際希少野生動植物種、国内: 国内希少野生動植物種、特国内: 特定国内希少野生動植物種、緊急: 緊急指定種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019の公表について」(平成31年1月24日 環境省報道発表資料)
EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧I類 CR: 絶滅危惧II類 EN: 絶滅危惧II類
NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 地域個体群
- ⑥ 「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編(2019年改訂版)」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
X: 消息不明・絶滅生物 EW: 野生絶滅 A: 最重要保護生物 B: 重要保護生物 C: 要保護生物
D: 一般保護生物 RH: 保護参考雑種 不足: 情報不足

表 10.9.1-12 調査地域内における猛禽類の繁殖等の状況

地区番号	種名	巢から都市計画対象 道路事業実施区域 までの水平距離	各年の繁殖状況 ()内は巣立ち雛 ^{注)}						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
1	オオタカ	0.3km以内	○ (1以上)	○ (3以上)	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (1以上)	○ (3以上)	△
2	オオタカ	0.3km以内	—	△	△	△	△	×	△
3	オオタカ	0.3km以上 1km以下	×	○ (不詳)	○ (1以上)	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (3以上)
4	オオタカ	0.3km以上 1km以下	○ (1以上)	—	—	○ (1以上)	○ (2以上)	○ (1以上)	○ (2以上)
5	オオタカ	0.3km以上 1km以下	—	—	—	—	—	○ (不詳)	△
6	オオタカ	1km以上	—	—	—	—	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (3以上)
	サシバ	1km以上	—	—	—	—	—	△	△

注) 繁殖状況 ○：繁殖成功 △：繁殖途中失敗・生息確認まで ×：繁殖兆候なし —：未調査

(c) 両生類

ア) 両生類の生息状況

現地調査において1目4科5種の両生類を確認しました。確認種は関東地方平野部の都市近郊にみられる種で構成され、水田や河川などの水域周辺でアズマヒキガエルやニホンアマガエルが確認されました。また、千葉県内では近年減少傾向にあるニホンアカガエルやシュレーゲルアオガエルも数カ所で確認されました。その他、外来生物であるウシガエルも確認されました。

現地調査結果の概要を表 10.9.1-13 に示します。

表 10.9.1-13 両生類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	確認種
早春季	1目3科4種	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ウシガエル
春季	1目4科5種	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ウシガエル、シュレーゲルアオガエル
夏季	1目3科3種	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ウシガエル
秋季	1目2科3種	ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ウシガエル
合計	1目4科5種	-

イ) 重要な両生類

現地調査により確認された重要な両生類は1目3科3種でした。現地調査及び既存資料で確認された重要な両生類とその選定理由を表 10.9.1-14 に示します。

表 10.9.1-14 重要な両生類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況						
					①	②	③	④	⑤	⑥	
有尾	イモリ	アカハライモリ		●	-	-	-	-	NT	A	
無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●	●	-	-	-	-	-	C	
	アカガエル	ニホンアカガエル	●	●	-	-	-	-	-	A	
		トウキョウダルマガエル		●	●	-	-	-	-	NT	B
		ツチガエル		●	●	-	-	-	-	-	A
アオガエル	シュレーゲルアオガエル	●	●	-	-	-	-	-	D		
2目	4科	6種	3種	6種	0種	0種	0種	0種	2種	6種	

※分類、配列などは基本的に「平成30年度版 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2018年,国土交通省)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:千葉県指定天然記念物
- ② 「千葉県文化財保護条例」(昭和30年3月29日 条例第8号)
県天:千葉県指定天然記念物
- ③ 「各市の文化財保護条例」(表 10.9.1-2 参照)
市天:市指定天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特国内:特定国内希少野生動植物種、
緊急:緊急指定種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019の公表について」(平成31年1月24日 環境省報道発表資料)
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅡA類 EN:絶滅危惧ⅡB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:地域個体群
- ⑥ 「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編(2019年改訂版)」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
X:消息不明・絶滅生物 EW:野生絶滅 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物
D:一般保護生物 RH:保護参考雑種 不足:情報不足

(d) 爬虫類

ア) 爬虫類の生息状況

現地調査において2目8科13種の爬虫類を確認しました。確認種は関東地方平野部の都市近郊にみられる種で構成され、市街地の人工構造物などではニホンヤモリが、林縁や草地環境でヒガシニホントカゲやニホンカナヘビが確認されました。水田や河川などの水域周辺でニホンイシガメ、クサガメ、スッポン属の一種、アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシが、また、主に夜行性のため確認が難しいシロマダラやニホンマムシも確認されました。その他、外来生物であるミシシippアカミミガメも確認されました。

現地調査結果の概要を表 10.9.1-15 に示します。

表 10.9.1-15 爬虫類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	確認種
早春季	2目5科5種	ミシシippアカミミガメ、スッポン属の一種、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ
春季	2目6科9種	クサガメ、ミシシippアカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ
夏季	2目7科11種	クサガメ、ミシシippアカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
秋季	2目6科8種	ニホンイシガメ、ミシシippアカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ
合計	2目8科13種	-

イ) 重要な爬虫類

現地調査により確認された重要な爬虫類は2目7科11種でした。なお、スッポン属の一種については、千葉県では養殖個体に由来する移入種の可能性があります。現地調査及び既存資料で確認された重要な爬虫類とその選定理由を表 10.9.1-16 に示します。

表 10.9.1-16 重要な爬虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況						
					①	②	③	④	⑤	⑥	
カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	●	●	-	-	-	-	NT	A	
	スッポン	スッポン属の一種	●	●	-	-	-	-	DD	不足	
有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	●	●	-	-	-	-	-	D	
	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	●	●	-	-	-	-	-	B	
	カナヘビ	ニホンカナヘビ	●	●	-	-	-	-	-	D	
	ナミヘビ	シマヘビ		●	●	-	-	-	-	-	C
		アオダイショウ		●	●	-	-	-	-	-	D
		ジムグリ			●	-	-	-	-	-	B
		シロマダラ		●	●	-	-	-	-	-	B
		ヒバカリ		●	●	-	-	-	-	-	D
		ヤマカガシ		●	●	-	-	-	-	-	D
	クサリヘビ	ニホンマムシ	●	●	-	-	-	-	-	B	
2目	7科	12種	11種	12種	0種	0種	0種	0種	2種	12種	

※分類、配列などは基本的に「平成30年度版 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2018年,国土交通省)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:千葉県指定天然記念物
- ② 「千葉県文化財保護条例」(昭和30年3月29日 条例第8号)
県天:千葉県指定天然記念物
- ③ 「各市の文化財保護条例」(表 10.9.1-2 参照)
市天:市指定天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特国内:特定国内希少野生動植物種、
緊急:緊急指定種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019の公表について」(平成31年1月24日 環境省報道発表資料)
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅡA類 EN:絶滅危惧ⅡB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:地域個体群
- ⑥ 「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編(2019年改訂版)」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
X:消息不明・絶滅生物 EW:野生絶滅 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物
D:一般保護生物 RH:保護参考雑種 不足:情報不足

(e) 昆虫類

ア) 昆虫類の生息状況

現地調査においては 18 目 268 科 1,566 種の昆虫類を確認しました。確認種は関東地方平野部の都市近郊にみられる種で構成され、樹林環境ではノコギリクワガタやヒグラシ、クロクビナガカメムシ、キマダラミヤマカミキリ、モリチャバネゴキブリ、オオモンシロナガカメムシ、ヤマトアシナガアリが、市街地や耕作地周辺ではホシベニカミキリやツマグロヒョウモンが、草地環境ではショウリョウバッタやシオヤアブ、エンマコオロギ、ゴミムシ、トビイロシワアリが、水田や河川などの水域周辺でギンヤンマやアメンボ、ヒメゲンゴロウ、トゲバゴマフガムシ、タテスジナガドロムシ、トビケラ類、ユスリカ類などの水生昆虫が確認されました。また、主に冬季から早春季に出現するために確認が難しいセマダラマグソコガネやフチグロトゲエダシャクも確認されました。その他、外来生物であるアカボシゴマダラ、アメリカミズアブも確認されました。

なお、「既存資料調査で確認されていて直接改変区域内での情報がある」ゲンジボタル及びタガメについては調査を行ったものの確認されませんでした。

現地調査結果の概要を表 10.9.1-17 に示します。

表 10.9.1-17 昆虫類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
冬季	11目80科143種	ハマベハサミムシ、コバネハサミムシ、シラカシトガリキジラミ、ヨコヅナサシガメ、ミヤマヒメカゲロウ、ナミガタチビタマムシ、ヒメサビキコリ、ムツボシテントウ、ジュウサンホシテントウ、コスナゴミムシダマシ、アジアコブカタキモグリバエ、ヒロヘリアオイラ、ゴマダラチョウ など
春季	17目184科707種	シオカラトンボ、ツチイナゴ、コガタシマトビケラ、センチコガネ、スジアオゴミムシ、コガタスズメバチ、クマバチ、ウラベニエダシヤク、イチモジヒメヨトウ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、アカボシゴマダラ など
初夏	13目175科681種	ヘイケボタル、ニジュウヤホシテントウ、ノコギリカミキリ、ゴマダラカミキリ、クワカミキリ、ドウガネツヤハムシ、カシルリオトシブミ、クリイロクチブトゾウムシ、コモンツチバチ、ミカドトックリバチ、オオハキリバチ、アオメアブ、コムラサキ、クロコノマチョウ、マイマイガ など
夏季	15目201科754種	ナツアカネ、ハラビロカマキリ、クツワムシ、トノサマバッタ、アブラゼミ、オオホシカメムシ、ウスバカゲロウ、クロケブカゴミムシ、ヒメゲンゴロウ、アオハナムグリ、ヘイケボタル、ニホンキマワリ、キボシカミキリ、クロオオアリ、サトキマダラヒカゲ、クロシタキヨトウ など
秋季	15目175科640種	アキアカネ、ノシメトンボ、モリチャバネゴキブリ、オオカマキリ、スズムシ、ハラオカメコオロギ、ヒゲジロハサミムシ、クサギカメムシ、オオクロツヤヒラタゴミムシ、オオヒラタシデムシ、アオドウガネ、ナミテントウ、アズマオオズアリ、オオスズメバチ、ウラナミシジミ、ヒカゲチョウ など
合計	18目268科1,566種	-

イ) 重要な昆虫類

現地調査により確認された重要な昆虫類は 8 目 18 科 29 種でした。現地調査及び既存資料で確認された重要な昆虫類とその選定理由を表 10.9.1-18 に示します。

表 10.9.1-18(1) 重要な昆虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況					
					①	②	③	④	⑤	⑥
トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ	●	●	-	-	-	-	-	B
		クロイトトンボ		●	-	-	-	-	-	D
		セスジイトトンボ		●	-	-	-	-	-	B
		オオセスジイトトンボ		●	-	-	-	-	EN	A
		ムスジイトトンボ		●	-	-	-	-	-	B
		オオイトトンボ		●	-	-	-	-	-	A
		キイトトンボ		●	-	-	-	-	-	C
		ベニイトトンボ		●	-	-	-	-	NT	A
		ヒヌマイトトンボ		●	-	-	市天*	-	EN	A
		モートンイトトンボ		●	-	-	-	-	NT	A
	モノサシトンボ	モノサシトンボ		●	-	-	-	-	-	C
		オオモノサシトンボ		●	-	-	-	-	EN	A
	アオイトトンボ	アオイトトンボ		●	-	-	-	-	-	C
		オツネイトトンボ		●	-	-	-	-	-	A
	サナエトンボ	ミヤマサナエ		●	-	-	-	-	-	A
		ヤマサナエ	●	●	-	-	-	-	-	D
		キイロサナエ		●	-	-	-	-	NT	B
		ホンサナエ		●	-	-	-	-	-	B
		ウチワヤンマ		●	-	-	-	-	-	D
		オナガサナエ		●	-	-	-	-	-	B
		ナゴヤサナエ		●	-	-	-	-	VU	A
		コサナエ		●	-	-	-	-	-	A
	ヤンマ	マダラヤンマ		●	-	-	-	-	NT	X
		ネアカヨシヤンマ		●	-	-	-	-	NT	B
		アオヤンマ		●	-	-	-	-	NT	B
		マルタンヤンマ		●	-	-	-	-	-	C
		クロスジギンヤンマ	●	●	-	-	-	-	-	D
		コシボソヤンマ		●	-	-	-	-	-	C
		カトリヤンマ		●	-	-	-	-	-	B
		サラサヤンマ		●	-	-	-	-	-	D
		ヤブヤンマ		●	-	-	-	-	-	D
	エゾトンボ	トラフトンボ		●	-	-	-	-	-	A
		ハネヒロエゾトンボ		●	-	-	-	-	VU	A
エゾトンボ			●	-	-	-	-	-	X	
トンボ	ベッコウトンボ		●	-	-	-	国内	CR	X	
	ヨツボシトンボ		●	-	-	-	-	-	A	
	ハラビロトンボ		●	-	-	-	-	-	B	
	チョウトンボ	●	●	-	-	-	-	-	D	
	コノシメトンボ	●	●	-	-	-	-	-	D	
	マイコアカネ		●	-	-	-	-	-	D	
	ヒメアカネ		●	-	-	市天*	-	-	A	
	ミヤマアカネ		●	-	-	-	-	-	X	
	リスアカネ		●	-	-	-	-	-	B	
	ネキトンボ		●	-	-	-	-	-	A	
	オオキトンボ		●	-	-	-	-	EN	X	

表 10.9.1-18(2) 重要な昆虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況						
					①	②	③	④	⑤	⑥	
ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ		●	-	-	-	-	-	D	
カマキリ	カマキリ	ウスバカマキリ		●	-	-	-	-	DD	不足	
バッタ	コオロギ	クロツヤコオロギ		●	-	-	-	-	-	C	
		オオオカメコオロギ		●	-	-	-	-	-	A	
	マツムシ	クチキコオロギ		●	-	-	-	-	-	D	
		カヤコオロギ		●	-	-	-	-	-	A	
	マツムシ	マツムシ		●	-	-	-	-	-	D	
		キリギリス	クツワムシ	●	●	-	-	-	-	-	C
			オオクサキリ		●	-	-	-	-	-	A
	バッタ	カスミササキリ		●	-	-	-	-	-	A	
		セグロバッタ		●	-	-	-	-	-	A	
		イナゴモドキ		●	-	-	-	-	-	A	
カメムシ	ツماغロバッタ	ツماغロバッタ		●	-	-	-	-	-	D	
		セミ		●	-	-	-	-	-	A	
	イトアメンボ	イトアメンボ		●	-	-	-	-	VU	A	
		アメンボ	エサキアメンボ		●	-	-	-	-	NT	B
	コオイムシ	コオイムシ		●	-	-	-	-	NT	-	
		タガメ		●	-	-	-	-	VU	A	
	ハナカメムシ	ズイムシハナカメムシ		●	-	-	-	-	NT	A	
	サンガメ	アカヘリサンガメ		●	-	-	-	-	-	X	
		クロバアカサシガメ		●	-	-	-	-	-	C	
	ナガカメムシ	ヒメマダラナガカメムシ	●		-	-	-	-	-	D	
		ヒメジュウジナガカメムシ	●		-	-	-	-	-	D	
	ツチカメムシ	ヨコヅナツチカメムシ		●	-	-	-	-	-	C	
		フタボシツチカメムシ		●	-	-	-	-	-	C	
	キンカメムシ	オオキンカメムシ		●	-	-	-	-	-	C	
	カメムシ	ハナダカメムシ	●	●	-	-	-	-	-	D	
		イネカメムシ	●		-	-	-	-	-	C	
		キュウシュウクチプトカメムシ		●	-	-	-	-	-	A	
ルリクチプトカメムシ			●	-	-	-	-	-	C		
ツノカメムシ	オオツノカメムシ		●	-	-	-	-	-	D		
	ベニモンツノカメムシ		●	-	-	-	-	-	C		
アミメカゲロウ	カマキリモドキ	ヒメカマキリモドキ	●	●	-	-	-	-	B		
	ツノトンボ	ツノトンボ		●	-	-	-	-	C		
コウチュウ	カワラゴミムシ	カワラゴミムシ		●	-	-	-	-	-	C	
	ハンミョウ	ホソハンミョウ		●	-	-	-	-	VU	A	
		コハンミョウ		●	-	-	-	-	-	C	
		ハラビロハンミョウ		●	-	-	-	-	VU	-	
	オサムシ	クロカタビロオサムシ		●	-	-	-	-	-	A	
		アカガネオサムシ		●	-	-	-	-	VU	B	
		マイマイカブリ	●	●	-	-	-	-	-	D	
		セアカオサムシ		●	-	-	-	-	NT	B	
		ケベリマルクビゴミムシ		●	-	-	-	-	EN	B	
		コハンミョウモドキ		●	-	-	-	-	EN	A	
		ムネアカチビヒョウタンゴミムシ		●	-	-	-	-	-	B	
		オサムシモドキ		●	-	-	-	-	-	C	
		ハマベミズギワゴミムシ		●	-	-	-	-	-	B	
		ギョウトクコミズギワゴミムシ		●	-	-	-	-	VU	A	
		ムツモンコムズギワゴミムシ		●	-	-	-	-	-	B	
ハマベゴミムシ			●	-	-	-	-	NT	A		

表 10.9.1-18(3) 重要な昆虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況						
					①	②	③	④	⑤	⑥	
コウチュウ	オサムシ	トネガワナガゴミムシ		●	-	-	-	-	-	B	
		カジムラヒメナガゴミムシ		●	-	-	-	-	-	C	
		スナハラゴミムシ		●	-	-	-	-	VU	A	
		イグチケブカゴミムシ		●	-	-	-	-	NT	C	
		クビナガヨツボシゴミムシ		●	-	-	-	-	DD	B	
		クマガイクロアオゴミムシ		●	-	-	-	-	NT	A	
		コアトワアオゴミムシ		●	-	-	-	-	-	C	
		オオサカアオゴミムシ		●	-	-	-	-	DD	C	
		アオヘリアオゴミムシ		●	-	-	-	-	CR	A	
		クビナガキベリアオゴミムシ		●	-	-	-	-	DD	C	
		チビアオゴミムシ		●	-	-	-	-	EN	A	
		オオキベリアオゴミムシ		●	-	-	-	-	-	D	
		オオトックリゴミムシ		●	-	-	-	-	NT	C	
		キイロホソゴミムシ		●	-	-	-	-	EN	A	
		ホソクビゴミムシ	アオバネホソクビゴミムシ			●	-	-	-	-	-
コホソクビゴミムシ				●	-	-	-	-	-	C	
コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ			●	-	-	-	-	VU	B	
ゲンゴロウ	シャープツブゲンゴロウ			●	-	-	-	-	-	NT	A
	キベリクロヒメゲンゴロウ			●	-	-	-	-	-	NT	B
	コガタノゲンゴロウ			●	-	-	-	-	-	VU	A
	マルガタゲンゴロウ			●	-	-	-	-	-	VU	B
	シマゲンゴロウ			●	-	-	-	-	-	NT	D
ミズスマシ	オオミズスマシ			●	-	-	-	-	-	NT	C
	ミズスマシ			●	-	-	-	-	-	VU	C
ガムシ	シジミガムシ			●	-	-	-	-	-	EN	-
	コガムシ		●	●	-	-	-	-	-	DD	D
シデムシ	ヤマトモンシデムシ			●	-	-	-	-	-	NT	B
	ベッコウヒラタシデムシ			●	-	-	-	-	-	-	D
	オニヒラタシデムシ			●	-	-	-	-	-	-	C
ハネカクシ	オオツノハネカクシ			●	-	-	-	-	DD	C	
クワガタムシ	ヒラタクワガタ			●	-	-	-	-	-	B	
センチコガネ	ムネアカセンチコガネ			●	-	-	-	-	-	D	
コガネムシ	オオフタホシマグソコガネ			●	-	-	-	-	-	B	
	ダルママグソコガネ			●	-	-	-	-	DD	A	
	ヤマトケシマグソコガネ			●	-	-	-	-	-	C	
	ヒゲブトハナムグリ			●	-	-	-	-	-	C	
	シロスジコガネ			●	-	-	-	-	-	C	
	アカマダラコガネ			●	-	-	-	-	DD	B	
タマムシ	クロタマムシ			●	-	-	-	-	-	C	
ホタル	ゲンジボタル			●	-	-	-	-	-	B	
	ヘイケボタル		●	●	-	-	-	-	-	C	
	クロマドボタル			●	-	-	-	-	-	C	
カミキリムシ	ベニバハナカミキリ			●	-	-	-	-	-	C	
	チャイロヒメハナカミキリ		●	●	-	-	-	-	-	D	
	ヨツボシカミキリ			●	-	-	-	-	EN	A	
	アカアシオオアオカミキリ		●	●	-	-	-	-	-	B	
	ネジロカミキリ			●	-	-	-	-	-	C	
	ハンノキカミキリ			●	-	-	-	-	-	A	
	アサカミキリ			●	-	-	-	-	VU	A	
ハムシ	キアシネクイハムシ			●	-	-	-	-	-	C	

表 10.9.1-18(4) 重要な昆虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況						
					①	②	③	④	⑤	⑥	
コウチュウ	ハムシ	フトネクイハムシ		●	-	-	-	-	-	C	
		キンイロネクイハムシ		●	-	-	-	-	NT	B	
		イネネクイハムシ		●	-	-	-	-	-	C	
		オオネクイハムシ		●	-	-	-	-	-	A	
		スゲハムシ		●	-	-	-	-	-	C	
		オオルリハムシ		●	-	-	-	-	NT	B	
		ジュンサイハムシ		●	-	-	-	-	-	D	
ゾウムシ	ハマベゾウムシ		●	-	-	-	-	-	A		
	イネゾウムシ	ウキクサミズゾウムシ		●	-	-	-	-	-	B	
ハチ	ミフシハバチ	ワレモコウチュウレンジ		●	-	-	-	-	-	C	
	コンボウハバチ	ホシアシプトハバチ		●	-	-	-	-	DD	-	
	キバチ	ヒゲジロキバチ		●	-	-	-	-	-	C	
	ヤドリキバチ	トサヤドリキバチ		●	-	-	-	-	DD	C	
	クキバチ	モンクキバチ		●	-	-	-	-	-	C	
	コマユバチ	シブオナガコマユバチ		●	-	-	-	-	-	A	
	セイボウ	セイドウマルセイボウ		●	-	-	-	-	-	-	C
		オオセイボウ		●	-	-	-	-	-	DD	-
		スダセイボウ		●	-	-	-	-	-	DD	-
	ベッコウバチ	ミイロツメボソクモバチ		●	-	-	-	-	-	-	C
		ムツボシベッコウ		●	-	-	-	-	-	NT	A
		フタモンベッコウ		●	-	-	-	-	-	NT	-
	ツチバチ	ヤスマツツチバチ		●	-	-	-	-	-	A	
	トロバチ	ハグロフタオビドロバチ		●	-	-	-	-	-	-	B
		キボシトックリバチ	●	●	-	-	-	-	-	-	C
	スズメバチ	ヤマトアシナガバチ		●	-	-	-	-	-	DD	-
		モンズズメバチ	●	●	-	-	-	-	-	DD	-
	アナバチ	ハクサンツヤアナバチ		●	-	-	-	-	-	-	C
		アカオビケラトリ		●	-	-	-	-	-	NT	B
		コウライピソン		●	-	-	-	-	-	DD	B
		ニッポンアワフキバチ		●	-	-	-	-	-	DD	C
		キアシハナダカバチモドキ		●	-	-	-	-	-	VU	B
		ニッポンハナダカバチ		●	-	-	-	-	-	VU	-
		ニッポントゲアナバチ		●	-	-	-	-	-	-	C
		カラトイスカバチ		●	-	-	-	-	-	DD	-
	ヒメハナバチ	ヤスマツヒメハナバチ		●	-	-	-	-	-	DD	B
		チバヤドリコハナバチ		●	-	-	-	-	-	-	C
	ケアシハナバチ	シロスジケアシハナバチ		●	-	-	-	-	-	C	
	ハキリバチ	フルカワフトハキリバチ		●	-	-	-	-	-	DD	A
		クズハキリバチ		●	-	-	-	-	-	DD	-
	コシプトハナバチ	シロスジムカシハナバチヤドリ		●	-	-	-	-	-	-	C
		ウスルリモンハナバチ		●	-	-	-	-	-	-	A
		ルリモンハナバチ		●	-	-	-	-	-	DD	-
	ミツバチ	クロマルハナバチ	●	●	-	-	-	-	-	NT	C
	シリアゲムシ	シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ		●	-	-	-	-	-	D
		ガガンボモドキ	ガガンボモドキ		●	-	-	-	-	-	C
	ハエ	アブ	イシハラアブ		●	-	-	-	-	-	A
			ハタケヤマアブ		●	-	-	-	-	-	D
		ハナアブ	カルマイツヤタマヒラタアブ		●	-	-	-	-	-	C
			カワムラモモトハナアブ		●	-	-	-	-	-	B
		マガリモンハナアブ		●	-	-	-	-	-	B	

表 10.9.1-18(5) 重要な昆虫類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況					
					①	②	③	④	⑤	⑥
ハエ	ハナアブ	カクモンアシブトハナアブ		●	-	-	-	-	-	C
		コブアリノスアブ	●	●	-	-	-	-	-	A
	ヒメイエバエ	シナハマヒメイエバエ		●	-	-	-	-	-	B
	クロバエ	カエルキンバエ		●	-	-	-	-	DD	X
		ミドリバエ		●	-	-	-	-	-	D
ニクバエ	キーガンニクバエ		●	-	-	-	-	-	C	
チョウ	ボクトウガ	ハイロボクトウ		●	-	-	-	-	NT	-
	セセリチョウ	アオバセセリ		●	-	-	-	-	-	B
		ミヤマセセリ		●	-	-	-	-	-	B
		ホソバセセリ		●	-	-	-	-	-	B
		ギンイチモンジセセリ		●	-	-	-	-	NT	-
		ミヤマチャバネセセリ		●	-	-	-	-	-	C
	オオチャバネセセリ		●	-	-	-	-	-	B	
	アゲハチョウ	オナガアゲハ		●	-	-	-	-	-	C
	シロチョウ	ツマグロキチョウ		●	-	-	-	-	EN	X
	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	●	●	-	-	-	-	-	C
		コツバメ		●	-	-	-	-	-	B
		オオミドリシジミ	●	●	-	-	-	-	-	C
		アカシジミ	●	●	-	-	-	-	-	C
		ウラナミアカシジミ		●	-	-	-	-	-	C
		ミドリシジミ	●	●	-	-	-	-	-	C
		シルビアシジミ		●	-	-	-	-	EN	B
	タテハチョウ	コムラサキ	●	●	-	-	-	-	-	C
		ミドリヒョウモン		●	-	-	-	-	-	C
		ウラギンスジヒョウモン		●	-	-	-	-	VU	X
		オオウラギンスジヒョウモン		●	-	-	-	-	-	A
		ウラギンヒョウモン		●	-	-	-	-	-	A
		オオウラギンヒョウモン		●	-	-	-	-	CR	X
		ゴマダラチョウ	●	●	-	-	-	-	-	C
		アサマイチモンジ		●	-	-	-	-	-	C
		クモガタヒョウモン		●	-	-	-	-	-	A
		ヒオドシチョウ		●	-	-	-	-	-	B
	オオムラサキ		●	-	-	-	-	NT	B	
	ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	●	●	-	-	-	-	-	C
	ドクガ	スゲドクガ		●	-	-	-	-	NT	-
	ヒトリガ	ヤネホソバ		●	-	-	-	-	NT	-
		マエアカヒトリ		●	-	-	-	-	NT	X
		ヒトリガ		●	-	-	-	-	-	B
	ヤガ	ウスズミケンモン		●	-	-	-	-	NT	C
ウスミモンキリガ			●	-	-	-	-	NT	-	
ミスジキリガ			●	-	-	-	-	NT	B	
ガマヨトウ			●	-	-	-	-	VU	C	
クスジウスキヨトウ			●	-	-	-	-	VU	-	
オオチャバネヨトウ			●	-	-	-	-	VU	C	
ギンモンアカヨトウ			●	-	-	-	-	VU	-	
イチモジヒメヨトウ		●	●	-	-	-	-	VU	C	
コシロシタバ		●	●	-	-	-	-	NT	-	
キシタアツバ			●	-	-	-	-	NT	-	
カギモンハナオヘアツバ		●	-	-	-	-	NT	-		
11目	79科	244種	29種	241種	0種	0種	2種	1種	96種	221種

※分類、配列などは基本的に「日本産野生生物目録-無脊椎動物編Ⅱ-」（1995年,環境庁）に準拠した。

注)各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年5月30日 法律第214号）
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:千葉県指定天然記念物
- ② 「千葉県文化財保護条例」（昭和30年3月29日 条例第8号）
県天:千葉県指定天然記念物
- ③ 「各市の文化財保護条例」（表 10.9.1-2 参照）
市天:市指定天然記念物（表中の「市天^{*}」は市川市指定の天然記念物であることを示す。）
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日 法律第75号）
国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特国内:特定国内希少野生動植物種、
緊急:緊急指定種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019の公表について」（平成31年1月24日 環境省報道発表資料）
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:地域個体群
- ⑥ 「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編（2019年改訂版）」（平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課）
X:消息不明・絶滅生物 EW:野生絶滅 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物
D:一般保護生物 RH:保護参考雑種 不足:情報不足

(f) 魚類

ア) 魚類の生息状況

現地調査において6目9科19種の魚類を確認しました。確認種は、主に関東地方平野部の都市近郊にみられる種で構成され、スナヤツメ類、ニホンウナギ、ギンブナ、オイカワ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ミナミメダカ、ホトケドジョウ、旧トウヨシノボリ類、スミウキゴリ、ウキゴリが確認されました。その他、外来生物であるカダヤシ、オオクチバス、国内移入種のコイ、ゲンゴロウブナ、カワムツ、ツチフキ、飼育品種であるヒメダカも確認されました。

現地調査結果の概要を表 10.9.1-19 に示します。

表 10.9.1-19 魚類の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	確認種
早春季	4目5科10種	コイ、ギンブナ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、カダヤシ、ミナミメダカ、旧トウヨシノボリ類、スミウキゴリ、ウキゴリ
春季	5目6科12種	スナヤツメ類、コイ、オイカワ、カワムツ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、カダヤシ、ミナミメダカ、ヒメダカ、旧トウヨシノボリ類、スミウキゴリ
夏季	6目9科17種	スナヤツメ類、ニホンウナギ、コイ、ギンブナ、オイカワ、モツゴ、タモロコ、ツチフキ、ドジョウ、ホトケドジョウ、カダヤシ、ミナミメダカ、ヒメダカ、オオクチバス、旧トウヨシノボリ類、スミウキゴリ、ウキゴリ
秋季	3目4科9種	コイ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、オイカワ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、カダヤシ、旧トウヨシノボリ類
合計	6目9科19種	-

イ) 重要な魚類

現地調査により確認された重要な魚類は4目6科9種でした。なお、ゲンゴロウブナ及びツチフキは、調査地域で自然分布しない種であり、他地域からの移入種です。現地調査及び既存資料で確認された重要な魚類とその選定理由を表 10.9.1-20 に示します。

表 10.9.1-20 重要な魚類

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況					
					①	②	③	④	⑤	⑥
ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類	●	●	-	-	-	-	VU	A
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	●	●	-	-	-	-	EN	C
コイ	コイ	ゲンゴロウブナ	●	●	-	-	-	-	EN	-
		キンブナ		●	-	-	-	-	VU	B
		ギンブナ	●	●	-	-	-	-	-	D
		ヤリタナゴ		●	-	-	-	-	NT	B
		アカヒレタビラ		●	-	-	-	-	EN	A
		ワタカ		●	-	-	-	-	CR	-
		ハス		●	-	-	-	-	VU	-
		モツゴ	●	●	-	-	-	-	-	D
		カマツカ		●	-	-	-	-	-	B
		ツチフキ	●		-	-	-	-	EN	-
		ニゴイ		●	-	-	-	-	-	C
		スゴモロコ		●	-	-	-	-	VU	-
	ドジョウ	ドジョウ	●	●	-	-	-	-	NT	-
	フクドジョウ	ホトケドジョウ	●	●	-	-	-	-	EN	C
ナマズ	ナマズ	ナマズ		●	-	-	-	-	-	B
サケ	シラウオ	シラウオ		●	-	-	-	-	-	C
ダツ	メダカ	ミナミメダカ	●	●	-	-	-	-	VU	B
	サヨリ	クルメサヨリ		●	-	-	-	-	NT	C
スズキ	ハゼ	トビハゼ		●	-	-	-	-	NT	B
		ヌマチチブ		●	-	-	-	-	-	D
		ピリンゴ		●	-	-	-	-	-	D
		ジュズカケハゼ		●	-	-	-	-	NT	B
		エドハゼ		●	-	-	-	-	VU	C
7目	10科	25種	9種	24種	0種	0種	0種	0種	17種	19種

※分類、配列などは基本的に「平成30年度版 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2018年,国土交通省)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:千葉県指定天然記念物
- ② 「千葉県文化財保護条例」(昭和30年3月29日 条例第8号)
県天:千葉県指定天然記念物
- ③ 「各市の文化財保護条例」(表 10.9.1-2 参照)
市天:市指定天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特国内:特定国内希少野生動植物種、
緊急:緊急指定種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019の公表について」(平成31年1月24日 環境省報道発表資料)
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:地域個体群
- ⑥ 「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編(2019年改訂版)」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
X:消息不明・絶滅生物 EW:野生絶滅 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物
D:一般保護生物 RH:保護参考雑種 不足:情報不足

(g) 底生動物

ア) 底生動物の生息状況

現地調査においては26目73科149種の底生動物を確認しました。エラミミズ等のミズミミズ類、アメリカザリガニ及びユスリカ類等は、多くの採集地点で確認されました。また、ヒメモノアラガイ、カワコザラガイ、コムズムシ、ヌカエビ、サワガニ、サホコカゲロウ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボ、アメンボ、ヒメアメンボ、シマアメンボ、ハイイロゲンゴロウ等が確認されました。外来生物であるアメリカザリガニ、タイワンシジミ、フロリダミズヨコエビ、アメリカツノウズムシ、コシダカヒメモノアラガイ等も確認されました。

現地調査結果の概要を表 10.9.1-21 に示します。

表 10.9.1-21 底生動物の現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
早春季	23目48科90種	アメリカツノウズムシ、カワニナ、サカマキガイ、ミツゲミズミミズ、シマイシビル、アメリカザリガニ、シオカラトンボ、アメンボ、コガタシマトビケラ、ユスリカ属 など
春季	20目46科96種	ナミウズムシ、モノアラガイ、タイワンシジミ、ミズミミズ、ヌマイシビル、テナガエビ、オニヤンマ、シマアメンボ、ウルマーシマトビケラ、ヒメゲンゴロウ など
夏季	22目60科100種	アメリカナミウズムシ、ヒメタニシ、イトミミズ、カイヨウミミズ、ヌマビル、スジエビ、キイロサナエ、コオイムシ、ニンギョウトビケラ、コガムシ など
秋季	17目39科64種	カワニナ、エラミミズ、ヌマビル、ヌカエビ、Jコカゲロウ、ハグロトンボ、ヤマサナエ、オオシオカラトンボ、シマアメンボ、ニンギョウトビケラ など
合計	26目73科149種	-

イ) 重要な底生動物

現地調査により確認された重要な底生動物は5目9科13種でした。現地調査及び既存資料で確認された重要な底生動物とその選定理由を表 10.9.1-22 に示します。

表 10.9.1-22 重要な底生動物

目名	科名	種名	現地調査 確認	既存資料 確認	指定状況					
					①	②	③	④	⑤	⑥
新生腹足	タニシ	マルタニシ		●	-	-	-	-	VU	D
		オオタニシ		●	-	-	-	-	NT	-
	ウミニナ	ウミニナ		●	-	-	-	-	NT	C
	ワカウラツボ	カワグチツボ		●	-	-	-	-	NT	D
	イツマデガイ	カタヤマガイ		●	-	-	-	-	CR+EN	A
	エゾマメタニシ	マメタニシ		●	-	-	-	-	VU	A
	ムシロガイ	キヌボラ		●	-	-	-	-	-	D
汎有肺	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	●	●	-	-	-	-	DD	-
		モノアラガイ	●	●	-	-	-	-	NT	A
イシガイ	イシガイ	カラスガイ		●	-	-	-	-	NT	A
		ヨコハマシジラガイ		●	-	-	-	-	NT	C
		イシガイ		●	-	-	-	-	-	-
マルスダレガイ	シオサザナミ	ムラサキガイ		●	-	-	-	-	VU	B
	フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ		●	-	-	-	-	NT	A
	シジミ	ヤマトシジミ		●	-	-	-	-	NT	B
		マシジミ		●	-	-	-	-	VU	A
	マルスダレガイ	オキシジミ		●	-	-	-	-	-	C
		オキアサリ		●	-	-	-	-	-	-
ハナグモリガイ	ハナグモリガイ		●	-	-	-	-	VU	A	
異靱帯	オキナガイ	ソトオリガイ		●	-	-	-	-	VU	D
オオノガイ	オオノガイ	ヒメマスオ		●	-	-	-	-	-	B
エビ(十脚)	テナガエビ	テナガエビ	●	●	-	-	-	-	-	D
		スジエビ	●	●	-	-	-	-	-	D
	ヌマエビ	ヌカエビ	●	●	-	-	-	-	-	C
	ハサミシャコエビ	ハサミシャコエビ		●	-	-	-	-	-	C
	イワガニ	モクズガニ	●		-	-	-	-	-	D
	ベンケイガニ	ウモレベンケイガニ		●	-	-	-	-	-	A
	ムツハアリアケガニ	アリアケモドキ		●	-	-	-	-	-	A
	コメツキガニ	チゴガニ		●	-	-	-	-	-	D
	サワガニ	サワガニ	●	●	-	-	-	-	-	C
トンボ(蜻蛉)	サナエトンボ	ヤマサナエ	●	●	-	-	-	-	-	D
		キイロサナエ	●	●	-	-	-	-	NT	B
		オナガサナエ	●	●	-	-	-	-	-	B
	ヤンマ	ヤブヤンマ	●	●	-	-	-	-	-	D
カメムシ(半翅)	コオイムシ	コオイムシ	●	●	-	-	-	-	NT	-
コウチュウ(鞘翅)	ガムシ	コガムシ	●	●	-	-	-	-	DD	D
10目	27科	36種	13種	35種	0種	0種	0種	0種	19種	33種

※分類、配列などは基本的に「平成30年度版 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2018年,国土交通省)に準拠した。

注) 各選定基準の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:千葉県指定天然記念物
- ② 「千葉県文化財保護条例」(昭和30年3月29日 条例第8号)
県天:千葉県指定天然記念物
- ③ 「各市の文化財保護条例」(表 10.9.1-2 参照)
市天:市指定天然記念物
- ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特国内:特定国内希少野生動植物種、
緊急:緊急指定種
- ⑤ 「環境省レッドリスト2019の公表について」(平成31年1月24日 環境省報道発表資料)
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:地域個体群
- ⑥ 「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編(2019年改訂版)」(平成31年3月 千葉県環境生活部自然保護課)
X:消息不明・絶滅生物 EW:野生絶滅 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物
D:一般保護生物 RH:保護参考雑種 不足:情報不足

2) 予測の結果

(1) 予測の手法

道路の存在、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置及び建設機械の稼働に係る動物の予測は、「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）〔国土技術政策総合研究所資料第 714 号〕」（平成 25 年 3 月、国土技術政策総合研究所）及び「道路環境影響評価の技術手法「13. 動物、植物、生態系」における環境保全のための取り組みに関する事例集（平成 27 年度版）〔国土技術政策総合研究所資料第 906 号〕」（平成 28 年 3 月、国土技術政策総合研究所）に基づき行いました。

a) 予測方法

道路構造、工事施工ヤードや工事用道路等と動物の重要な種の生息地及び注目すべき生息地の分布範囲から、生息地が消失・縮小する区間及び重要な種等の移動経路が分断される区間並びにその程度を把握しました。次に、それらが動物の重要な種等の生息に及ぼす影響の程度を科学的知見及び類似事例を参考に予測しました。

b) 予測地域及び予測地点

予測地域は、地表部が改変され直接的な影響を受ける地域（以下、『直接改変区域』と称します。）と、工事作業または道路の存在による間接的な影響を受ける地域（以下、『都市計画対象道路事業実施区域周辺』と称します。）としました。

予測地域及び地点

直接改変区域：都市計画対象道路事業実施区域内の直接改変を受ける区域（供用後は法面や側道等を含む道路用地境界まで、工事中は施工ヤード等を含みます。）

都市計画対象道路事業実施区域周辺：直接改変区域を除く調査範囲

※直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺の範囲以外の地域（都市計画対象道路事業実施区域から 250m 以上離れた区域）を『その他』と称す。

c) 予測の対象時期

予測の対象時期は、動物の生態的特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期としました。

d) 予測対象の選定

予測対象は、直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺において「①現地調査または既存資料調査による具体的な位置情報がある重要な種及び生息地」と「②既存資料調査において生息の可能性が高いと考えられる重要な種」を選定しました。「既存資料調査で確認されているが、直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載が無く、生息の可能性も低いと判断される種」は予測対象から除外しました。

動物の重要な種及び生息地の予測対象の選定結果を表 10.9.1-23 に示します。

現地調査及び既存資料調査で確認された重要な種の 460 種（昆虫類と底生動物との重複種 2 種を除くと 458 種）から 99 種（昆虫類と底生動物との重複種 2 種を除くと 97 種）を予測対象に選定しました。予測対象は、哺乳類が 2 種、鳥類が 35 種、両生類が 3 種、爬虫類が 10 種、昆虫類が 29 種（内 2 種が底生動物と重複）、魚類が 7 種、底生動物が 13 種（内 2 種が昆虫類と重複）です。

表 10.9.1-23(1) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠	
		現地調査	既存資料			
哺乳類	ジネズミ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ヒミズ		○			
	ヒナコウモリ		○			
	ニホンリス		○			
	カヤネズミ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	ホンドキツネ	○	○	●		
	ニホンアナグマ		○			既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
鳥類	ウズラ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	コクガン		○			
	ツクシガモ		○			
	オシドリ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	オカヨシガモ		○			
	ヨシガモ		○			
	トモエガモ		○			
	アカハジロ		○			
	スズガモ		○			
	ビロードキンクロ		○			
	ホオジロガモ		○			
	ウミアイサ		○			
	カイツブリ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	カンムリカイツブリ		○			既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	シラコバト		○			
	アオバト	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	シロハラミズナギドリ		○			既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	クロコシジロウミツバメ		○			
	サンカノゴイ		○			
	ヨシゴイ		○			
ミゾゴイ		○				
ダイサギ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。		
チュウサギ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。		

表 10.9.1-23(2) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
鳥類	コサギ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	クロサギ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	カラシラサギ		○		
	ヘラサギ		○		
	クロツラヘラサギ		○		
	シマクイナ		○		
	クイナ		○		
	ヒクイナ		○		
	バン	○	○	●	
	オオバン	○	○	●	
	ホトトギス	○	○	●	
	ツツドリ	○	○	●	
	カッコウ		○		
	ヨタカ		○		
	アマツバメ		○		
	ヒメアマツバメ		○		
	タゲリ		○		
	ケリ		○		
	ムナグロ		○		
	イカルチドリ		○		
	コチドリ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	シロチドリ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	メダイチドリ		○		
	オオメダイチドリ		○		
	ミヤコドリ		○		
	セイタカシギ		○		
	オオジシギ		○		
	チュウジシギ		○		
	オグロシギ		○		
	オオソリハシシギ		○		
	コシャクシギ		○		
	チュウシャクシギ		○		
	ダイシャクシギ		○		
	ハウロクシギ		○		
	ツルシギ		○		
	アカアシシギ		○		
	アオアシシギ		○		
	カラフトアオアシシギ		○		
	クサシギ		○		
	タカブシギ		○		
	キアシシギ		○		
	ソリハシシギ		○		
イソシギ		○			
キョウジョシギ		○			
オバシギ		○			

表 10.9.1-23(3) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
鳥類	コオバシギ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ミユビシギ		○		
	トウネン		○		
	ウズラシギ		○		
	ハマシギ		○		
	キリアイ		○		
	タマシギ		○		
	ツバメチドリ		○		
	ズグロカモメ		○		
	コアジサシ		○		
	ベニアジサシ		○		
	エリグロアジサシ		○		
	ミサゴ		○		
	ハチクマ		○		
	オジロワシ		○		
	オオワシ		○		
	チュウヒ		○		
	ツミ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ハイタカ	○	○	●	
	オオタカ	○	○	●	
	サシバ	○	○	●	
	ノスリ	○	○	●	
	イヌワシ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	オオコノハズク		○		
	フクロウ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	アオバズク		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	トラフズク		○		
	コミミズク		○		
	カワセミ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ヤマセミ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	アカゲラ	○	○	●	
	アオゲラ	○	○	●	
	ハヤブサ	○	○	●	
	サンショウクイ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
サンコウチョウ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。	
チゴモズ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
アカモズ		○			
カケス	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。	
ヒバリ	○	○	●		
コシアカツバメ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
イワツバメ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
ヤブサメ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
オオムシクイ	○		●		予測地域内で現地確認されている。
センダイムシクイ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
オオセッカ		○			

表 10.9.1-23(4) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
鳥類	オオヨシキリ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	コヨシキリ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	セッカ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ミソサザイ	○	○	●	
	トラツグミ	○	○	●	
	クロツグミ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	コサメビタキ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	キビタキ	○	○	●	
	オオルリ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	カヤクグリ		○		
	キセキレイ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	イカル		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ホオジロ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ホオアカ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	クロジ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	コジュリン		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
オオジュリン	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。	
両生類	アカハライモリ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	アズマヒキガエル	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ニホンアカガエル	○	○	●	
	トウキョウダルマガエル		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ツチガエル		○		
	シュレーゲルアオガエル	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
爬虫類	ニホンイシガメ	○	○	●	
	スッポン属の一種	○	○		移入種であるため予測の対象外とする。
	ニホンヤモリ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ヒガシニホントカゲ	○	○	●	
	ニホンカナヘビ	○	○	●	
	シマヘビ	○	○	●	
	アオダイショウ	○	○	●	
	ジムグリ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	シロマダラ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ヒバカリ	○	○	●	
	ヤマカガシ	○	○	●	
	ニホンマムシ	○	○	●	
ホソミイトトンボ	○	○	●		
昆虫類	クロイトトンボ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	セスジイトトンボ		○		
	オオセスジイトトンボ		○		
	ムスジイトトンボ		○		
	オオイトトンボ		○		
	キイトトンボ		○		
	ベニイトトンボ		○		
	ヒヌマイトトンボ		○		
	モートンイトトンボ		○		

表 10.9.1-23(5) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠	
		現地調査	既存資料			
昆虫類	モノサシトンボ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	オオモノサシトンボ		○			
	アオイトトンボ		○			
	オツネトンボ		○			
	ミヤマサナエ		○			
	ヤマサナエ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。	
	キイロサナエ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ホンサナエ		○			
	ウチワヤンマ		○			
	オナガサナエ		○			
	ナゴヤサナエ		○			
	コサナエ		○			
	マダラヤンマ		○			
	ネアカヨシヤンマ		○			
	アオヤンマ		○			
	マルタンヤンマ		○			
	クロスジギンヤンマ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	コシボソヤンマ		○			既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	カトリヤンマ		○			
	サラサヤンマ		○			
	ヤブヤンマ		○			
	トラフトンボ		○			
	ハネヒロエゾトンボ		○			
	エゾトンボ		○			
	ベッコウトンボ		○			
	ヨツボシトンボ		○			
	ハラヒロトンボ		○			
	チョウトンボ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。	
	コノシメトンボ	○	○	●		
	マイアカネ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ヒメアカネ		○			
	ミヤマアカネ		○			
	リスアカネ		○			
	ネキトンボ		○			
	オオキトンボ		○			
	オオゴキブリ		○			
	ウスバカマキリ		○			
	クロツヤコオロギ		○			
	オオオカメコオロギ		○			
	クチキコオロギ		○			
カヤコオロギ		○				
マツムシ		○				
クツワムシ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。		
オオクサキリ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。		
カスミササキリ		○				

表 10.9.1-23(6) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠	
		現地調査	既存資料			
昆虫類	セグロバツタ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	イナゴモドキ		○			
	ツマグロバツタ		○			
	ハルゼミ		○			
	イトアメンボ		○			
	エサキアメンボ		○			
	コオイムシ		○			
	タガメ		○			現地調査結果等より現在は生息していない。
	ズイムシハナカメムシ		○			既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	アカヘリサシガメ		○			
	クロバアカサシガメ		○			
	ヒメマダラナガカメムシ	○		●	予測地域内で現地確認されている。	
	ヒメジュウジナガカメムシ	○		●		
	ヨコツナツチカメムシ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	フタボシツチカメムシ		○			
	オオキンカメムシ		○			
	ハナダカカメムシ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	イネカメムシ	○		●		
	キュウシュウクチプトカメムシ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ルリクチプトカメムシ		○			
	オオツノカメムシ		○			
	ベニモンツノカメムシ		○			
	ヒメカマキリモドキ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	ツノトンボ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	カワラゴミムシ		○			
	ホソハンミョウ		○			
	コハンミョウ		○			
	ハラビロハンミョウ		○			
	クロカタビロオサムシ		○			
	アカガネオサムシ		○			
	マイマイカブリ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	セアカオサムシ		○			既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	キベリマルクビゴミムシ		○			
	コハンミョウモドキ		○			
	ムネアカチビヒョウタンゴミムシ		○			
	オサムシモドキ		○			
	ハマベミズギワゴミムシ		○			
	ギョウトクコミズギワゴミムシ		○			
	ムツモンコミズギワゴミムシ		○			
	ハマベゴミムシ		○			
トネガワナガゴミムシ		○				
カジムラヒメナガゴミムシ		○				
スナハラゴミムシ		○				
イグチケブカゴミムシ		○				
クビナガヨツボシゴミムシ		○				

表 10.9.1-23(7) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
昆虫類	クマガイクロアオゴミムシ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	コアトワアオゴミムシ		○		
	オオサカアオゴミムシ		○		
	アオヘリアオゴミムシ		○		
	クビナガキベリアオゴミムシ		○		
	チビアオゴミムシ		○		
	オオキベリアオゴミムシ		○		
	オオトックリゴミムシ		○		
	キイロホソゴミムシ		○		
	アオバネホソクビゴミムシ		○		
	コホソクビゴミムシ		○		
	マダラコガシラミズムシ		○		
	シャープツブゲンゴロウ		○		
	キベリクロヒメゲンゴロウ		○		
	コガタノゲンゴロウ		○		
	マルガタゲンゴロウ		○		
	シマゲンゴロウ		○		
	オオミズスマシ		○		
	ミズスマシ		○		
	シジミガムシ		○		
コガムシ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。	
ヤマトモンシデムシ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
ベッコウヒラタシデムシ		○			
オニヒラタシデムシ		○			
オオツノハネカクシ		○			
ヒラタクワガタ		○			
ムネアカセンチコガネ		○			
オオフタホシマグソコガネ		○			
ダルママグソコガネ		○			
ヤマトケシマグソコガネ		○			
ヒゲブトハナムグリ		○			
シロスジコガネ		○			
アカマダラコガネ		○			
クロタママシ		○			
ゲンジボタル		○			現地調査結果等より現在は生息していない。
ハイケボタル	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。	
クロマドボタル		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
ベニバハナカミキリ		○			
チャイロヒメハナカミキリ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。	
ヨツボシカミキリ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
アカアシオオアオカミキリ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
ネジロカミキリ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
ハンノキカミキリ		○			
アサカミキリ		○			
キアシネクイハムシ		○			

表 10.9.1-23(8) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
昆虫類	フトネクイハムシ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	キンイロネクイハムシ		○		
	イネネクイハムシ		○		
	オオネクイハムシ		○		
	スゲハムシ		○		
	オオルリハムシ		○		
	ジュンサイハムシ		○		
	ハマベゾウムシ		○		
	ウキクサミズゾウムシ		○		
	ワレモコウチュウレンジ		○		
	ホシアシブトハバチ		○		
	ヒゲジロキバチ		○		
	トサヤドリキバチ		○		
	モンクキバチ		○		
	シブオナガコマユバチ		○		
	セイドウマルセイボウ		○		
	オオセイボウ		○		
	スダセイボウ		○		
	ミイロツメボソクモバチ		○		
	ムツボシベッコウ		○		
	フタモンベッコウ		○		
	ヤスマツツチバチ		○		
	ハグロフタオビドロバチ		○		
	キボシトックリバチ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ヤマトアシナガバチ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	モンズズメバチ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ハクサンツヤアナバチ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	アカオビケラトリ		○		
	コウライビソク		○		
	ニッポンアワフキバチ		○		
	キアシハナダカバチモドキ		○		
	ニッポンハナダカバチ		○		
	ニッポントゲアナバチ		○		
	カラトイスカバチ		○		
	ヤスマツヒメハナバチ		○		
	チバヤドリコハナバチ		○		
	シロスジケアシハナバチ		○		
	フルカワフトハキリバチ		○		
	クズハキリバチ		○		
	シロスジムカシハナバチヤドリ		○		
ウスルリモンハナバチ		○			
ルリモンハナバチ		○			
クロマルハナバチ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。	
ヤマトシリアゲ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
ガガンボモドキ		○			

表 10.9.1-23(9) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠	
		現地調査	既存資料			
昆虫類	イシハラアブ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ハタケヤマアブ		○			
	カルマイツヤタマヒラタアブ		○			
	カワムラモモトハナアブ		○			
	マガリモンハナアブ		○			
	カクモンアシブトハナアブ		○			
	コブアリノスアブ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。	
	シナハマヒメイエバエ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	カエルキンバエ		○			
	ミドリバエ		○			
	キーガンニクバエ		○			
	ハイイロボクトウ		○			
	アオバセセリ		○			
	ミヤマセセリ		○			
	ホソバセセリ		○			
	ギンイチモンジセセリ		○			
	ミヤマチャバネセセリ		○			
	オオチャバネセセリ		○			
	オナガアゲハ		○			
	ツマグロキチョウ		○			
	ミズイロオナガシジミ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	コツバメ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	オオミドリシジミ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	アカシジミ	○	○	●		
	ウラナミアカシジミ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ミドリシジミ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	シルビアシジミ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	コムラサキ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	ミドリヒョウモン		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	ウラギンスジヒョウモン		○			
	オオウラギンスジヒョウモン		○			
	ウラギンヒョウモン		○			
	オオウラギンヒョウモン		○			
	ゴマダラチョウ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	アサマイチモンジ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
	クモガタヒョウモン		○			
	ヒオドシチョウ		○			
	オオムラサキ		○			
	ジャノメチョウ	○	○	●		予測地域内で現地確認されている。
	スゲドクガ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。	
ヤネホソバ		○				
マエアカヒトリ		○				
ヒトリガ		○				
ウスズミケンモン		○				
ウスミモンキリガ		○				

表 10.9.1-23(10) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
昆虫類	ミスジキリガ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ガマヨトウ		○		
	クスジウスキヨトウ		○		
	オオチャバネヨトウ		○		
	ギンモンアカヨトウ		○		
	イチモジヒメヨトウ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	コシロシタバ	○	○	●	
	キシタアツバ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
カギモンハナオイアツバ		○			
魚類	スナヤツメ類	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ニホンウナギ	○	○	●	
	ゲンゴロウブナ	○	○		移入種であるため予測の対象外とする。
	キンブナ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ギンブナ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ヤリタナゴ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	アカヒレタビラ		○		
	ワタカ		○		
	ハス		○		
	モツゴ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	カマツカ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ツチフキ	○			移入種であるため予測の対象外とする。
	ニゴイ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	スゴモロコ		○		
	ドジョウ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	ホトケドジョウ	○	○	●	
	ナマズ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	シラウオ		○		
	ミナミメダカ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	クルマサヨリ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	トビハゼ		○		
	ヌマチチブ		○		
	ビリンゴ		○		
ジュズカケハゼ		○			
エドハゼ		○			
底生動物	マルタニシ		○		
	オオタニシ		○		
	ウミニナ		○		
	カワグチツボ		○		
	カタヤマガイ		○		
	マメタニシ		○		
	キヌボラ		○		
	コシダカヒメモノアラガイ	○	○	●	予測地域内で現地確認されている。
	モノアラガイ	○	○	●	
	カラスガイ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
ヨコハマシジラガイ		○			

表 10.9.1-23(11) 予測対象の選定結果

分類群	種名	確認状況		予測対象	選別根拠
		現地調査	既存資料		
底生動物	イシガイ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	ムラサキガイ		○		
	ウネナントマヤガイ		○		
	ヤマトシジミ		○		
	マシジミ		○		
	オキシジミ		○		
	オキアサリ		○		
	ハナグモリガイ		○		
	ソトオリガイ		○		
	ヒメマスオ		○		
	テナガエビ	○	○	●	
	スジエビ	○	○	●	
	ヌカエビ	○	○	●	
	ハサミシャコエビ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	モクズガニ	○		●	予測地域内で現地確認されている。
	ウモレベンケイガニ		○		既存資料に直接改変区域及び都市計画対象道路事業実施区域周辺での位置情報の記載なし。
	アリアケモドキ		○		予測地域内で現地確認されている。
	チゴガニ		○		
	サワガニ	○	○	●	
	ヤマサナエ	○	○	●	
	キイロサナエ	○	○	●	
	オナガサナエ	○	○	●	
	ヤブヤンマ	○	○	●	
コオイムシ	○	○	●		
コガムシ	○	○	●		
-	460種	102種	454種	99種	-

注) 合計は、昆虫類と底生動物とで重複する種を含めた集計値である。

e) 影響予測の手順

動物の重要な種の影響予測の手順を図 10.9.1-2 に示します。

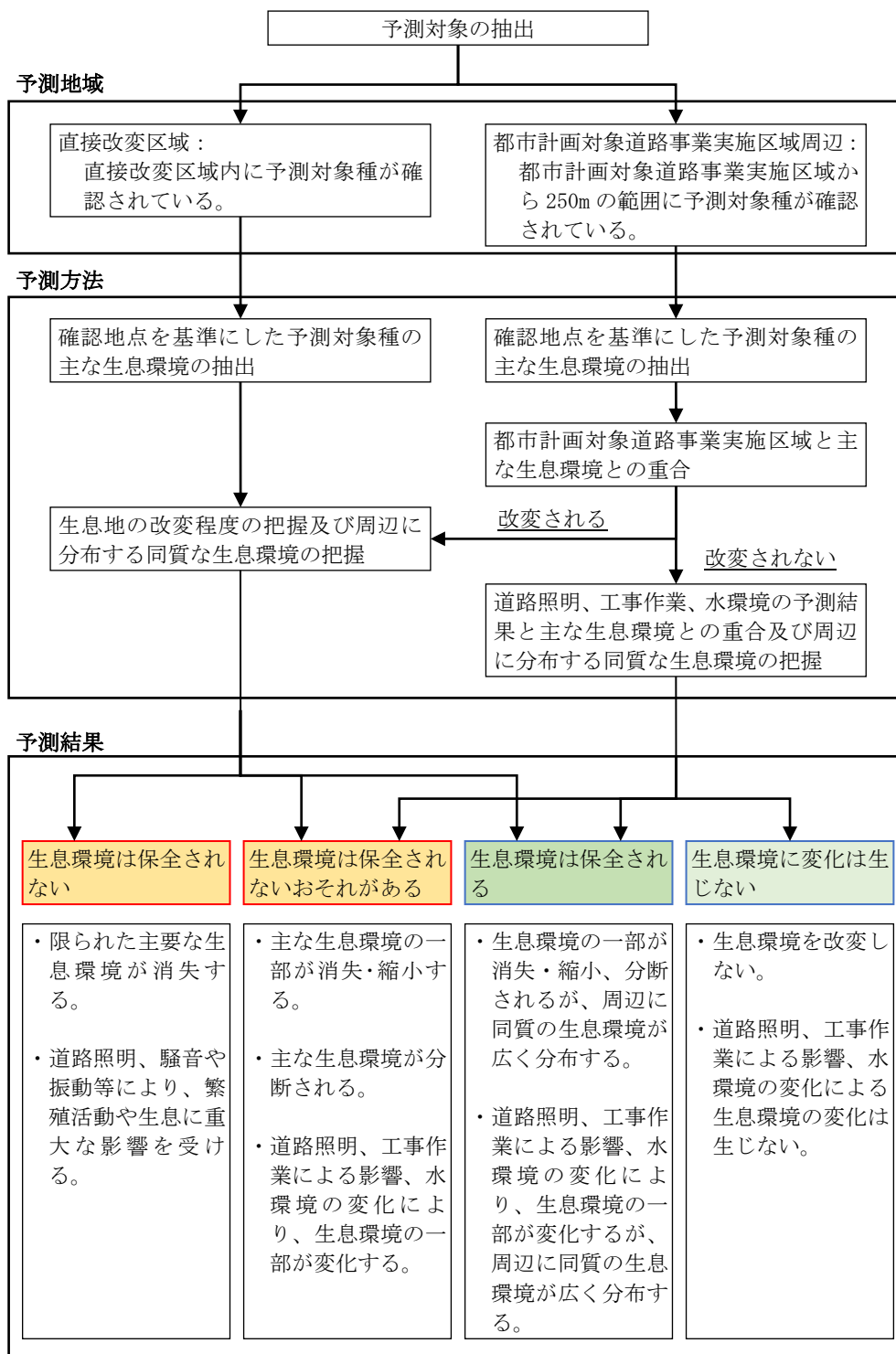


図 10.9.1-2 予測手順

(2) 予測結果

動物の重要な種の予測結果の概要を表 10.9.1-24 に示します。

表 10.9.1-24(1) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			直接改変 区域	事業実施 区域周辺		
哺乳類	1 カヤネズミ	水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	2 ホンドキツネ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境		●	無	生息環境は保全される
鳥類	1 オシドリ	水辺環境、樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	2 カイツブリ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	3 アオバト	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	4 ダイサギ	水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境	●	●	無	生息環境は保全される
	5 コサギ	水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	6 バン	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	7 オオバン	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	8 ホトトギス	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	9 ツツドリ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	10 コチドリ	水辺環境、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	11 ツミ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	12 ハイタカ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	13 オオタカ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境	●	●	有	生息環境は保全されない
	14 サシバ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	15 ノスリ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	16 ハヤブサ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される

表 10.9.1-24(2) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			直接改変 区域	事業実施 区域周辺		
鳥 類	17 フクロウ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	18 カワセミ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	19 アカゲラ	樹林環境	●	●	無	生息環境は保全される
	20 アオゲラ	樹林環境	●	●	無	生息環境は保全される
	21 サンコウチョウ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	22 カケス	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	23 ヒバリ	耕作地及び緑の多い住宅地環境	●	●	無	生息環境は保全される
	24 イワツバメ	耕作地及び緑の多い住宅地環境	●	●	無	生息環境は保全される
	25 オオムシクイ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	26 オオヨシキリ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	27 セッカ	水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境	●	●	無	生息環境は保全される
	28 ミソサザイ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	29 トラツグミ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	30 コサメビタキ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	31 キビタキ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	32 キセキレイ	水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	33 ホオジロ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
34 クロジ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される	
35 オオジュリン	水辺環境		●	無	生息環境は保全される	

表 10.9.1-24(3) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			直接改変 区域	事業実施 区域周辺		
両生類	1 アズマヒキガエル	水辺環境、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境	●	●	無	生息環境は保全される
	2 ニホンアカガエル	水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	3 シュレーゲルアオガエル	水辺環境、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
爬虫類	1 ニホンイシガメ	樹林環境、水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	2 ニホンヤモリ	耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	3 ヒガシニホントカゲ	耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	4 ニホンカナヘビ	耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	5 シマヘビ	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	6 アオダイショウ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	7 シロマダラ	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	8 ヒバカリ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	9 ヤマカガシ	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	10 ニホンマムシ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
昆虫類	1 ホソミイトトンボ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	2 ヤマサナエ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	3 クロスジギンヤンマ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	4 チョウトンボ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	5 コノシメトンボ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	6 クツワムシ	耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される

表 10.9.1-24(4) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			直接改変 区域	事業実施 区域周辺		
昆虫類	7 ヒメダダラナガカメムシ	樹林環境、 耕作地及び緑の多い 住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	8 ヒメジュウジナガカメムシ	樹林環境、 耕作地及び緑の多い 住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	9 ハナダカカメムシ	樹林環境、 耕作地及び緑の多い 住宅地環境	●	●	無	生息環境は保全される
	10 イネカメムシ	耕作地及び緑の多い 住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	11 ヒメカマキリモドキ	樹林環境	●		無	生息環境は保全される
	12 マイマイカブリ	樹林環境	●	●	無	生息環境は保全される
	13 コガムシ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	14 ヘイケボタル	耕作地及び緑の多い 住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	15 チャイロヒメハナカミキリ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	16 アカアシオオアオカミキリ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	17 キボシトックリバチ	耕作地及び緑の多い 住宅地環境		●	無	生息環境は保全される
	18 モンスズメバチ	耕作地及び緑の多い 住宅地環境、樹林環 境、水辺環境、		●	無	生息環境は保全される
	19 クロマルハナバチ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	20 コブアリノスアブ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	21 ミズイロオナガシジミ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	22 オオミドリシジミ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	23 アカシジミ	樹林環境	●	●	無	生息環境は保全される
	24 ミドリシジミ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	25 コムラサキ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される

表 10.9.1-24(5) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			直接改変 区域	事業実施 区域周辺		
昆虫類	26 ゴマダラチョウ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	27 ジャノメチョウ	耕作地及び緑の多い 住宅地環境、 水辺環境、	●	●	無	生息環境は保全される
	28 イチモジヒメヨトウ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
	29 コシロシタバ	樹林環境		●	無	生息環境は保全される
魚類	1 スナヤツメ類	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	2 ニホンウナギ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	3 ギンブナ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	4 モツゴ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	5 ドジョウ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	6 ホトケドジョウ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	7 ミナミメダカ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
底生動物	1 コシダカヒメモノアラガイ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	2 モノアラガイ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	3 テナガエビ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	4 スジエビ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	5 スカエビ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	6 モクズガニ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	7 サワガニ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	8 ヤマサナエ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される

表 10.9.1-24(6) 重要な種の予測結果概要

分類群	種名	確認種の生息環境	確認地点		影響の有無	生息環境への影響
			直接改変 区域	事業実施 区域周辺		
底生動物	9 キイロサナエ	水辺環境	●	●	無	生息環境は保全される
	10 オナガサナエ	水辺環境	●		無	生息環境は保全される
	11 ヤブヤンマ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	12 コオイムシ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される
	13 コガムシ	水辺環境		●	無	生息環境は保全される

注) 確認地点の“●”は、現地調査において確認された種を示す。

a) 哺乳類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な哺乳類の予測結果を表 10.9.1-25 に示します。

表 10.9.1-25(1) 重要な哺乳類の予測結果

1 カヤネズミ	
一般生態	<p>頭胴長 50~80mm、尾長 61~83mm、体重 7~14g 程度。低地の草地、水田、畑、休耕地、沼沢地、などのイネ科・カヤツリグサ科植物が密生し水気のあるところに多く生息する。繁殖期は、大部分の地域では春と秋の年 2 回であるが、まれに夏にも繁殖する。鳥が作るような球形の巣を作り、1 回に生まれる仔の数は 2~8 頭、平均 5.4 頭である。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 (水辺環境) 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、水辺環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 70m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分 (事業による改変面積約 3.5ha) で、上流、下流には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考ええる。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。なお、本種は同一の巣を繰り返し使用せず、繁殖の都度造巣するため巣への執着が低いと判断されることから、巣と生息地を移動させながら立地の変化に対応すると考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境 (成育・繁殖に係る環境) の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

表 10.9.1-25(2) 重要な哺乳類の予測結果

2 ホンドキツネ	
一般生態	<p>頭胴長 60~75cm、尾長 40cm、体重 4~7kg。都市郊外から山岳地までさまざまな環境に生息するが、森林と畑地が混在する田園環境を好む。主に小型動物を捕食しているが、コクワなどの果実類も食べる。春先の 3~4 月に平均 4 頭の仔を巣穴の中で出産し、夏までは家族群で生活する。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 (樹林環境) 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分 (事業による改変面積約 7.4ha) であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考えられる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。なお、本種は移動性が高いため、工事中の立地の変化に対応可能であると考えられる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

b) 鳥類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な鳥類の予測結果を表 10.9.1-26 に示します。

表 10.9.1-26(1) 重要な鳥類の予測結果

1 オシドリ	
一般生態	<p>中型のカモ類で全長は雄 48 cm、雌 41 cm。雄の繁殖羽は目立つ色彩をしている。北海道・本州・九州・沖縄で繁殖し、越冬期に各地の池等で見られる。主に植物質のものを餌とし、いろいろな木の実を食べるが、特にカシ類、ナラ類のドングリを好む。営巣は樹洞で行い、産卵期は 4～7 月で 7～12 個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 1 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境 (水辺環境)
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、水辺環境を中心に樹林環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分 (事業による改変面積約 3.5ha) であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件 (流量・水温など) の変化も生じないと考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・その他の区域の卵塊及び幼生が確認された水辺環境では、工事中にも地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件 (流量・水温など) の変化も生じないと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境 (成育・繁殖に係る環境) の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(2) 重要な鳥類の予測結果

2 カイツブリ	
一般生態	<p>全長 26cm、翼開長 45cm。潜水が巧みな茶色っぽい小さな水鳥。全国で繁殖し、主に平野部の池、湖、沼に生息し、秋冬には川の下流域でもよく見られる。餌は魚のほか水生昆虫もよく捕え、ヒシの実のような植物質の餌もとる。繁殖期は長期にわたり、2月頃に幼鳥が見られることもある。たくさんの水草の葉や茎で水面に浮き巣を作り、3～6個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2箇所3個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1箇所1個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点1箇所は直接改変区域から250m以上離れており、確認地点2箇所も直接改変区域から250m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約3.5ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(3) 重要な鳥類の予測結果

3 アオバト	
一般生態	<p>全長 33cm。名前の通り全体的にオリーブ色。本州では繁殖する留鳥。丘陵地から山地の森林に生息する。植物食で果実や種子等を食べる。樹上に木の枝を束ねた皿型の巣を作る。産卵期は6月頃で、2個程度の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接変更区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接変更区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点1箇所は、直接変更区域から90m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による変更面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接変更区域以外の場所の変更はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(4) 重要な鳥類の予測結果

4 ダイサギ	
一般生態	<p>全長 89cm、翼開長 130cm。日本では各地で繁殖し、河川、湖沼、池、水田、湿地、河口、干潟などに生息する。水の中をゆっくり歩いて餌を探し、魚、アメリカザリガニなどをよく捕らえる。雑木林などに集団で繁殖し、サギ山と呼ばれる混合コロニーを作る。産卵期は4～6月で2～4個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 2箇所 8個体 ・都市計画対象道路 : 12箇所 12個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 7箇所 9個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、水辺環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 2箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 7箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 12箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(5) 重要な鳥類の予測結果

5 コサギ	
一般生態	<p>全長 61cm、翼開長 98cm。留鳥で、河川、水田、湖沼、池、湿地、河口、干潟、海岸などの水辺に広く生息する。魚などを嘴ではさみとり、餌とする。サギ山で集団繁殖し、産卵期は4～8月で3～5個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : ー ・都市計画対象道路 : 4箇所4個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1箇所1個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : ー ・都市計画対象道路 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、水辺環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考ええる。 ・確認地点1箇所は直接改変区域から250m以上離れており、確認地点4箇所も直接改変区域から10m程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(6) 重要な鳥類の予測結果

6 バン	
一般生態	成鳥の全長は約 32cm、翼開長約 52cm。夏鳥として渡来し、湖沼、川、水田等を好み、開けた場所にもよく出てきて活動する。地上や浅瀬を歩いて、植物の実や昆虫類等を餌として食べる習性がある。年に 2~3 回繁殖し、水辺の草やヨシ原等に枯草を積み上げて巣を作り、5~12 個の卵を産む。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 1 個体
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 1 箇所も直接改変区域から 120m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施 建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(7) 重要な鳥類の予測結果

7 オオバン	
一般生態	成鳥の全長は約 39cm、翼開長約 74cm。関東地方以北の湖沼や川、池等で繁殖し、平地から低山の湖沼、池、河川、ハス田等に生息する。泳ぎながら水草や水生昆虫等を食べ、時々水に潜って水底の水草をとって食べたりもする。ヨシ原や草むらの中に枯草を積み上げた巣を作り、5～10 個の卵を産む。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施 建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(8) 重要な鳥類の予測結果

8 ホトトギス	
一般生態	<p>全長 28cm、翼開長 46cm。夏鳥として渡来する。生息環境は主な托卵相手であるウグイスと一致し、低山から山地の笹藪のある林に生息する。単独で行動することが多く、主に樹上で昆虫類を捕らえる。托卵性を持ち、雌はウグイスの巣から1卵をくわえ取り、ウグイスの卵によく似たチョコレート色の卵を1つ産み込む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2箇所 2 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 (樹林環境) 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域からそれぞれ 50m、180m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分 (事業による改変面積約 7.4ha) であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(9) 重要な鳥類の予測結果

9 ツツドリ	
一般生態	<p>全長 33cm、翼長 18~22cm。夏鳥として渡来し、山地の落葉広葉樹林に生息する。春や秋の渡りの季節には市街地の公園並木や林でも通過する姿が見られ、他の鳥類があまり食べない鱗翅類の幼虫（毛虫）を捕食する。センダイムシクイやメボソムシクイなどのムシクイ類に托卵する。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境） 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考ええる。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 70m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(10) 重要な鳥類の予測結果

10 コチドリ	
一般生態	<p>全長 16cm、翼開長 35cm。夏鳥として渡来する。川の中～下流の砂礫の河原を主な生息場所とし、昆虫などの小動物を餌とする。巣は開けた砂地や砂礫地の地面に作られる。産卵期は4～7月で、4個程度の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 18箇所 25 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 2箇所 3 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境（水辺環境） 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、水辺環境を中心に樹林環境や耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考えられる。 ・確認地点 2 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 18 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(11) 重要な鳥類の予測結果

11 ツミ	
一般生態	<p>全長は雄 27 cm、雌 30cm。翼開長約 51~63cm。夏鳥または留鳥として九州以北に分布し、平地から亜高山帯の林に生息する。林内や林縁、草地等で主に小鳥類を捕食するが、昆虫類や小型ネズミ類等も捕らえる。針葉樹や広葉樹の枝に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作り、4 月中旬から 5 月に 3~5 卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 1 個体 <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年に 2 例確認。 ・平成 27 年に 3 例確認。 ・平成 30 年に 5 例確認。 ・平成 31 年に 4 例確認。 ・当該調査地域での繁殖は確認されていない。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境） 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境） <p>【猛禽類調査】 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境</p>
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境や水辺環境を利用していると考ええる。 ・本種は、猛禽類を対象とした調査において繁殖は確認されていないため、種の存続に重要な繁殖中の生息環境の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。なお、本種は猛禽類を対象とした調査において繁殖は確認されていない。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測しない。</p>

表 10.9.1-26(12) 重要な鳥類の予測結果

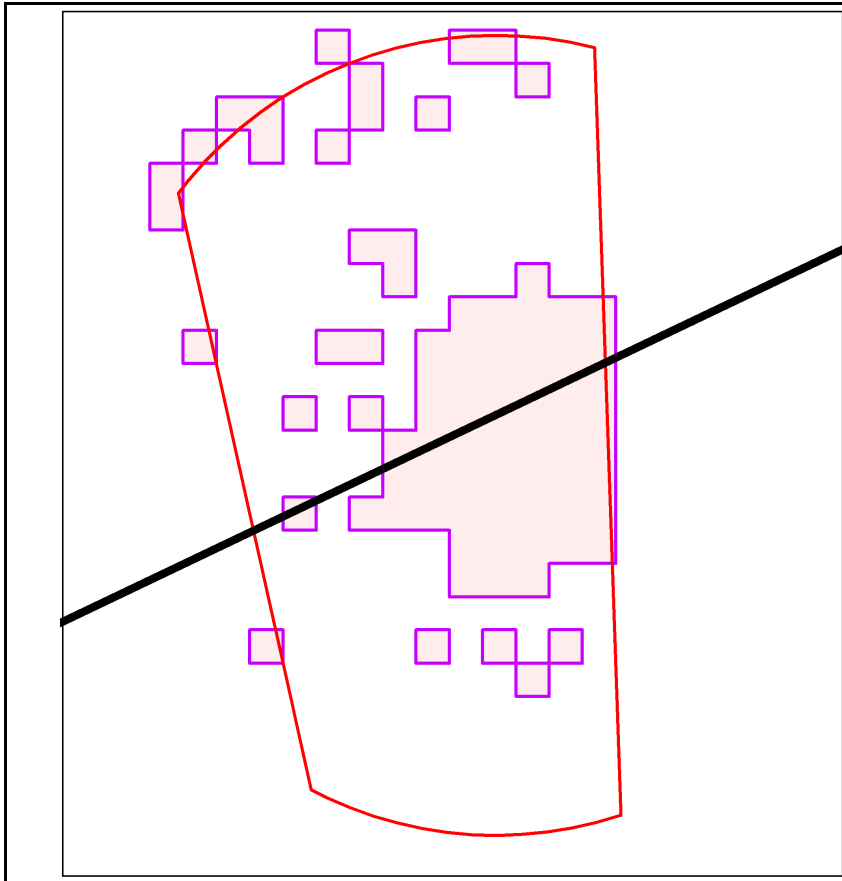
12 ハイタカ	
一般生態	<p>全長は雄 32 cm、雌 39cm。翼開長約 61~79cm。亜高山から平地の林に生息し、本州以北で繁殖する。留鳥であるが、一部は冬季に暖地へ移動する。餌としてツグミ位までの小鳥を狩るが、ネズミやリス等を捕らえることもある。針葉樹の葉が密生した枝上に枯れ枝を積み重ね皿型の巣を作り、5月頃に3~5卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1箇所 1個体 ・都市計画対象道路事業実施区域周辺 : 3箇所 3個体 ・その他 : 2箇所 2個体
	<p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年に 5 例確認。 ・平成 27 年に 16 例確認。 ・平成 30 年に 27 例確認。 ・平成 31 年に 16 例確認。 ・主に冬期の越冬個体が確認されており、当該調査地域での繁殖は確認されていない。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境） ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 <p>【猛禽類調査】 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境</p>
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境や水辺環境を利用していると考ええる。 ・本種は、猛禽類を対象とした調査において繁殖は確認されていないため、種の存続に重要な繁殖中の生息環境の消失・縮小は生じないと考ええる。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。なお、本種は猛禽類を対象とした調査において繁殖は確認されていない。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(13-1) 重要な鳥類の予測結果

13 オオタカ																																																																																																																		
一般生態	<p>全長は雄 50 cm、雌 56cm。翼開長 106～131cm。亜高山から平地の林に留鳥として生息するが、しばしば獲物を求めて農耕地や水辺など開けた場所へも出てくる。獲物は主に小鳥や、中～大形の鳥である。林内の大木の枝上に枯れ枝を積んで皿型の巣を作り、4月中旬～5月上旬に2～3個の卵を産む。</p>																																																																																																																	
確認状況	現地調査	<p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年～令和元年までの調査で、調査区域内でオオタカ6つがいが確認され、2番のつがいを除いて繁殖の成功が確認された。 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地区番号</th> <th rowspan="2">巣から都市計画対象道路事業実施区域までの水平距離</th> <th colspan="7">各年の繁殖状況 ()内は巣立ち雛数</th> </tr> <tr> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>0.3km以内</td> <td>○ (1以上)</td> <td>○ (3以上)</td> <td>○ (2以上)</td> <td>○ (2以上)</td> <td>○ (1以上)</td> <td>○ (3以上)</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0.3km以内</td> <td>－</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>×</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0.3km以上 1km以下</td> <td>×</td> <td>○ (不詳)</td> <td>○ (1以上)</td> <td>○ (2以上)</td> <td>○ (2以上)</td> <td>○ (2以上)</td> <td>○ (3以上)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0.3km以上 1km以下</td> <td>○ (1以上)</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>○ (1以上)</td> <td>○ (2以上)</td> <td>○ (1以上)</td> <td>○ (2以上)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>0.3km以上 1km以下</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>○ (不詳)</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1km以上</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>○ (2以上)</td> <td>○ (2以上)</td> <td>○ (3以上)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・各つがいで行動圏の解析を行った結果、1番のつがいでは営巣中心域内に直接改変区域が位置する。</p> <p>・2番のつがいは、営巣地から都市計画対象道路までの距離は近いが、営巣中心域の新たな改変は生じない。</p> <p>・3番～6番の4つがいについては、営巣中心域の分断はなく、高利用域の分断はあるが改変割合は小さい。</p> <p>・6つがいの行動圏の解析結果は図 10.9.1-3 に示すとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地区番号</th> <th>路線から巣までの距離</th> <th>行動圏の分断状況</th> <th>高利用域面積 (ha)</th> <th>高利用域の改変面積 (ha)</th> <th>高利用域の(改変割合) (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>0.3km以内</td> <td>営巣中心域を分断する</td> <td>456</td> <td>10</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0.3km以内</td> <td>高利用域を分断する</td> <td>472</td> <td>13</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0.3km以上 1km以下</td> <td>高利用域を分断する</td> <td>709</td> <td>3</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0.3km以上 1km以下</td> <td>高利用域を分断する</td> <td>594</td> <td>7</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>0.3km以上 1km以下</td> <td>高利用域を分断する</td> <td>550</td> <td>6</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1km以上</td> <td>高利用域を分断する</td> <td>578</td> <td>9</td> <td>1.5</td> </tr> </tbody> </table>	地区番号	巣から都市計画対象道路事業実施区域までの水平距離	各年の繁殖状況 ()内は巣立ち雛数							H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	1	0.3km以内	○ (1以上)	○ (3以上)	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (1以上)	○ (3以上)	△	2	0.3km以内	－	△	△	△	△	×	△	3	0.3km以上 1km以下	×	○ (不詳)	○ (1以上)	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (3以上)	4	0.3km以上 1km以下	○ (1以上)	－	－	○ (1以上)	○ (2以上)	○ (1以上)	○ (2以上)	5	0.3km以上 1km以下	－	－	－	－	－	○ (不詳)	△	6	1km以上	－	－	－	－	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (3以上)	地区番号	路線から巣までの距離	行動圏の分断状況	高利用域面積 (ha)	高利用域の改変面積 (ha)	高利用域の(改変割合) (%)	1	0.3km以内	営巣中心域を分断する	456	10	2.2	2	0.3km以内	高利用域を分断する	472	13	2.7	3	0.3km以上 1km以下	高利用域を分断する	709	3	0.5	4	0.3km以上 1km以下	高利用域を分断する	594	7	1.2	5	0.3km以上 1km以下	高利用域を分断する	550	6	1.1	6	1km以上	高利用域を分断する	578	9	1.5
		地区番号			巣から都市計画対象道路事業実施区域までの水平距離	各年の繁殖状況 ()内は巣立ち雛数																																																																																																												
			H25	H26		H27	H28	H29	H30	H31・R1																																																																																																								
1	0.3km以内	○ (1以上)	○ (3以上)	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (1以上)	○ (3以上)	△																																																																																																										
2	0.3km以内	－	△	△	△	△	×	△																																																																																																										
3	0.3km以上 1km以下	×	○ (不詳)	○ (1以上)	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (3以上)																																																																																																										
4	0.3km以上 1km以下	○ (1以上)	－	－	○ (1以上)	○ (2以上)	○ (1以上)	○ (2以上)																																																																																																										
5	0.3km以上 1km以下	－	－	－	－	－	○ (不詳)	△																																																																																																										
6	1km以上	－	－	－	－	○ (2以上)	○ (2以上)	○ (3以上)																																																																																																										
地区番号	路線から巣までの距離	行動圏の分断状況	高利用域面積 (ha)	高利用域の改変面積 (ha)	高利用域の(改変割合) (%)																																																																																																													
1	0.3km以内	営巣中心域を分断する	456	10	2.2																																																																																																													
2	0.3km以内	高利用域を分断する	472	13	2.7																																																																																																													
3	0.3km以上 1km以下	高利用域を分断する	709	3	0.5																																																																																																													
4	0.3km以上 1km以下	高利用域を分断する	594	7	1.2																																																																																																													
5	0.3km以上 1km以下	高利用域を分断する	550	6	1.1																																																																																																													
6	1km以上	高利用域を分断する	578	9	1.5																																																																																																													
確認地点の生息環境	現地調査	樹林環境、水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境																																																																																																																

表 10.9.1-26(13-2) 重要な鳥類の予測結果

13 オオタカ												
影響予測	存在・供用	<p>・調査地域における本種の生息環境は主に樹林環境で、水辺環境や耕作地及び緑の多い住宅地等も利用していると考ええる。</p> <p>・1 番のつがいについては、事業実施により営巣中心域を改変することとなるので、当つがいの生息環境は保全されないと予測する。</p> <p>・1 番のつがいでは営巣中心域となる営巣林を改変するが、行動圏内には営巣可能な営巣可能域が事業実施後にも約 94%残る。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>営巣可能域の数</th> <th>営巣可能域の残存数</th> <th>営巣可能域の面積 (ha)</th> <th>営巣可能域の残存面積 (ha)</th> <th>営巣可能域の残存率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12</td> <td>12</td> <td>75.5</td> <td>70.8</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table> <p>注)行動圏を巣の周囲 3km として整理しています。</p> <p>・2 番のつがいについては、営巣地から都市計画対象道路までの距離は近いが、営巣中心域の樹林の改変は生じない。また、高利用域の分断はあるものの改変割合は小さいことから、採餌環境等への影響は小さく、当つがいの生息環境は保全されると予測する。</p> <p>・3 番～6 番の 4 つがいについては、営巣中心域の分断はなく、高利用域の分断はあるものの改変割合は小さいことから、採餌環境等への影響は小さく、当つがいの生息環境は保全されると予測する。</p> <p>以上より、道路の供用後には本種及び生息環境は一部保全されないと予測する。</p>	営巣可能域の数	営巣可能域の残存数	営巣可能域の面積 (ha)	営巣可能域の残存面積 (ha)	営巣可能域の残存率 (%)	12	12	75.5	70.8	94
	営巣可能域の数	営巣可能域の残存数	営巣可能域の面積 (ha)	営巣可能域の残存面積 (ha)	営巣可能域の残存率 (%)							
12	12	75.5	70.8	94								
工事の実施	<p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <p>・1 番のつがいについては、事業実施により営巣中心域を改変することとなるので、営巣環境に影響があるとともに、工事の実施及びそれに伴う騒音・振動等により繁殖活動に影響がある可能性がある。よって、当つがいの生息環境は保全されないと予測する。</p> <p>・2 番のつがいについては、営巣中心域の新たな改変は生じないが、工事の実施及びそれに伴う騒音・振動等により繁殖活動に影響がある可能性がある。よって、当つがいの生息環境は保全されないおそれがあると予測する。</p> <p>・3 番～6 番の 4 つがいについては、高利用域の分断はあるものの改変割合は小さいことから、工事の実施に伴う採餌環境等への影響は小さいと考える。また、工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。</p> <p>以上より、工事実施中には本種及び生息環境は保全されない、または保全されないおそれがあると予測する。</p>											



凡 例

— : 都市計画対象道路事業
実施区域イメージ

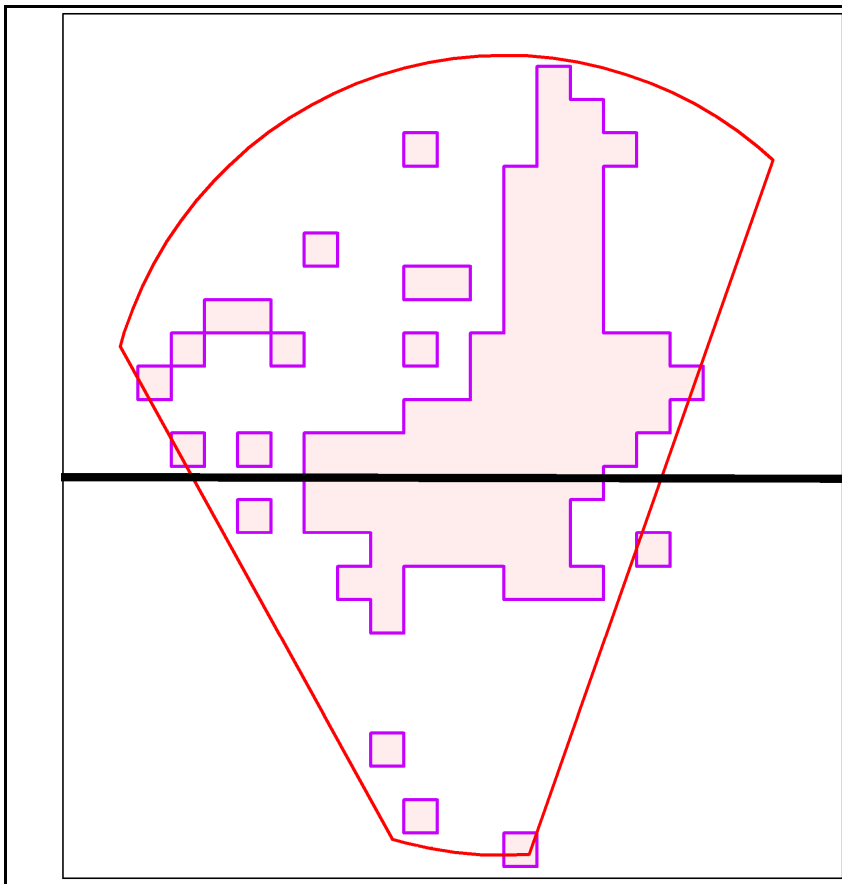
○ : 行動圏

□ : 高利用域



図 番 図 10.9.1-3(1)

図 名 1番のつがいの
行動圏解析結果



凡 例

— : 都市計画対象道路事業
実施区域イメージ

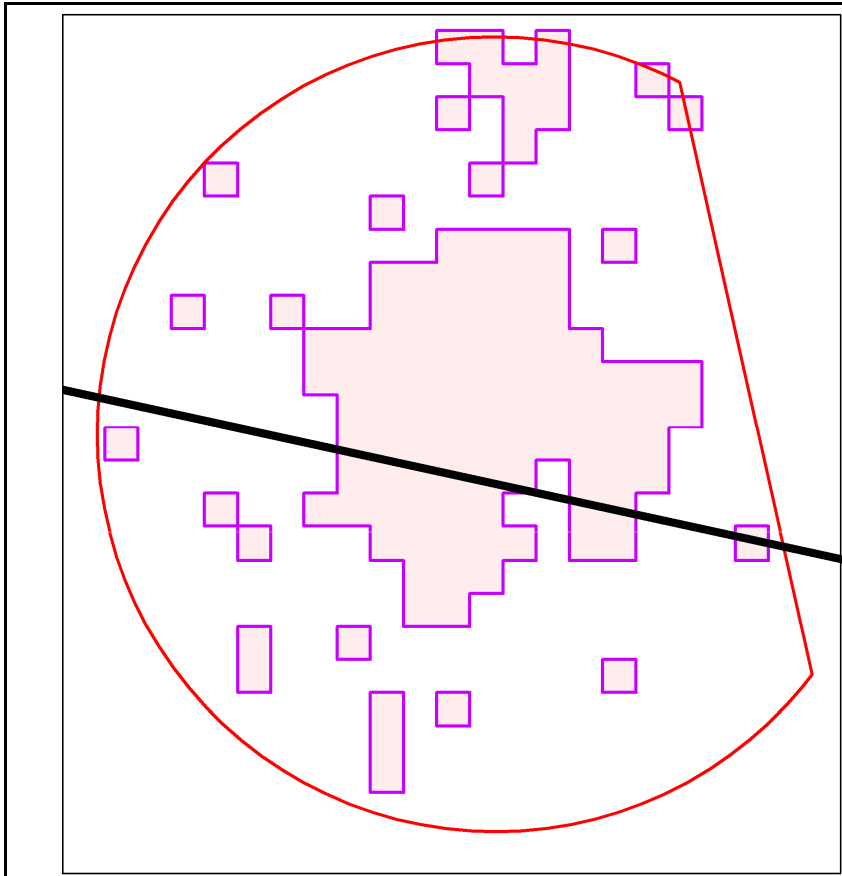
○ : 行動圏

□ : 高利用域



図 番 図 10.9.1-3(2)

図 名 2番のつがいの
行動圏解析結果



凡 例

— : 都市計画対象道路事業
実施区域イメージ

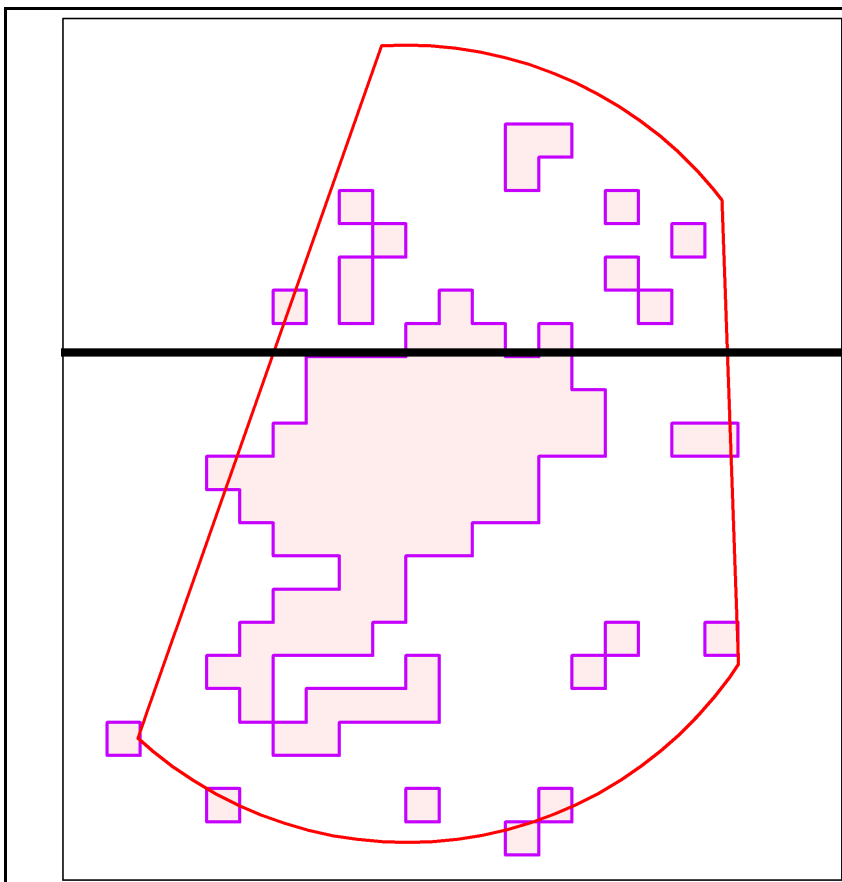
○ : 行動圏

□ : 高利用域



図 番 図 10.9.1-3(3)

図 名 3番のつがいの
行動圏解析結果



凡 例

— : 都市計画対象道路事業
実施区域イメージ

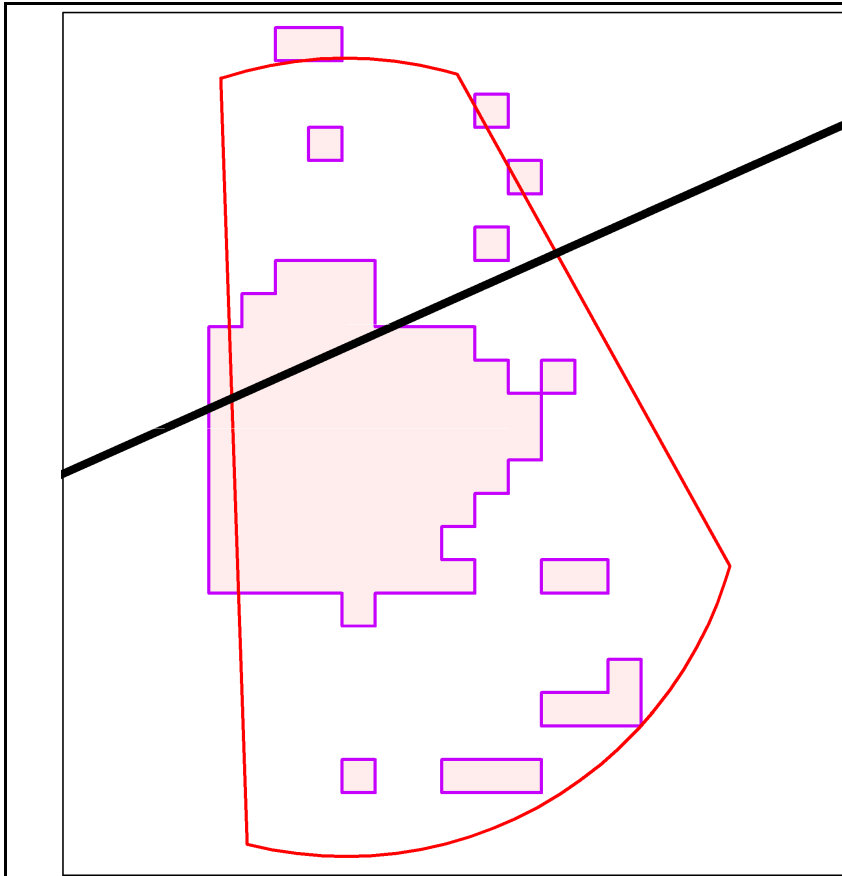
○ : 行動圏

□ : 高利用域



図 番 図 10.9.1-3(4)

図 名 4番のつがいの
行動圏解析結果



凡 例

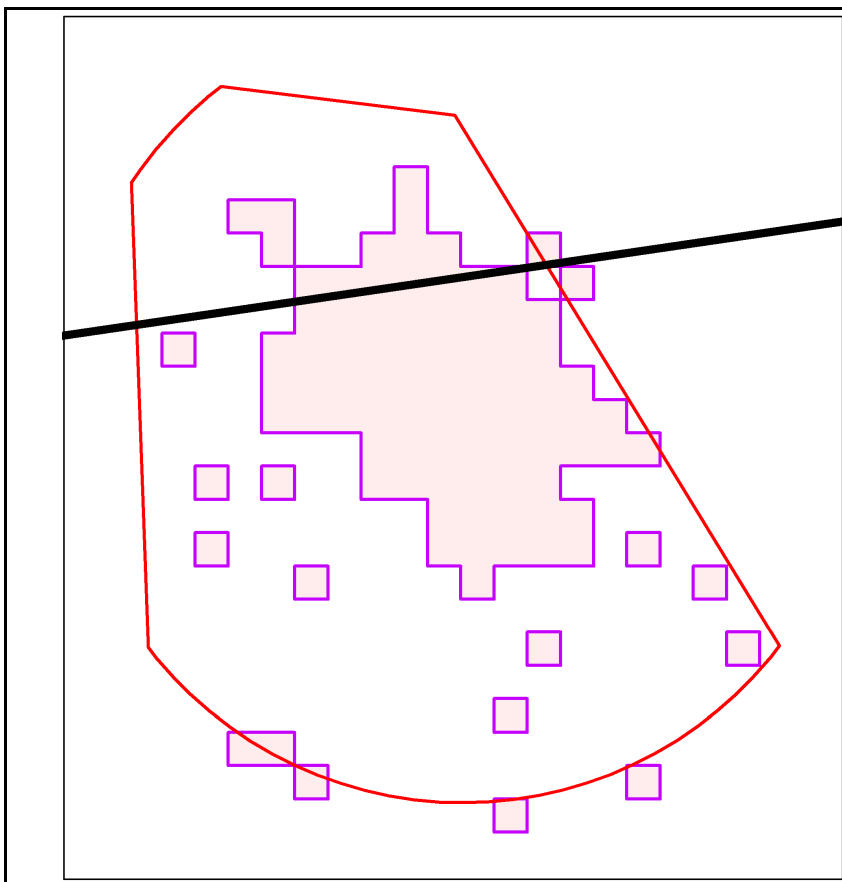
— : 都市計画対象道路事業
実施区域イメージ

○ : 行動圏

□ : 高利用域



図 番	図 10.9.1-3(5)
図 名	5番のつがいの 行動圏解析結果



凡 例

— : 都市計画対象道路事業
実施区域イメージ

○ : 行動圏

□ : 高利用域



図 番	図 10.9.1-3(6)
図 名	6番のつがいの 行動圏解析結果

表 10.9.1-26(14) 重要な鳥類の予測結果

14 サシバ	
一般生態	<p>全長は雄 47 cm、雌 51cm。翼開長 103～115cm。夏鳥として渡来する。低山から丘陵の林に棲み、水田の周辺などの開けた場所で餌を捕る。ヘビ、トカゲ、カエル、昆虫を狩るがネズミや小鳥を捕まえることもある。林内のマツやスギの枝上に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作り、5 月頃に 2～4 個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 10 箇所 11 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年に 1 例確認。 ・平成 26 年に 3 例確認。 ・平成 27 年に 2 例確認。 ・平成 30 年に 193 例確認。 ・平成 31 年に 202 例確認。 ・1 つがいの生息を確認し、平成 30 年、令和元年ともに産卵以降に繁殖失敗を確認した。 ・確認した 1 つがいの営巣地は、都市計画対象道路事業実施区域から 1km 以上離れていた。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - <p>【猛禽類調査】 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境</p>
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境や水辺環境を利用していると考ええる。 ・本種は、猛禽類を対象とした調査において繁殖が確認されているが、営巣地は直接改変区域より 1km 以上離れていることより、生息環境の消失・縮小は生じないと考える。なお、サシバの行動圏は営巣中心域と高利用域で構成され、高利用域の目安は営巣地から 500m とされている（「サシバ保護の進め方」(平成 25 年 12 月、環境省)）。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。なお、本種は猛禽類を対象とした調査において繁殖は確認されていない。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(15) 重要な鳥類の予測結果

15 ノスリ	
一般生態	<p>全長は雄 52 cm、雌 57cm。翼開長約 122～137cm。亜高山（冬季は低山）から平地の林に生息する。北海道から四国にかけて繁殖し、留鳥といえるが、寒くなると寒地や高地のものの一部は暖地・低地へ移動する。餌はネズミ等の小型哺乳類、カエル、ヘビ、昆虫、鳥等を食べる。林内の大木の枝の股に枯れ枝を積み重ねて皿型の巣を作り、5月頃に2～3卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1箇所1個体 ・都市計画対象道路事業実施区域周辺 : 1箇所1個体 ・その他 : 1箇所1個体 <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年に4例確認。 ・平成27年に12例確認。 ・平成30年に24例確認。 ・平成31年に15例確認。 ・主に冬期の越冬個体が確認されており、当該調査地域での繁殖は確認されていない。
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路事業実施区域周辺 : 樹林環境 ・その他 : 水辺環境 <p>【猛禽類調査】 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境</p>
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・本種は、猛禽類を対象とした調査において繁殖は確認されていないため、種の存続に重要な繁殖中の生息環境の消失・縮小は生じないと考えられる。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考えられる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考えられる。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。なお、本種は猛禽類を対象とした調査において繁殖は確認されていない。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(16) 重要な鳥類の予測結果

16 ハヤブサ		
一般生態	<p>全長は雄 42 cm、雌 49 cm。平地から山地の林に留鳥として生息する。夜行性で、ネズミを主食とし、小鳥やホンドイタチ、時には昆虫や小動物も食べる。社寺の林等の大木の樹洞に巣をつくり、3~4 月頃に 1~5 個の卵を産む。巣は地上や廃屋、カラスやタカ古巣などにもつくる。</p>	
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : - <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年に 1 例確認。 ・平成 27 年に 3 例確認。 ・平成 30 年に 5 例確認。 ・平成 31 年に 4 例確認。 ・当該調査地域での繁殖は確認されていない。 	
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : - <p>【猛禽類調査】 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境</p>	
影響予測	存在・供用	<p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・本種は、猛禽類を対象とした調査において繁殖は確認されていないため、種の存続に重要な繁殖中の生息環境の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考えられる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。なお、本種は猛禽類を対象とした調査において繁殖は確認されていない。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(17) 重要な鳥類の予測結果

17 フクロウ	
一般生態	<p>全長 50 cm。平地から山地の林に留鳥として生息する。夜行性で、ネズミを主食とし、小鳥やイタチ、時には昆虫や小動物も食べる。社寺の林等の大木の樹洞に巣をつくり、3~4 月頃に 1~5 個の卵を産む。巣は地上や廃屋、カラスやタカ古巣などにもつくる。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 3 箇所 3 個体 ・都市計画対象道路 : 5 箇所 5 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 25 箇所 25 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境や水辺環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 3 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 25 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 5 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。なお、本種は猛禽類を対象とした調査において繁殖は確認されていない。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(18) 重要な鳥類の予測結果

18 カワセミ	
一般生態	<p>全長 17cm、翼開長 25cm。全国に分布し繁殖する。平地から山地の川、池、湖などの水辺に生息し、水中にダイビングして魚を捕らえる。水辺の土の崖に嘴を使って 50~100cm 位の深さの巣穴を掘る。産卵期は 3~8 月で、4~7 個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 5 箇所 5 個体 ・都市計画対象道路 : 26 箇所 26 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 4 箇所 4 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点 5 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 4 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 26 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(19) 重要な鳥類の予測結果

19 アカゲラ	
一般生態	<p>全長 24cm、翼開長 39cm。平地から山地の林に留鳥として生息する。木の幹に縦にとまり、嘴で幹を叩いて中にいる昆虫やその幼虫を食べる。秋冬には幹の中で越冬中の昆虫類のほかに木の実も少し食べる。枯れ木や生木の幹に嘴で穴を掘って巣穴とし、4~6 個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1 箇所 1 個体 ・都市計画対象道路 : 5 箇所 5 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 樹林環境 ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 5 箇所は直接改変区域から 40m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26 (20) 重要な鳥類の予測結果

20 アオゲラ	
一般生態	<p>全長 29 cm。全国で繁殖の記録があり、平地から山地の林に普通に見られる。主に昆虫やその幼虫を木の幹の樹皮の間から取り出して食べるが、秋冬にはカキやその他の木の実もよく食べる。林の生きた木の幹に嘴で穴を掘って巣穴とし、5～8 個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1 箇所 1 個体 ・都市計画対象道路 : 3 箇所 3 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 3 箇所は直接改変区域から 150m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(21) 重要な鳥類の予測結果

21 サンコウチョウ	
一般生態	<p>全長は雄 45 cm、雌 17 cm。夏鳥として5月ころ渡来し、全国に分布する。冬は東南アジアに渡って越冬する。沢沿いの谷や傾斜のある山地に生息し、ハエ、ハチ、チョウといった飛翔する昆虫をフライングキャッチ法で捕獲する。スギやヒノキの人工林、雑木林や落葉広葉樹林の葉の無い枝の叉に巣をつくる。産卵期は5～7月で、3～5個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から120m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

表 10.9.1-26 (22) 重要な鳥類の予測結果

22 カケス		
一般生態	成鳥の全長は約 33cm、翼開長約 50cm。全国の丘陵地から山地の様々な森林に広く生息する。枝から枝へ飛び移りながら昆虫等の小動物を捕えるが、小鳥の巣から卵や雛をとることもある。また、秋になるとドングリを好んで食べる。産卵期は 4～6 月で、針葉樹の枝の上に小枝や根で碗型の巣を作り、4～8 個の卵を産む。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 5 箇所 6 個体 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 	
影響予測	存在・供用 道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点 5 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 1 箇所も直接改変区域から 140m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施 建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26 (23) 重要な鳥類の予測結果

23 ヒバリ	
一般生態	<p>全長 17cm、翼開長 32cm。全国で繁殖する。畑、牧場、草原、河原、埋立地などで見られるが、丈の低い草がまばらに生えて、露出した地面の多いところを好む。採餌は地上を歩きながら行い、草の実や昆虫を主な餌とする。草の根元などの地上に、浅い穴を掘って枯れ草を材料に碗型の巣を作る。産卵期は3~7月で、3~5個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 7箇所 7個体 ・都市計画対象道路 : 28箇所 30個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 2箇所 2個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地の環境であると考えられる。 ・確認地点 7箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 2箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 28箇所も直接改変区域から 40m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地の環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26 (24) 重要な鳥類の予測結果

24 イワツバメ	
一般生態	<p>全長 15cm、翼開長 30cm。夏鳥として渡来し繁殖する。元々は山地や海岸の岩壁や洞穴に集団で営巣していた種であるが、一般的には人工建造物への営巣が多い。餌は他のツバメ類同様に空中を飛ぶ昆虫類を飛行中に捕まえる。巣は天井に深い椀形に作られ、入口は狭く、大きなコロニーではいくつも接している。産卵期は4～8月で、普通3～4個くらいの卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 4箇所 8個体 ・都市計画対象道路 : 2箇所 5個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地の環境であると考えられる。 ・確認地点 4箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 2箇所は直接改変区域から 250m 程度離れているため、生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地の環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26 (25) 重要な鳥類の予測結果

25 オオムシクイ					
一般生態	夏鳥として北海道の知床半島や千島列島、サハリン、カムチャツカで繁殖する。各地には旅鳥として渡来し、個体数が多い。渡りの時期、春は5月中旬～6月中旬、秋は9月中旬～10月中旬によく見られる。八重山諸島では冬季の記録がある。				
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 		
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 				
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 (樹林環境) 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 (樹林環境) 事業実施区域周辺 ・その他 : - 		
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 (樹林環境) 事業実施区域周辺 ・その他 : - 				
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から250m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から250m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から250m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 			
工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 				

表 10.9.1-26 (26) 重要な鳥類の予測結果

26 オオヨシキリ	
一般生態	<p>全長 18cm、翼開長 26cm。夏鳥として渡来し繁殖する。川や湖沼の岸、休耕田などのヨシの草原に主に生息し、特に水中からヨシが生えているような場所を好む。茎から茎へと移動しながら昆虫を捕えるが、空中へ飛び出して飛んでいる昆虫をフライングキャッチすることもある。巣は数本のヨシの茎にまたがって作られ、イネ科植物の葉や茎を主材料にコップ形をしている。産卵期は 5～8 月で、4～6 個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 4 箇所 4 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 2 箇所 2 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点 2 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 4 箇所も直接改変区域から 250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26 (27) 重要な鳥類の予測結果

27 セッカ	
一般生態	<p>全長 12cm、翼開長 16cm。各地で繁殖する。低地から山地の草原に生息し、チガヤのようにやや背の低いイネ科植物の茂る草原を好む。草むらを移動しながら、葉にとまる昆虫などを捕え餌とする。イネ科植物の草地内に巣を作る。産卵期は 5～8 月で、4～6 個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 3 箇所 3 個体 ・都市計画対象道路 : 14 箇所 19 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 5 箇所 6 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、水辺環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 3 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 5 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 14 箇所も直接改変区域から 90m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26 (28) 重要な鳥類の予測結果

28 ミソサザイ	
一般生態	<p>全長 11 cm。山地の沢沿いの林や亜高山帯の針葉樹林の地表にさまざまな凹凸があったり、蘚苔類が生えているような林を好んで生息する。地上近くで行動し、岩や倒木のすき間、崖に現れた根の間などを忙しく移動して、昆虫、クモなどを探してついでに採む。巣は蘚類を主とした球形で木の根元、崖のすき間などにはめ込むように作る。産卵期は5～8月で、4～6個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 3箇所3個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1箇所1個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は直接改変区域から250m以上離れており、確認地点3箇所も直接改変区域からそれぞれ60m、90m、220m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26 (29) 重要な鳥類の予測結果

29 トラツグミ	
一般生態	<p>全長 30cm、翼開長 47cm。全国に分布し、丘陵から低い山地の暗い広葉樹林に生息する。地上付近で主に行動し、頭を左右に振り、嘴で落ち葉を跳ね除けて小動物を探す。特にミミズを好む。木の枝の上に藓類や枯れ枝で椀型の巣を作る。産卵期は4～7月で、3～5個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から170m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考え。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。なお、本種は移動性が高いため、工事中の立地の変化に対応可能であると考え。 ・工事にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(30) 重要な鳥類の予測結果

30 コサメビタキ	
一般生態	<p>全長 13 cm。雌雄とも成鳥は頭部から体上面は灰褐色。夏鳥として北海道から九州にかけて繁殖する。山地の落葉広葉樹林、針広混交林などに生息し、森林の上層から中層部の枯枝などに止まり、飛翔昆虫を空中で捕食する。樹木の横枝にコケや地衣類を用いて皿形の巣を作り、4~5 個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(31) 重要な鳥類の予測結果

31 キビタキ	
一般生態	<p>全長 14cm、翼開長 22cm。夏鳥として渡来し、丘陵や山地で繁殖する。広葉樹林の中ほどの枝にとまり、林の中を飛ぶ虫をねらう。樹洞や茂った葉、つるの間などに、枯れ葉や細根などで椀形の巣を作る。産卵期は5～7月で、4～5個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 16箇所 16個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 10箇所 10個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点 10箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 16箇所も直接改変区域から 60m 程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(32) 重要な鳥類の予測結果

32 キセキレイ		
一般生態		<p>体長 20cm ほど。九州以北のほぼ全国で繁殖する。夏季は溪流沿いなどに好んで棲す。冬季には市街地の水辺でも観察される。食性は動物食で、水中や岩陰などに棲む昆虫類やクモ類、飛んでいる昆虫類を捕らえる。夏季はつがいで縄張り分散し、崖のくぼみ、枝の茂み、人家の軒下などに、皿状の巣をつくる。産卵期は4～7月で、4～6個の卵を産む。</p>
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 7箇所7個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、水辺環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考ええる。 ・確認地点7箇所は、直接改変区域から20m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考ええる。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約3.5ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考ええる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26(33) 重要な鳥類の予測結果

33 ホオジロ	
一般生態	<p>全長 17cm、翼開長 24cm。留鳥として全国の平地から山地の明るい林の縁、ススキ草原、低木のある河原などに生息する。地上を跳ね歩いて、地表に落ちているイネ科植物などの小さな実を拾って食べるが、繁殖期には動物食になる。低木の枝の上または地上にイネ科植物の茎や細根などで椀型の巣を作る。産卵期は 4～7 月で、3～5 個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 17 箇所 20 個体 ・都市計画対象道路 : 81 箇所 103 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 1 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境 ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点 17 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 1 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 81 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26 (34) 重要な鳥類の予測結果

34 クロジ	
一般生態	<p>全長 17 cm とホオジロ類の中では大きい。本州中部以北から北海道の山地で繁殖して、冬期は暖地の丘陵地等へ移動する。越冬期に照葉樹やスギ林の林床で観察され、林床や藪等で種子をついばむ習性がある。繁殖期は 4~7 月で、山地のササの茂った針葉樹林内で繁殖し、5 個程度の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考ええる。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 110m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-26 (35) 重要な鳥類の予測結果

35 オオジュリン	
一般生態	<p>全長 16 cm。北海道と東北地方の一部で夏鳥として繁殖し、河川や湖沼のヨシ原等に生息する。ヨシの茎に止まり、くちばしで茎を割って中に潜む昆虫やクモ類を捕食する他、草本の種子等も食べる。産卵期は 5～7 月で、地上の草の根元等に枯草で碗型の巣を作り、4～5 個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 1 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

c) 両生類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な両生類の予測結果を表 10.9.1-27 に示します。

表 10.9.1-27(1) 重要な両生類の予測結果

1 アズマヒキガエル									
一般生態	全長 40～165mm。体型はずんぐり型で、短く太い四肢と大きな頭を持つ。生息場所は広く、海岸から高山まで広範囲に及び、都市部の公園や人家の庭などにも棲み着いている。繁殖期は 2～7 月頃と地域や標高によりばらつきがある。1500～8000 個の卵が入ったひも状の卵のうを産む。								
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 成体 3 箇所 3 個体 ・都市計画対象道路 : 成体 7 箇所 14 個体 幼生・幼体 6 箇所 817 個体 事業実施区域周辺 卵塊 10 箇所 27 個 ・その他 : 幼生 3 箇所 500 個体 卵塊 1 箇所 5 個 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 成体 3 箇所 3 個体 ・都市計画対象道路 : 成体 7 箇所 14 個体 幼生・幼体 6 箇所 817 個体 事業実施区域周辺 卵塊 10 箇所 27 個 ・その他 : 幼生 3 箇所 500 個体 卵塊 1 箇所 5 個 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 成体 3 箇所 3 個体 ・都市計画対象道路 : 成体 7 箇所 14 個体 幼生・幼体 6 箇所 817 個体 事業実施区域周辺 卵塊 10 箇所 27 個 ・その他 : 幼生 3 箇所 500 個体 卵塊 1 箇所 5 個 								
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、樹林環境 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、樹林環境 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、樹林環境 								
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に水辺環境や耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考え。調査では、成体の他、卵塊、幼生も確認された。 ・確認地点 3 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 4 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 23 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じる。本種の確認箇所 30 箇所のうち、分断が生じる樹林の近傍で確認されたのは 2 箇所であり、約 60m にわたって分断が生じるが、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の卵塊及び幼生が確認された水辺環境では、工事中にも地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に水辺環境や耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考え。調査では、成体の他、卵塊、幼生も確認された。 ・確認地点 3 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 4 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 23 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じる。本種の確認箇所 30 箇所のうち、分断が生じる樹林の近傍で確認されたのは 2 箇所であり、約 60m にわたって分断が生じるが、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に水辺環境や耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考え。調査では、成体の他、卵塊、幼生も確認された。 ・確認地点 3 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 4 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 23 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じる。本種の確認箇所 30 箇所のうち、分断が生じる樹林の近傍で確認されたのは 2 箇所であり、約 60m にわたって分断が生じるが、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 	工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の卵塊及び幼生が確認された水辺環境では、工事中にも地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の卵塊及び幼生が確認された水辺環境では、工事中にも地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	存在供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に水辺環境や耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考え。調査では、成体の他、卵塊、幼生も確認された。 ・確認地点 3 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 4 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 23 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じる。本種の確認箇所 30 箇所のうち、分断が生じる樹林の近傍で確認されたのは 2 箇所であり、約 60m にわたって分断が生じるが、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に水辺環境や耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考え。調査では、成体の他、卵塊、幼生も確認された。 ・確認地点 3 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 4 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 23 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じる。本種の確認箇所 30 箇所のうち、分断が生じる樹林の近傍で確認されたのは 2 箇所であり、約 60m にわたって分断が生じるが、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 					
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に水辺環境や耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考え。調査では、成体の他、卵塊、幼生も確認された。 ・確認地点 3 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 4 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 23 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じる。本種の確認箇所 30 箇所のうち、分断が生じる樹林の近傍で確認されたのは 2 箇所であり、約 60m にわたって分断が生じるが、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 								
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の卵塊及び幼生が確認された水辺環境では、工事中にも地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の卵塊及び幼生が確認された水辺環境では、工事中にも地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 						
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の卵塊及び幼生が確認された水辺環境では、工事中にも地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 								

表 10.9.1-27(2) 重要な両生類の予測結果

2 ニホンアカガエル	
一般生態	<p>平地で普通に見られる黒褐色から赤茶色の中型のカエル。平地や丘陵地の水田や湿地などに生息するが、山間部には少ない。本州のカエルでは産卵が一番早く、1～5月に行われる。500～3000個の黒褐色の卵が入ったややつぶれた球状の卵塊を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 幼生・幼体 1箇所100個体 卵塊 2箇所4個 事業実施区域周辺 ・その他 : 成体 3箇所4個体 幼生・幼体 9箇所1010個体 卵塊 4箇所12個
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、樹林環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、水辺環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考え。調査では、成体の他、卵塊、幼生も確認された。 ・確認地点16箇所は直接改変区域から250m以上離れており、確認地点3箇所も直接改変区域から50m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が多数確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が多数確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-27(3) 重要な両生類の予測結果

3 シュレーゲルアオガエル			
一般生態		暗褐色から鮮やかな緑色をした小型のカエルで、水田、丘陵部から高山部まで生息している。繁殖期は普通 4~6 月。水田の畔や池や沼の周辺の土中に白い泡状の卵塊を産み付ける。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 成体 1 箇所 3 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 成体 2 箇所 2 個体 	
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 (水辺環境) 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境 (水辺環境) 	
影響予測	存在・供用	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、水辺環境を中心に森林環境や耕作地及び緑の多い住宅地を利用していると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 1 箇所も直接改変区域から 250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考ええる。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分 (事業による改変面積約 3.5ha) であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の成体が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件 (流量・水温など) の変化も生じないと考ええる。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事中は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域の成体が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件 (流量・水温など) の変化も生じないと考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境 (成育・繁殖に係る環境) の質的变化はほとんど生じないと考ええる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

d) 爬虫類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な爬虫類の予測結果を表 10.9.1-28 に示します。

表 10.9.1-28(1) 重要な爬虫類の予測結果

1 ニホンイシガメ			
一般生態	甲羅はやや扁平で幼体は背甲に3本の隆条をもつが、成体では中央に明瞭な1本が残るだけとなる。背甲の後縁が鋸歯状になっているが、年をとるにつれ目立たなくなる。河川の上・中流域、山間や山際の池や沼、湿地に生息する。雑食性で、5月から8月に1~2回産卵する。		
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域 : - 都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域 : - 都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 その他 : -
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域 : - 都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 その他 : - 		
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域 : - 都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域 : - 都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 その他 : -
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域 : - 都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 その他 : - 		
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に水辺環境を利用していると考えられる。 確認地点1箇所は、直接改変区域から160m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されたと考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されたと予測する。 </td> </tr> </table>	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> 調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に水辺環境を利用していると考えられる。 確認地点1箇所は、直接改変区域から160m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されたと考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されたと予測する。
	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> 調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に水辺環境を利用していると考えられる。 確認地点1箇所は、直接改変区域から160m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されたと考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されたと予測する。 	
工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されたと予測する。 		

表 10.9.1-28(2) 重要な爬虫類の予測結果

2 ニホンヤモリ		
一般生態		<p>全長 100～140mm、頭胴長 50～72mm。人間とうまく共存しており、民家や寺院などの建物でよく見かけ、野外で見ることは稀である。都市部のマンションなどで見ることもある。夜間、灯火の周辺に出没し、集光性の昆虫やクモなどを食べる。5月上旬～8月上旬、戸袋や壁の隙間、天井裏などに2～3個の卵を年に1～2回産卵する。</p>
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 成体 1箇所1個体 ・都市計画対象道路 : 成体 8箇所12個体、卵 5箇所64個 事業実施区域周辺 ・その他 : 成体 2箇所2個体、卵 1箇所4個
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に樹林環境や水辺環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 1箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 3箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 13箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、都市計画対象道路により分断が生じるが、事業実施区域の約 9 割を占めており、周辺には同質の環境が広範に分布している。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-28(3) 重要な爬虫類の予測結果

3 ヒガシニホントカゲ	
一般生態	<p>全長 200～250mm。体側に黒褐色の 1 縦条が見られる。庭、畑、道路脇の斜面、林縁部、石垣や山道に棲み、ミミズ、クモ、ワラジムシ、コオロギを主に食べる。5 月下旬～6 月上旬、石の下や土手の斜面の巣穴に鶏卵型の卵を 5～16 個産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 5 箇所 5 個体 ・都市計画対象道路 : 22 箇所 22 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 4 箇所 4 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境、水辺環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に樹林環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点 5 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 4 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 22 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、都市計画対象道路により分断が生じるが、事業実施区域の約 9 割を占めており、周辺には同質の環境が広範に分布している。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-28(4) 重要な爬虫類の予測結果

4 ニホンカナヘビ					
一般生態	全長 160~270mm。平地から低山地の藪や草地、庭先などに棲み、主に昆虫やクモを食べる。芝生や草の根元の土中に1度に2~6個の鶏卵型の卵を年1~6回産卵する。				
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 28箇所 29個体 ・都市計画対象道路 : 46箇所 50個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 12箇所 15個体 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 28箇所 29個体 ・都市計画対象道路 : 46箇所 50個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 12箇所 15個体 		
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 28箇所 29個体 ・都市計画対象道路 : 46箇所 50個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 12箇所 15個体 				
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境 		
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境 				
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に樹林環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点 28箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 12箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 46箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、都市計画対象道路により分断が生じるが、事業実施区域の約 9割を占めており、周辺には同質の環境が広範に分布している。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に樹林環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点 28箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 12箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 46箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、都市計画対象道路により分断が生じるが、事業実施区域の約 9割を占めており、周辺には同質の環境が広範に分布している。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に樹林環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点 28箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 12箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 46箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、都市計画対象道路により分断が生じるが、事業実施区域の約 9割を占めており、周辺には同質の環境が広範に分布している。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に樹林環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点 28箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 12箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 46箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、都市計画対象道路により分断が生じるが、事業実施区域の約 9割を占めており、周辺には同質の環境が広範に分布している。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に樹林環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点 28箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 12箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 46箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、都市計画対象道路により分断が生じるが、事業実施区域の約 9割を占めており、周辺には同質の環境が広範に分布している。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 	
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に樹林環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点 28箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 12箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 46箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、都市計画対象道路により分断が生じるが、事業実施区域の約 9割を占めており、周辺には同質の環境が広範に分布している。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 				
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 		
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 				

表 10.9.1-28(5) 重要な爬虫類の予測結果

5 シマヘビ	
一般生態	<p>全長 80～150cm。開けた平地から山地の水田、山道、草原、畑、民家までさまざまな場所に生息し、日の当たる石垣や草原、道路脇などで目にする機会が多い。昼間にカエルをはじめトカゲ、ネズミ、ヘビなどさまざまな動物を捕えて食べる。7～8月に4～16個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 3箇所 3個体 ・都市計画対象道路 : 2箇所 2個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に水辺環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 3箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 2箇所は直接改変区域からそれぞれ 40m、80m 程度離れているため、複数の生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である生息環境は耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、都市計画対象道路により分断が生じるが、事業実施区域の約 9割を占めており、周辺には同質の環境が広範に分布している。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-28(6) 重要な爬虫類の予測結果

6 アオダイショウ	
一般生態	<p>全長 110～200cm。山地の森林から平野部の人家まで、さまざまな環境に生息する。地上より樹上で見つかることが多く、鳥や鳥の卵も好む。7～8月に4～17個の卵を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 6箇所6個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 2箇所2個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境や水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点2箇所は直接改変区域から250m以上離れているため、確認地点6箇所も直接改変区域から40m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じる。本種の確認箇所8箇所のうち、分断が生じる樹林の近傍で確認されたのは1箇所であり、約60mにわたって分断が生じるが、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-28(7) 重要な爬虫類の予測結果

7 シロマダラ	
一般生態	背面は灰色もしくは白褐色で、黒い横帯がバンド状に入る。山地から平地までさまざまな環境に生息し、夜行性でトカゲ、ヘビなどを主に食べる。夏季に1~9個の卵を産む。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境） 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考ええる。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から230m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考ええる。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

表 10.9.1-28(8) 重要な爬虫類の予測結果

8 ヒバカリ					
一般生態	成体の全長は約 40～60cm。森林から平地まで幅広い環境に生息するが特に水田や湿地等に多く、カエルやオタマジャクシ、ドジョウ等の小魚、ミミズ等を食べる。5～6月に交尾を行い、初夏に平均6個の卵を産卵する。				
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接変更区域 : - ・都市計画対象道路 : 2箇所2個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1箇所1個体 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接変更区域 : - ・都市計画対象道路 : 2箇所2個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1箇所1個体 		
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接変更区域 : - ・都市計画対象道路 : 2箇所2個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1箇所1個体 				
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接変更区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接変更区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境 		
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接変更区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境 				
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は直接変更区域から250m以上離れているため、確認地点2箇所も直接変更区域から150m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本種主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による変更面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の本種主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は直接変更区域から250m以上離れているため、確認地点2箇所も直接変更区域から150m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本種主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による変更面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の本種主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は直接変更区域から250m以上離れているため、確認地点2箇所も直接変更区域から150m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本種主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による変更面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の本種主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は直接変更区域から250m以上離れているため、確認地点2箇所も直接変更区域から150m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本種主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による変更面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の本種主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は直接変更区域から250m以上離れているため、確認地点2箇所も直接変更区域から150m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本種主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による変更面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の本種主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>	
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は直接変更区域から250m以上離れているため、確認地点2箇所も直接変更区域から150m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本種主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による変更面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の本種主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>				
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接変更区域以外の場所の変更はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接変更区域以外の場所の変更はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>		
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接変更区域以外の場所の変更はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>				

表 10.9.1-28(9) 重要な爬虫類の予測結果

9 ヤマカガシ	
一般生態	背面は褐色の地に黒色の斑紋があるが、色彩は地域による変異が大きい。山地から平地まで生息し、平地の水田や小川、湿地などに多く、カエル類を主に食べている。産卵は6~8月で卵は小さく数が多い。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2箇所 2個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に水辺環境を利用していると考ええる。 ・確認地点2箇所は、直接改変区域からそれぞれ170m、240m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考ええる。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である耕作地及び緑の多い住宅地環境は、都市計画対象道路により分断が生じるが、事業実施区域の約9割を占めており、周辺には同質の環境が広範に分布している。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

表 10.9.1-28(10) 重要な爬虫類の予測結果

10 ニホンマムシ									
一般生態	背面は褐色または赤褐色の地に真ん中に暗色の斑のある楕円形の斑紋が並ぶ。森林から平野の田畑まで広く生息し、森林や藪などの林床、田畑、ときには林道脇などで目にする機会が多く、水辺には特に多い。胎生で、8～10月に5～6匹の子ヘビを産む。								
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 								
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境） 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境） 事業実施区域周辺 ・その他 : - 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境） 事業実施区域周辺 ・その他 : - 								
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>	工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>					
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は、直接改変区域から200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である樹林環境は、都市計画対象道路の西側区間で一部に分断が生じるが、本種は分断が生じる樹林の近傍では確認されていない。また、都市計画対象道路の西側区間は嵩上式部、地表式部に設置される横断構造物部に移動経路が確保されること、東側区間は神崎川や二重川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>								
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>						
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>								

e) 昆虫類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な昆虫類の予測結果を表 10.9.1-29 に示す。

表 10.9.1-29(1) 重要な昆虫類の予測結果

1 ホソミイトトンボ		
一般生態		腹長 24~31mm、後翅長 15~22mm。胸部が小さく、腹部が細長い。平地、丘陵地の挺水植物が繁茂した池沼や湿地の滞水、水田などに生息する。本種は、夏だけにみられる個体群（夏型）と夏羽化して成虫越冬し、翌春交尾・産卵する越冬型の 2 型が知られ、夏型のほうが小型である。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 2 箇所 2 個体
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（水辺環境）
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(2) 重要な昆虫類の予測結果

2 ヤマサナエ							
一般生態	日本固有種の大型サナエトンボ。腹長約 44~48mm、後翅長約 37~42mm。幼虫は、平地、丘陵地を流れる河川上流~中流の川岸に近い砂泥底に生息する。成虫は、主に 4 月下旬~6 月下旬に出現する。						
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 2 箇所 3 個体 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 2 箇所 3 個体 				
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 2 箇所 3 個体 						
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 				
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 						
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考ええる。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域で生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考ええる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	存在・供用	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考ええる。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域で生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考ええる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	存在・供用	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考ええる。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>				
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域で生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考ええる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>					

表 10.9.1-29(3) 重要な昆虫類の予測結果

3 クロスジギンヤンマ		
一般生態		成虫は腹長約 52~59mm、後翅長約 44~49mm。幼虫は、平地や丘陵地の木陰のある池沼や人工的な貯水槽に生息する。成虫はその周辺の林に生息し、4月下旬~7月下旬に出現する。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 3箇所 4個体
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 3箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考ええる。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考ええる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(4) 重要な昆虫類の予測結果

4 チョウトンボ			
一般生態		美しい黒藍色の翅をもつチョウのようなトンボで、成虫の全長は約 34～42mm (雄)、31～38mm (雌)。平野～丘陵地の、浮葉植物や抽水植物の繁茂した池沼、河川敷の淀み等に生息する。幼虫で越冬する。	
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2 箇所 2 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 1 個体 	
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 	
影響予測	存在・供用	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れているため、確認地点 2 箇所も直接改変区域からそれぞれ 70m、180m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(5) 重要な昆虫類の予測結果

5 コノシメトンボ									
一般生態	成虫の体長は36-48mm。翅の先端にある黒褐色の斑紋が目立つ。植生の少ない明るく開けた広い水面を好む傾向がある。打水産卵または打泥産卵を行う。秋に産み落とされた卵はそのまま越冬し、翌春孵化し幼虫となる。								
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 3箇所 4個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 3箇所 4個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 3箇所 4個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 								
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境(水辺環境)、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境(水辺環境)、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境(水辺環境)、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - 								
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点3箇所は、直接改変区域から20m、180m、200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約3.5ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点3箇所は、直接改変区域から20m、180m、200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約3.5ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点3箇所は、直接改変区域から20m、180m、200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約3.5ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。	工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点3箇所は、直接改変区域から20m、180m、200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約3.5ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点3箇所は、直接改変区域から20m、180m、200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約3.5ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。					
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点3箇所は、直接改変区域から20m、180m、200m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約3.5ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。								
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。						
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。								

表 10.9.1-29(6) 重要な昆虫類の予測結果

6 クツワムシ	
一般生態	<p>大型で体高が高く、ずんぐりとしたその体の側面積は日本のキリギリス亜目中最大。夜行性で開けた場所をあまり好まず林縁の下草に棲む。マメ科植物、とりわけクズの葉を好んで食べる。土中に産卵し、幼虫は産卵翌年の4月下旬～6月上旬に孵化する。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 6箇所9個体 ・都市計画対象道路 : 3箇所4個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に樹林環境や水辺環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 6箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 3箇所は直接改変区域からそれぞれ 10m、90m、170m 離れているため、多くの生息確認地点が残る。また、摂食対象のクズが生育する環境は、樹林環境や水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境に広く残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(7) 重要な昆虫類の予測結果

7 ヒメマダラナガカメムシ	
一般生態	体長約8mm。赤と黒の鮮やかな模様を持つ小型のナガカメムシ。成虫・幼虫ともに各種のヒルガオ科植物から吸汁する。4~11月に出現する。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2箇所4個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考ええる。 ・確認地点2箇所は、直接改変区域から50m、100m程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考ええる。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(8) 重要な昆虫類の予測結果

8 ヒメジュウジナガカメムシ	
一般生態	体長 8~9mm。体は橙赤色で頭部、前胸背、革質部の 1 対の紋、小楯板、膜質部などは黒色。あまり多く見られないが、時として群生する。ガガイモやフウセントウワタなどで見られることがある。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 2 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 20m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。また、生息が確認された樹林は直接改変区域外に連続して残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(9) 重要な昆虫類の予測結果

9 ハナダカカメムシ	
一般生態	<p>体長 5.0～5.5mm。体は黄褐色で、黒い点刻で密におおわれ、光沢がない。草むらで生活し、ヤブジラミなどのセリ科植物の種子を好み、群生して種子から吸汁する。越冬した成虫は 5 月から見られ、6～7 月に産卵し、8 月に新成虫が見られる。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 4 箇所 6 個体 ・都市計画対象道路 : 8 箇所 43 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 樹林環境、水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、樹林環境を中心に耕作地及び緑の多い住宅地環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 4 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 8 箇所は直接改変区域から 40m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(10) 重要な昆虫類の予測結果

10 イネカメムシ									
一般生態	体長 12~13mm、黄白色に暗褐色の点刻を散りばめる。イネ科植物で生活し、古くからイネの害虫として知られている。								
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2 箇所 31 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2 箇所 31 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2 箇所 31 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 								
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - 								
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 50m、90m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 50m、90m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 50m、90m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 	工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 50m、90m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 50m、90m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 					
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 50m、90m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 								
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 						
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 								

表 10.9.1-29(11) 重要な昆虫類の予測結果

11 ヒメカマキリモドキ		
一般生態		開張 23~24mm。本属は前胸部が前属より細長い。体色はかなり変異がある。7月ごろから8月中旬にかけて各地の山地に比較的普通。幼虫はエドコマチグモの卵囊に寄生する。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1箇所2個体 ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 樹林環境 ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考える。 ・確認地点1箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の消失・縮小が生じる。なお、生息が確認された樹林は直接改変区域外に連続して残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(12) 重要な昆虫類の予測結果

12 マイマイカブリ		
一般生態		26～65mm。本属最大で、体はひじょうに細長い。餌の巻き貝の中に頭部、胸部を差し入れて食べる。森林とその周辺に生息する。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 3箇所 8 個体 ・都市計画対象道路 : 7箇所 18 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境 ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点 3 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 7 箇所は直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(13) 重要な昆虫類の予測結果

13 コガムシ									
一般生態	体長 25mm 内外。幼虫は肉食性で、成虫は水草を食べる。夏には成虫が灯火に飛来する。水田や河川敷の水溜りなど、不安定な止水域で繁殖する。								
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2 箇所 11 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2 箇所 11 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2 箇所 11 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 								
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - 								
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 230m、250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 230m、250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 230m、250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 	工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 230m、250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 230m、250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 					
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 230m、250m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 								
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 						
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 								

表 10.9.1-29(14) 重要な昆虫類の予測結果

14 ヘイケボタル									
一般生態	成虫の体長は約7~10mmで、草地に生息する。幼虫は水田や小川、湿地等の、水のある所に生息し、サカマキガイ、ヒメモノアラガイ、カワニナ、水中動物の死骸等を食べる。蛹化には、水辺の土が必要である。								
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 6箇所 23個体 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 6箇所 23個体 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 6箇所 23個体 								
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 								
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点6箇所は、直接改変区域から250m以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域で生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点6箇所は、直接改変区域から250m以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点6箇所は、直接改変区域から250m以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>	工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域で生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域で生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点6箇所は、直接改変区域から250m以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点6箇所は、直接改変区域から250m以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>					
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点6箇所は、直接改変区域から250m以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>								
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域で生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域で生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>						
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・その他の区域で生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>								

表 10.9.1-29(15) 重要な昆虫類の予測結果

15 チャイロヒメハナカミキリ		
一般生態		<p>樹林とその林縁、伐採地や周辺の貯木場などに生息する。4月下旬から8月にわたり低山地から高地帯に出現する。</p>
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 4箇所4個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考える。 ・確認地点4箇所は、直接改変区域から50m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の子な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工食用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(16) 重要な昆虫類の予測結果

16 アカアシオオアカミキリ		
一般生態		<p>体長は 25~30mm、頭部や前胸、上翅は金緑色で、触角や脚が赤褐色の、大型で美しいカミキリムシ。7~8 月に出現し、夜間にクヌギの樹液などに集まる。灯火に飛来することもある。幼虫は、クヌギの生木を食べて育つ。</p>
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 190m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

表 10.9.1-29(17) 重要な昆虫類の予測結果

17 キボシトックリバチ	
一般生態	体長は約 13～7mm。人家から離れた川縁や沼縁等の草原に生息し、成虫は夏～秋に出現する。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2 箇所 2 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 (耕作地及び緑の多い住宅地環境) 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に耕作地及び緑の多い住宅地環境であると考ええる。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 100m、180m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分 (事業による改変面積約 99.8ha) であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

表 10.9.1-29(18) 重要な昆虫類の予測結果

18 モンスズメバチ		
一般生態		働きバチの体長 21~28mm。樹洞、天井裏、壁間、戸袋などの閉鎖的な場所に営巣し、おもにセミを狩る。他種と違い夜間にも活動する習性がある。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 3箇所 3 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境、水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に樹林環境や水辺環境を利用していると考ええる。 ・確認地点 3 箇所は、直接改変区域から 80m、130m、190m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化も軽微であると考ええる。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事中は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

表 10.9.1-29(19) 重要な昆虫類の予測結果

19 クロマルハナバチ	
一般生態	<p>社会性のハナバチ。体色は黒っぽい。雌（女王）は体長約 19～23mm で黒色毛が多く、雄は 20mm 内外で黄色毛が多い。働き蜂の体長は約 12～19mm。営巣期間は 4 月下旬から 11 月初旬までで、森林の地中の腔所に営巣し、各季節に開花する植物に依存して生息する。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 1 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境）
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考ええる。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(20) 重要な昆虫類の予測結果

20 コブアリノスアブ		
一般生態		成虫の体長は約 12mm でやや細身で全身が暗褐色を帯び、触覚が大きく頭部に小さな 7 つのこぶ状の隆起がある。地や丘陵地の比較的乾燥した場所の、疎林のような植生を生息場所としており、成虫は 5 月下旬から 6 月上旬のごく短期間において記録される。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 1 個体
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考ええる。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(21) 重要な昆虫類の予測結果

21 ミズイロオナガシジミ		
一般生態	成虫の前翅長は約 11~17mm で、低地~低山地の雑木林に生息する。食草は、ブナ科のコナラ、クヌギ等。成虫は年 1 回、6 月上旬から発生し始め、7 月上旬頃まで見られる。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 2 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - 	
影響予測	存在・供用 道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 210m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(22) 重要な昆虫類の予測結果

22 オオミドリシジミ		
一般生態		<p>虫の前翅長は約 16～22mm で、雄の翅表は青緑色に美しく輝く。低地～山地のコナラ、クヌギの生育する里山環境に生息する。食草はコナラ、クヌギ等。成虫は年 1 回 6 月に発生する。</p>
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接変更区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接変更区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境） 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は、直接変更区域から 230m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による変更面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接変更区域以外の場所の変更はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(23) 重要な昆虫類の予測結果

23 アカシジミ		
一般生態	雌雄は翅形と腹部の形態で辛うじて識別される。平地～低山地のクヌギを主体とした雑木林が主な生息地となる。昼間は樹葉上に静止し驚かさなければほとんど飛翔しないが、夕暮には活潑に飛ぶ。年1回発生し、東京付近の平地では5月下旬頃より発生する。幼虫の食草はクヌギ、コナラ、カシワなどのブナ科。越冬態は卵。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1箇所1個体 ・都市計画対象道路 : 1箇所1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境 ・都市計画対象道路 : 樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - 	
影響予測	存在・供用 道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点1箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点1箇所は直接改変区域から190m程度離れているため、生息確認地点は残る。なお、生息が確認された樹林は直接改変区域外に連続して残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(24) 重要な昆虫類の予測結果

24 ミドリシジミ		
一般生態	成虫の前翅長は約 16~22mm で、雄の翅表は金緑色に美しく輝く。幼虫の食草のハンノキやヤマハンノキ等のある林に生息する。卵で越冬し翌年の春に幼虫になり、成虫は年 1 回発生して 6 月中旬から 7 月上旬まで見られる。	
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 4 箇所 4 個体 	
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 	
影響予測	存在・供用 道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点 4 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(25) 重要な昆虫類の予測結果

25 コムラサキ	
一般生態	<p>最も個体数の多いのは河川に沿ったヤナギ類の林で、河原のよく発達している中流域には発生地が多い。クヌギ・コナラ・ヤナギ類などの樹液や湿地・汚物などに飛来する。5月頃から発生し、秋までに1~2回の発生を繰り返す。幼虫の食草はヤナギ類で、水田地帯の水路に沿って植えられたシダレヤナギや、都市の公園や街路樹となっているシダレヤナギやウンリュウヤナギなどにも発生することがある。越冬態は2~5齢幼虫。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1箇所1個体 ・都市計画対象道路 : 2箇所3個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（水辺環境） ・都市計画対象道路 : 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点2箇所は直接改変区域からそれぞれ20m、240m程度離れているため、生息確認地点は残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(26) 重要な昆虫類の予測結果

26 ゴマダラチョウ	
一般生態	<p>色彩斑紋は雌雄大差ないが、雌は翅形幅広く丸味を帯び、黒色部の発達は雄に較べて弱い。樹上、樹間を旋回して飛翔し、好んでクヌギ、タブノキなどの樹液に集まる。通常年 2~3 回の発生。幼虫の食草はエノキ、エゾエノキなどのニレ科。越冬態は幼虫(5 令)で、越冬幼虫はエノキ根際の落葉の裏面に多い。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 7 箇所 7 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 樹林環境、水辺環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点 7 箇所は直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約 7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(27) 重要な昆虫類の予測結果

27 ジャノメチョウ	
一般生態	<p>低地～山地の明るい草原や河原などに生息しており、成虫は明るい低山地の山麓や丘陵・堤防などの草地を好む。草上を低く飛び、マツムシソウ・ハンカイソウ・アザミ類・ヒメトラノオなどの花で吸蜜する。年1回、7月上旬～8月中旬に出現する。幼虫はイネ科のススキ、スズメノカタビラやカヤツリグサ科のヒカゲスゲ、ショウジョウズゲなどを食草とする。越冬態は初齢または2齢幼虫。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 5箇所 8個体 ・都市計画対象道路 : 4箇所 31個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境、樹林環境 ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境、樹林環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境を中心に水辺環境を利用していると考えられる。 ・確認地点5箇所のまとまった確認地点は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、調査範囲内に点在する確認地点4箇所は直接改変区域から50m程度以上離れているため、点在する生息確認地点は残ると考える。 ・本種の主な生息環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約99.8ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(28) 重要な昆虫類の予測結果

28 イチモジヒメヨトウ		
一般生態		<p>成虫の翅の開長は約 30mm 内外、前翅は黄褐色。幼虫の食草はクサヨシで、クサヨシが生えるような沼沢地や河口域、水田周辺等の水辺や湿性に生息する。主に関東平野を中心とした低層湿地に固有で、産出は局地的である。成虫は 5 月に短期間出現し、夜行性で走光性は高い。</p>
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 5 個体
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境（樹林環境）
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 7.4ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-29(29) 重要な昆虫類の予測結果

29 コシロシタバ		
一般生態		前翅は濃い灰黒色、後翅において中央の白色部は前縁から第3脈をこえる辺りまで達する。前翅長 29mm 内外。平地に普通でクヌギ林などに多いが、山地ではほとんどとれない。8、9月に出現し、昼間もよく飛出する。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 5箇所5個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 耕作地及び緑の多い住宅地環境(樹林環境) 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に樹林環境であると考ええる。 ・確認地点5箇所は、直接改変区域から80m程度以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の子な生息環境である樹林環境の消失・縮小は一部分(事業による改変面積約7.4ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・道路照明を極力外部に向けない、遮光板を設けるなどの照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中にも照明の漏れ出しの抑制に努めることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

f) 魚類

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な魚類の予測結果を表 10.9.1-30 に示します。

表 10.9.1-30(1) 重要な魚類の予測結果

1 スナヤツメ類									
一般生態	アンモシーテスは川の中・下流のやわらかい泥底に潜っており、泥中の有機物やけい藻類を食っている。変態までに数年かかり、変態後は越冬して次の年に産卵し死亡する。産卵期は雪解け水のおさまる 5~6 月で、直径の小さな礫底に集まって産卵する。								
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 2 個体 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 2 個体 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 1 箇所 2 個体 								
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境 								
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 1 箇所も直接改変区域から 100m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保されると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 1 箇所も直接改変区域から 100m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保されると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 1 箇所も直接改変区域から 100m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保されると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>	工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 1 箇所も直接改変区域から 100m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保されると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 1 箇所も直接改変区域から 100m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保されると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>					
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 1 箇所も直接改変区域から 100m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保されると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>								
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p> </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>						
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>								

表 10.9.1-30(2) 重要な魚類の予測結果

2 ニホンウナギ	
一般生態	<p>全長は約 100cm にまで達する。河川生活期は 5～十数年で、主として河川の中・下流域や河口域、湖に生息するが、時には川の上流域、内湾にも生息する。日中は石垣・土手の穴、底の泥の中等に潜んでいて、夜間に水生昆虫類、小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類等の摂食活動を行う。冬は泥に潜っている。産卵期は 4～12 月で、シラスウナギの遡上期は 10～6 月、盛期は 1～3 月である。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は、直接改変区域から 180m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-30(3) 重要な魚類の予測結果

3 ギンブナ	
一般生態	<p>全長 25cm。川の下流の淀みや支流の合流点に近い水域、平地の低湿地帯や沼地に生息する。雑食性で底生動物及び藻類などのほかに、場所によってはプランクトン動物なども食べる。産卵期は4～6月で、大雨のあと水草が繁茂している浅いところに集まり、水面に浮いた水草の葉や茎などに卵を産みつける。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1箇所 10 個体 ・都市計画対象道路 : 3箇所 3 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。確認地点 3 箇所は直接改変区域からそれぞれ 20m、30m、90m 程度離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-30(4) 重要な魚類の予測結果

4 モツゴ	
一般生態	<p>全長 8cm。湖や池沼、それに続く細流や、さらに川の下流域に生息し、泥底の淀みに多い。雑食性で底生動物や付着藻類などを食べ、成魚は主にユスリカの幼虫をとっている。産卵期は4月下旬～7月中旬で、ヨシなどの茎やこぶし大以上の石の表面に産卵する。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 5箇所 17 個体 ・都市計画対象道路 : 10 箇所 16 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 4 箇所 106 個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点 5 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 4 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 10 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。また、確認地点の上流部は直接改変区域をまたいでいないため、移動経路は確保されると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事にも地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-30(5) 重要な魚類の予測結果

5 ドジョウ	
一般生態	<p>全長は雄 11cm、雌 12cm。水田や湿地、周辺の細流に棲み、雑食性である。代かきと同時に周囲の用水路から水田に遡上する。遡上後、水田で何日かを過ごしたあと成熟し、夜間に産卵する。産卵期は 6～7 月。卵は泥上にばらまかれる。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 5 箇所 7 個体 ・都市計画対象道路 : 10 箇所 17 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点 5 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 10 箇所は直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-30(6) 重要な魚類の予測結果

6 ホトケドジョウ	
一般生態	<p>体は細長い、ドジョウ類の中ではやや太短い。湿地を流れる細流や湧水池、水田の畦、河川敷内の水たまり、河川の上流近くから中流域等に生息している。主に浮遊性や底生性の小動物を食べる。産卵期は3~6月で、水草等に産卵する。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : - ・計画路線区域周辺 : - ・その他 : 1箇所 18個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画路線区域 : - ・計画路線区域周辺 : - ・その他 : 水辺環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点1箇所は直接変更区域から250m以上離れており、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分(事業による変更面積約3.5ha)であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件(流量・水温など)の変化も生じないと考える。また、確認地点の上流部は直接変更区域をまたいでいないため、移動経路は確保されると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接変更区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接変更区域以外の場所の変更はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件(流量・水温など)の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境(成育・繁殖に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-30(7) 重要な魚類の予測結果

7 ミナミメダカ							
一般生態	上から見ると背が黒褐色が目立つ。平地の池や湖、水田や用水、河川の下流域の流れのゆるいところなどに生息し、食性は動物性プランクトンや植物性プランクトンのほか、小さな落下昆虫。産卵期は4月中旬～8月末までにわたり、水草などに産みつける。						
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 6箇所 31 個体 ・都市計画対象道路 : 6箇所 17 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 6箇所 31 個体 ・都市計画対象道路 : 6箇所 17 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 				
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 6箇所 31 個体 ・都市計画対象道路 : 6箇所 17 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : - 						
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - 				
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : - 						
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 6 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 6 箇所は直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 6 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 6 箇所は直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 6 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 6 箇所は直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 6 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 6 箇所は直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 6 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 6 箇所は直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 			
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 6 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 6 箇所は直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・本種の主な生息基盤である水辺環境は、神崎川、二重川や国分川の渡河部が橋梁であることにより、都市計画対象道路による分断は生じず、道路供用後も移動経路は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。 						
工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 						

g) 底生動物

予測地域に生息地の存在が考えられる重要な底生動物の予測結果を表 10.9.1-31 に示します。

表 10.9.1-31 (1) 重要な底生動物の予測結果

1 コシダカヒメモノアラガイ	
一般生態	殻がやや厚く、殻口は殻高の2分の1程度である。コンクリート壁に付着していることが多く、水から出て過ごすこともできる。環境の良い低地の森林に生息している。モノアラガイに比べると小型でやや細長い。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 2箇所 3個体 ・都市計画対象道路 : 2箇所 2個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点 2箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 2箇所は直接改変区域からそれぞれ 70m、80m 程度離れているため、生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も生息環境の連続性は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-31(2) 重要な底生動物の予測結果

2 モノアラガイ	
一般生態	<p>殻高約 25mm、殻径約 20mm の巻貝。小川、川の淀み、池沼、水田などの水草や礫に付着している。泥底に直接いることもあり、水から出ることは少ない。植食性で微小な藻類をやすりのような歯舌で削り取って食べる。植物の葉や茎に長さ 10mm 程度の透き通ったゼラチン質の卵塊を産む。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1 箇所 1 個体 ・都市計画対象道路 : 1 箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 1 箇所は直接改変区域から 90m 程度離れているため、生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も生息環境の連続性は確保されたと考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されたと予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されたと予測する。</p>

表 10.9.1-31 (3) 重要な底生動物の予測結果

3 テナガエビ	
一般生態	<p>体長は約 90mm。5 対の胸脚のうち、前の 2 対がはさみ脚となっており、2 対目が非常に長いので、手長エビと呼ばれる。比較的低地の河川・湖・池沼などに生息し、特に河口域や汽水湖に多い。河川では流れの緩やかな砂泥底に棲み、昼間は石の下や物陰に潜み、夜間に活動する。雑食性。産卵期は 5 月下旬～9 月中旬に及び、受精卵は孵化時まで雌が腹部に抱える。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 5 箇所 8 個体 ・都市計画対象道路 : 3 箇所 6 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点 5 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 3 箇所は直接改変区域からそれぞれ 20m、50m、70m 程度離れているため、生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も生息環境の連続性は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-31(4) 重要な底生動物の予測結果

4 スジエビ	
一般生態	沼、池、湖や、ときに汽水域にも生息し、河口域から上流域にまで分布する。産卵期は3~8月で、1回の産卵数は約50~250粒。受精卵は親エビの腹肢の基部にある毛に付着する。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 11箇所 28個体 ・都市計画対象道路 : 19箇所 128個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点11箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点19箇所は直接改変区域から10m程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

表 10.9.1-31 (5) 重要な底生動物の予測結果

5 ヌカエビ	
一般生態	成体は体長 3 cmになる。陸封型のエビで、一生を淡水で暮らす。湖沼や河川の中・上流域の、緩やかな流れの水草や植物の根の間等に生息する。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1 箇所 3 個体 ・都市計画対象道路 : 4 箇所 30 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 3 箇所 8 個体
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 3 箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 4 箇所も直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の子な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工所用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

表 10.9.1-31 (6) 重要な底生動物の予測結果

6 モクズガニ	
一般生態	<p>成体は甲幅約 60mm。河川の上流域から河口域まで生息しており、海に棲みつくものもいる。動物食を中心とした雑食性で、カワニナ等の貝や魚の死骸等を好んで食べる。交尾・産卵のために9~10月頃に川を下り、河口に達した雌雄は河口域で交尾を行う。受精卵を持った雌は河口から沖合に出て産卵し、抱卵中は海で生活して翌春、卵が成熟すると再び河口に戻る。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1箇所 1個体 ・都市計画対象道路 : 10箇所 14個体 事業実施区域周辺 ・その他 : 7箇所 9個体
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境
影響予測	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考える。 ・確認地点 1箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 7箇所は直接改変区域から 250m 以上離れており、確認地点 10箇所も直接改変区域から 70m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事にも地下水水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-31(7) 重要な底生動物の予測結果

7 サワガニ									
一般生態	河川中上流に生息する純淡水産のカニ。幼生が直達発生（稚ガニが直接卵から生まれる）で親の近くに留まり、移動分散能力が低いため、河川ごと、あるいは地域ごとに遺伝的分化が進んでいる。								
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 2箇所 8 個体 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 2箇所 8 個体 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 2箇所 8 個体 								
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境 								
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 	工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 					
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 2 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 								
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 						
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 								

表 10.9.1-31(8) 重要な底生動物の予測結果

8 ヤマサナエ									
一般生態	腹長 44~48mm、後翅長 37~42mm に達する大型のサナエトンボ。幼虫は、平地や丘陵地を流れる河川上流~中流の川岸に近い砂泥底に生息し、成虫は主に 4 月下旬~6 月下旬に出現する。								
確認状況	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 5 箇所 7 個体 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 5 箇所 7 個体 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 5 箇所 7 個体 								
確認地点の生息環境	<table border="1"> <tr> <td>現地調査</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境 </td> </tr> </table>	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境 						
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : 水辺環境 								
影響予測	<table border="1"> <tr> <td>存在・供用</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 5 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>工事の実施</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 5 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 5 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 	工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	存在・供用	<table border="1"> <tr> <td>道路の存在</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 5 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 5 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 					
道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 5 箇所は、直接改変区域から 250m 以上離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の本生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 								
工事の実施	<table border="1"> <tr> <td>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 </td> </tr> </table>	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 						
工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・その他の区域の生息が確認された水辺環境では、工事中にも地下水位の変化、それに伴う湧水の水量の変化はほとんど生じないことから、生息確認地点の環境条件（流量・水温など）の変化も生じないと考える。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。 								

表 10.9.1-31 (9) 重要な底生動物の予測結果

9 キイロサナエ	
一般生態	細身でやや大型のサナエトンボ。平地～丘陵地の周囲に樹林のある砂泥底の緩やかな流れに生息し、泥質の多い環境を好む。卵期間 1～2 週間程度、幼虫期間 2～4 年程度。幼虫で越冬する。
確認状況	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 2 箇所 4 個体 ・都市計画対象道路 : 8 箇所 15 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用 道路の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考えられる。 ・確認地点 2 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。しかし、確認地点 8 箇所は直接改変区域から 10m 程度以上離れているため、多くの生息確認地点が残ると考える。 ・本種の子な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。
	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考えられる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

表 10.9.1-31(10) 重要な底生動物の予測結果

10 オナガサナエ		
一般生態		黒地に黄色い条斑をもつ中型のサナエトンボ。丘陵地の樹林に囲まれた河川上～中流域に生息する。卵期間 10 日程度、幼虫期間 2～3 年程度。幼虫で越冬する。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 1 箇所 1 個体 ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : 水辺環境 ・都市計画対象道路 : - 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考ええる。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域内であるため、生息確認地点の一部消失・縮小が生じる。なお、確認は渡河部で橋梁となるため、直接改変は受けず、上下流には生息環境が残ると考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も生息環境の連続性は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考ええる。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事実施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-31(11) 重要な底生動物の予測結果

11 ヤブヤンマ		
一般生態		<p>成虫は雄で全長 80～92mm、雌は全長 79～93mm。日本産ヤンマ科の中では大型種。平地から低山地までの谷筋に生息する。夕方に高所を飛びながら摂食活動する。成虫は5月下旬頃から羽化し、9月中旬頃まで見られる。産卵は森林に囲まれた池や湿地など小規模な日陰の水域で行う。</p>
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所 1個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<p>道路の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1箇所は直接改変区域から 70m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-31(12) 重要な底生動物の予測結果

12 コオイムシ		
一般生態		<p>体長約 17~20mm。体は黄褐色で上から押しつぶされたように平たく、輪郭は円形。小川、谷津田、池沼、水田などの一般に流れの緩やかな浅い場所に生息するが、泳ぎが下手なため、水草や物陰に潜んで小動物を待ち伏せる。4月初め~6月にかけて、雌は雄の背中に卵を産みつける。</p>
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 2箇所 3 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 2 箇所は直接改変区域からそれぞれ 70m、80m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の子な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後にも生息環境の連続性は確保されると考える。 <p>以上より、道路の供用後にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事中は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 <p>以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。</p>

表 10.9.1-31(13) 重要な底生動物の予測結果

13 コガムシ		
一般生態		体長 25mm 内外。幼虫は肉食性で、成虫は水草を食べる。夏には成虫が灯火に飛来する。水田や河川敷の水溜りなど、不安定な止水域で繁殖する。
確認状況	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 1箇所 1 個体 事業実施区域周辺 ・その他 : -
確認地点の生息環境	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域 : - ・都市計画対象道路 : 水辺環境 事業実施区域周辺 ・その他 : -
影響予測	存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地域における本種の生息環境は、主に水辺環境であると考え。 ・確認地点 1 箇所は直接改変区域から 80m 程度離れているため、生息確認地点の消失・縮小は生じないと考える。 ・本種の主な生息環境である水辺環境の消失・縮小は一部分（事業による改変面積約 3.5ha）であり、周囲には同様の環境が残ると考える。 ・水辺環境が主に分布する神崎川、二重川や国分川の渡河部は橋梁であることより、道路供用後も生息環境の連続性は確保され则认为。 以上より、道路の供用後も本種及び生息環境は保全されると予測する。
	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、直接改変区域以外の場所の改変はほとんどない。よって、工事の実施における生息地の消失・縮小の程度は、道路の存在と同様に小さいと考える。 ・工事中には低騒音型・低振動型の建設機械を使用する等、騒音・振動による影響低減を図ることから、生息地の環境条件の変化は軽微であると考え。 ・工事中には、工事濁水や土砂等を公共用水域等へ直接流入させないように努めることから、生息環境（成育・繁殖に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。 以上より、工事实施中にも本種及び生息環境は保全されると予測する。

3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討

予測結果より、道路の存在、工事施工ヤード及び工事用道路の設置並びに建設機械の稼働に係る動物への環境負荷を低減するための環境保全措置について、保全措置の効果や不確実性、他の環境への影響を含め検討した結果、「工事施工ヤード及び工事用道路の都市計画対象道路事業実施区域内利用」、「移動経路の確保」、「照明の漏れ出しの抑制」、「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」、「低騒音型・低振動型機械の採用」及び「締切・沈砂池等の濁水処理の実施」を採用します。

検討した環境保全措置を表 10.9.1-32 に示します。

特に、「生息環境は保全されないまたは生息環境は保全されないおそれがある」と予測されたオオタカについては、環境保全措置として「工事施工ヤード及び工事用道路の都市計画対象道路事業実施区域内利用」、「照明の漏れ出しの抑制」、「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」及び「低騒音型・低振動型機械の採用」を採用します。

表 10.9.1-32(1) 環境保全措置の検討

環境保全措置	保全対象	採用・不採用	採用・不採用の理由
工事施工ヤード及び工事用道路の都市計画対象道路事業実施区域内利用	動物（猛禽類含む）全般	採用	工事施工ヤードや工事用道路等を都市計画対象道路事業実施区域内に設置し、改変区域を極力少なくすることにより、生息環境への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
移動経路の確保	移動能力の大きい動物（哺乳類・両生類・爬虫類・魚類）	採用	移動経路の断絶のおそれがある地域では、カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等の設置を行い、移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
照明の漏れ出しの抑制	夜行性動物、走光性動物、猛禽類	採用	設置する照明は極力外部に向けないよう配慮するとともに、照明上部に遮光板を設ける等の方法で光の漏れ出しを防ぐことにより、夜行性の種、光に誘引される習性をもつ昆虫類の生息地及び繁殖行動への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
工事工程の配慮及び段階的な土地の改変	オオタカ	採用	オオタカの繁殖地の近傍で繁殖期間中に騒音・振動の発生する工事を実施しないことにより、繁殖活動への影響を回避できる。また、改変される環境に適応できるよう、土地の改変を徐々に行う（コンディショニング）ことにより、生息への影響を低減することができる。オオタカに対して生息環境への影響の回避又は低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
低騒音型・低振動型機械の採用	動物（猛禽類含む）全般	採用	低騒音型・低振動型の建設機械を採用することにより、騒音・振動による影響を低減することで、調査区域に生息する種への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。

表 10.9.1-32(2) 環境保全措置の検討

環境保全措置	保全対象	採用・不採用	採用・不採用の理由
締切・沈砂池等の濁水処理の実施	水生生物、水辺の動物	採用	施工時において仮締切り、切回し水路、沈砂池等の濁水処理を実施し、濁水の流出を防止することにより、水生生物や水辺の動物の生息環境への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。

(2) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断されます。

(3) 検討結果の整理

環境保全措置に採用した「工事施工ヤード及び工事用道路の都市計画対象道路事業実施区域内利用」、「移動経路の確保」、「照明の漏れ出しの抑制」、「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」、「低騒音型・低振動型機械の採用」及び「締切・沈砂池等の濁水処理の実施」の効果、実施位置、他の環境への影響等について整理した結果を表 10.9.1-33 に示します。

なお、環境保全措置の具体化にあたっては、実施主体である事業者が専門家等の意見を聴取しながら適切に行います。締切・沈砂池から排水する場合、事業実施段階において、関係機関と協議して適切な排水水質の目標値を設定の上、適切に処理します。

表 10.9.1-33(1) 検討結果の整理

実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の都市計画対象道路事業実施区域内利用
	位置	都市計画対象道路事業実施区域内
保全対象		動物（猛禽類含む）全般
環境保全措置の効果		改変区域を極力少なくすることにより、生息環境への影響の低減が見込まれる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		植物・生態系への影響も低減される。

表 10.9.1-33(2) 検討結果の整理

実施内容	種類	移動経路の確保 (カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)
	位置	都市計画対象道路
保全対象		移動能力の大きい動物（哺乳類・両生類・爬虫類・魚類）
環境保全措置の効果		移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		生態系への影響も低減される。

表 10.9.1-33(3) 検討結果の整理

実施内容	種類	照明の漏れ出しの抑制
	位置	照明設置箇所
保全対象		夜行性動物、走光性動物、猛禽類
環境保全措置の効果		夜行性の動物の生活、光に誘引される習性をもつ動物の生活、猛禽類の繁殖環境の攪乱の低減が見込まれる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		植物・生態系への影響も低減される。

表 10.9.1-33(4) 検討結果の整理

実施内容	種類	工事工程の配慮及び段階的な土地の改変
	位置	都市計画対象道路事業実施区域
保全対象		オオタカ
環境保全措置の効果		繁殖期を避けた工事工程の配慮及び段階的に土地を改変することにより、対象種の生息への影響の回避又は低減が見込まれる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		生態系への影響も低減される。

表 10.9.1-33(5) 検討結果の整理

実施内容	種類	低騒音型・低振動型機械の採用
	位置	都市計画対象道路事業実施区域
保全対象		動物（猛禽類含む）全般
環境保全措置の効果		騒音・振動による事業実施区域周辺を生息域とする種への影響の低減が見込まれる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		騒音・振動・生態系への影響も低減される。

表 10.9.1-33(6) 検討結果の整理

実施内容	種類	締切・沈砂池等の濁水処理の実施
	位置	都市計画対象道路事業実施区域の水域（河川及び水路）
保全対象		水生生物、水辺の動物
環境保全措置の効果		濁水の流出を防止することにより、水生生物や水辺の動物の生息環境への影響の低減が見込まれる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される。

4) 事後調査

(1) 事後調査の必要性

予測手法は、事業の実施に伴う改変範囲と重要な種の生息地及び注目すべき生息地の分布範囲を重ね合わせ、科学的知見及び類似事例を参考に予測しており、予測の不確実性は小さいと考えます。

環境保全措置は、既存の知見及び事例、専門家等の意見を参考に適切に実施することから、環境保全措置の効果の不確実性は小さいと考えますが、「生息環境は保全されないまたは生息環境は保全されないおそれがある」と予測された猛禽類の「オオタカ」については、保全措置の内容をより詳細なものにするため、環境影響評価法に基づく事後調査を実施します。なお、事後調査を行う際には、オオタカの営巣林の面積、樹種、群落高及び人為的影響等を整理し、保全措置を適切に講じます。

実施する事後調査の概要を表 10.9.1-34 に示します。

表 10.9.1-34 事後調査の内容

調査項目	調査内容
営巣地の移動により繁殖に影響が生じるおそれのある重要な猛禽類（オオタカ）の生息状況の確認調査	○調査時期 工事中（着工前含む）の調査対象の繁殖期間を基本とする。 ○調査地域 調査対象の猛禽類の繁殖への影響が及ぶと予測される地域 ○調査方法 直接確認による生息状況の確認

(2) 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応

事後調査の結果により、繁殖時の調査対象の種・個体の営巣地の移動等、事前に予測し得ない事業の実施による繁殖への著しい影響が生じることが判明した場合は、事業者が関係機関と協議し、専門家の意見を得ながら適切な措置を講じます。

(3) 事後調査結果の公表方法

事後調査結果の公表方法については、事業者が行うものとしますが、公表時期・方法については、関係機関と連携しつつ、適切に実施します。

5) 評価

(1) 回避または低減に係る評価

計画路線は新設されるものであるため、道路の存在、工事施工ヤード及び工事用道路の設置並びに建設機械の稼働に伴い重要な動物の生息地等の改変が生じますが、計画路線は道路の計画段階において、河川を渡河する場合に流水部に橋脚を伴わない橋梁形式とすることにより、自然環境の改変量を極力抑えた計画としています。また、計画路線の位置は、集落及び市街地を回避しながら、河川や樹林など重要な動物の生息地等の改変が可能な限り小さくなるよう配慮した計画としており、動物への環境負荷の回避又は低減を図っています。

さらに、環境保全措置として、工事の実施においては、「工事施工ヤード及び工事用道路の都市計画対象道路事業実施区域内利用」、「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」、「低騒音型・低振動型機械の採用」及び「締切・沈砂池等の濁水処理の実施」、道路の存在においては、「移動経路の確保」及び「照明の漏れ出しの抑制」を実施することにより、環境影響のできる限り回避又は低減を図ります。なお、猛禽類の「オオタカ」については、環境保全措置の内容をより詳細なものにするため、事後調査を実施してより適切に環境影響の回避又は低減を図り、予測し得ない影響が生じる場合は別途対策を講じます。

このことから、環境影響は事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価します。